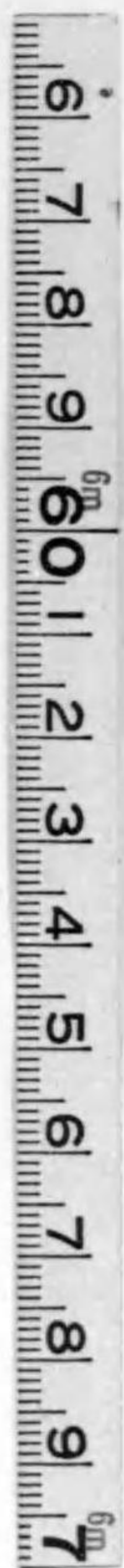


142
306

大 正
二 年 度

神奈川縣水產試驗場報告書

神奈川縣水產試驗場



始





大正 神奈川縣水産試驗場報告

試驗及調查

撈部

鯉鮪沖取網試驗

Table of contents for the fishing section, listing items like '一、試驗ノ要旨', '二、試驗ノ組織', '三、漁具ノ構成', etc., with corresponding page numbers.

目次

大正 4. 20 内交

Main table of contents for the report, listing various sections and their page numbers, including '一、行', '二、行', etc.

一三、漁獲高明細表	二一頁
一四、試驗成績並將來ノ希望	二三頁

瓢網試驗

一、試驗ノ要旨	二九頁
二、試驗ノ場所 附試驗場所圖	二九頁
三、試驗ノ組織	三〇頁
四、漁具ノ構成 附瓢網敷設圖	三一頁
五、試驗方法	三二頁
六、試驗日誌	三二頁
七、試驗ノ結果並將來ノ希望	三四頁

櫻蝦漁場調査試驗

一、試驗ノ要旨	四〇頁
二、試驗ニ關スル調査	四〇頁
三、試驗方法	四二頁
四、試驗ノ成績 附櫻蝦網構造及使網位置圖	四二頁

集魚燈試驗

一、試驗ノ要旨	四六頁
---------	-----

造部

鯉節製造傳習

一、要旨	五三頁
二、成績	五三頁
二、試驗方法	四六頁
三、試驗用集魚燈	四六頁
四、試驗ノ成績	四七頁
五、集魚燈ノ構造等ニ就テ	五一頁

燻製鯽及アンチチビ製造指導

一、燻製鯽	五四頁
二、アンチチビ製造指導	五四頁

殖部

鹹水養殖試驗

一、要旨	五五頁
二、試驗池ノ位置及地勢	五五頁
三、面積及建築物	五五頁
四、試驗池概況	五六頁

五、車蝦蕃養	五六頁
六、かれい	五九頁
七、あなご	六〇頁
八、かいづ、せいご	六二頁
九、大正二年度観測表摘要	六三頁

餌鱈蕃養試験

一、設 備	七四頁
二、試験ノ成績	七六頁
三、鎌倉郡水産會囑託試験	七七頁
四、其 設 備	七七頁
五、試験ノ成績	七八頁

漁業基本調査

一、表層浮游生物査定表	七九頁
二、海洋観測表	八〇頁

大正二年度鯉鮪沖取網試験

第一章 試験ノ要旨

本場ハ大正元年六月下旬ヨリ八月下旬ニ亘リ相摸海ニ於テ鯉鮪沖取網試験ヲ施行シ其成績ハ已ニ之ヲ報告セシカ如シ而シテ其結果ニヨリ本漁業ハ將來最モ有望ナルモ尙大ニ改良ス可キ點多カルヲ認メタルヲ以テ二年度ニ於テハ網具ノ重量ヲ輕減シ使用ノ簡便漁獲ノ増加ヲ計リ改良漁船ヲ建造シ漕行ノ快速ヲ期シ巻揚機ヲ取付ケ鐵網巻揚ノ迅速ヲ圖リ以テ其ノ効果ヲ一層確實ナラシメンコトヲ期セリ

又相摸海ニ於テ鯉鮪ハ例年五月ヨリ來游スルモ其ノ初期ニ於テハ魚群概ネ稍遠キ沖合ニ在ルヲ以テ舊來ノ揚網漁船出漁セス然レトモ此種比較的大規模ノ沿岸漁業ハ漁期ヲ延長スルハ漁業經濟上必要欠ク可ラサルヲ以テ試験期日ヲ早メタリ

第二章 試験ノ組織

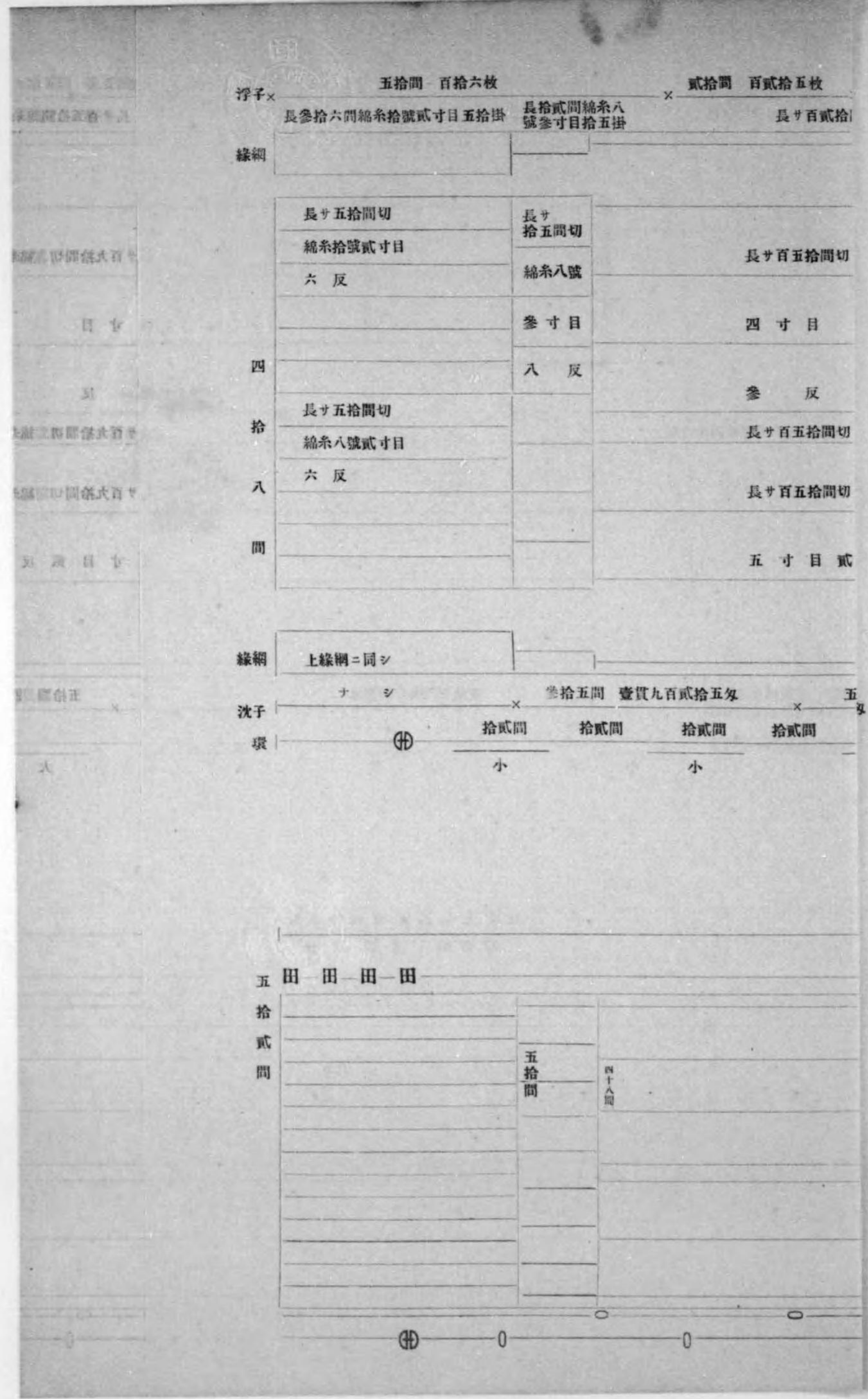
- 一、前年度ト同シク農商務省並水産講習所ト聯絡ヲ保チ試験施行セリ
- 一、本場ハ漁具漁船ヲ提供シ本場監督ノ下ニ事業ノ經營ヲ小田原町石黒清次郎ニ囑託セリ
- 一、漁業ニ關スル指揮ハ農商務省ヨリ特ニ出張セル技師下田奎一氏ニ之ヲ委任セリ
- 一、水産講習所ハ本試験ノ爲ニ試験ノ當初ヨリ八月十五日迄七號艇(石油發動機附)ヲ派遣セラレタリ
- 一、八月十五日以後ハ七號艇ニ代リ福吉丸(十九噸石油發動機附)ヲ借入レ使用セリ

第三章 漁具ノ構成

網具ハ本年度試験ノ要旨ニ則リ改メラレタル點ノ概要ヲ新舊對照シテ表記スレハ如左

重	環	浮子	網魚	浮出	同袖	同袖	同魚	網魚	部
量		子	出	子	網	網	取	取	分
		沈	來	來	下	上	脇	地	
		子	取	方	部	部			
		子	上	長					
		子	深	上					
		子	期	期					
八四五貫五〇〇「コイルター」ヲ施セル網地	小大 四六	但大 魚差 取取 部部 沈沈 子子 ヲヲ 省省 キキ 里里 量量 約約 三三 貫貫 ヲヲ 減減 スス	五二間	二六五間	六號十掛一五〇間二反 六號五寸目一〇〇掛一五〇間二反 四號五寸目一〇〇掛一九〇間切二反(外方)	六號四寸目一〇〇掛一九〇間切三分(内方) 四號五寸目一〇〇掛一九〇間切三分(外方)	八號綿糸三寸目網十五間切 八反三寸目 十二間切二反	一〇號綿糸二寸目網五〇間切六反 一〇號同五〇間切六反 八號同五〇間切二反	新
九七五、五〇〇	小大 四八		五〇間	二五〇間	六號綿糸五寸目三一六間切一反	六號綿糸四寸目三一六間切四反七分	同	一〇號同五〇間切 八號三寸目十五掛 間切 一二反 二反(綠網)	舊

猶網具各部ノ詳細ヲ示セハ如左
但前年度品ニテ用足ル部分ハ價格重量共同年度調ニヨル



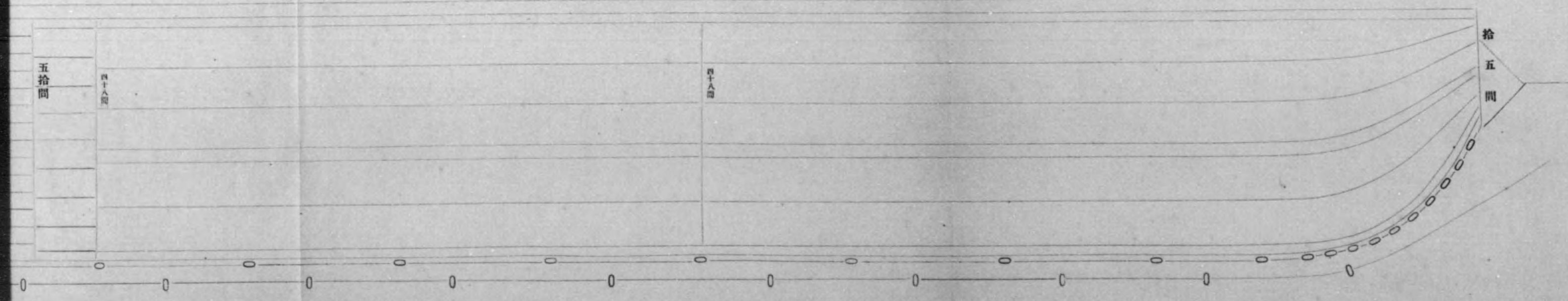
長拾貳間 總糸八號 參寸目拾五掛 × 貳拾間 百貳拾五枚 × 參拾間 百五拾枚 × 四拾間 百六拾七枚 × 參拾間 百八枚 × 九拾五間 參百四拾枚 × 總計千參百〇六枚

長拾五間切	長拾五間切	長拾五間切	長拾五間切
總糸八號	長拾五間切 總糸六號	長拾五間切 總糸六號	長拾九間切 總糸四號
參寸目	四寸目	四寸目	四寸目
八反	參反	參反	參反
	長拾五間切 總糸六號四寸目參拾掛壹反	長拾五間切 總糸六號四寸目參拾掛壹反	長拾九間切 總糸四號四寸目參拾掛壹反
	長拾五間切 總糸六號	長拾五間切 總糸六號	長拾九間切 總糸四號
	五寸目貳反	五寸目貳反	五寸目貳反

拾貳間 壹拾五間 壹貫九百貳拾五匁 × 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 × 五拾間 參貫貳百匁 × 五拾間 參貫六百匁 × 五拾間 四貫匁 × 五拾間 四貫五百匁 × 總計拾七貫貳百貳拾五匁

小 小 小 小 大 大 大 大 大 大 大 大

仕立上全長貳百六拾五間
 縮結約 三割三分



猶網具各部ノ詳細ヲ示セハ如左
 但前年度品ニテ用足ル部分ハ價格重量共同年度調ニヨル

重	八四五貫五〇〇「コールド」ヲ施セル網地
量	九七五・五〇〇

浮子× 五拾間 百拾六枚 × 貳拾間 百貳拾五枚 × 參拾間 百五拾枚 × 四拾間 百六拾七枚 × 參拾間 百八枚 × 九拾五間 參百四拾枚

長參拾六間 綿糸拾貳寸目 五拾掛 長拾貳間 綿糸八號 參寸目 拾五掛 長ヲ百貳拾間 綿糸八號 四寸目 拾掛 長ヲ百五拾間 綿糸六號 四寸目 拾掛

四 拾 八 間	長ヲ五拾間切 綿糸拾貳寸目 六反	長ヲ拾五間切 綿糸八號 參寸目 八反	長ヲ百五拾間切 綿糸六號 四寸目 參反	長ヲ百九拾間切 綿糸四號 四寸目 參反
	長ヲ五拾間切 綿糸八號 貳寸目 六反		長ヲ百五拾間切 綿糸六號 四寸目 參拾掛壹反 長ヲ百五拾間切 綿糸六號 五寸目 貳反	長ヲ百九拾間切 綿糸四號 四寸目 參拾掛壹反 長ヲ百九拾間切 綿糸四號 五寸目 貳反

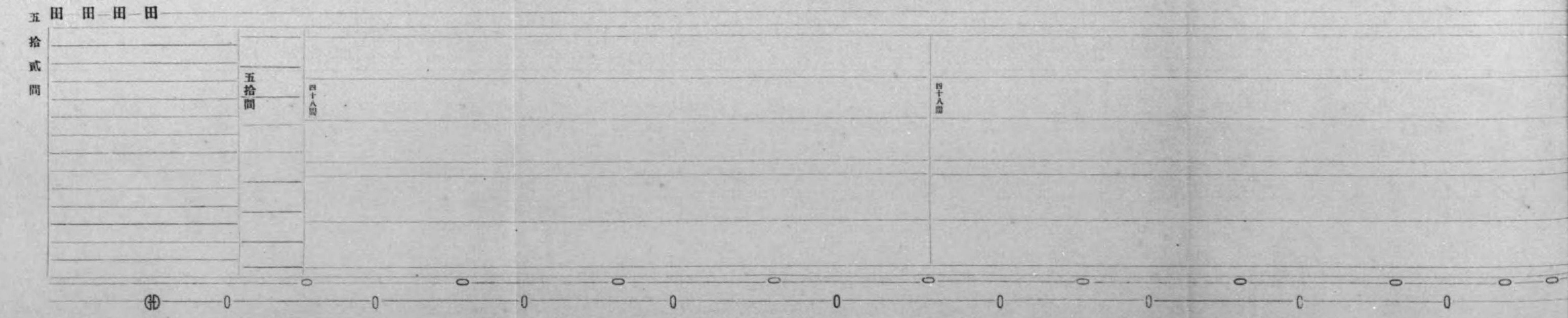
線網 上線網=同シ

沈子環 ナ シ × 參拾五間 壹貫九百貳拾五匁 × 五拾間 參貫貳百匁 × 五拾間 參貫六百匁 × 五拾間 四貫匁 × 五拾間 四貫五百匁

拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間 拾貳間

小 小 小 小 大 大 大 大 大

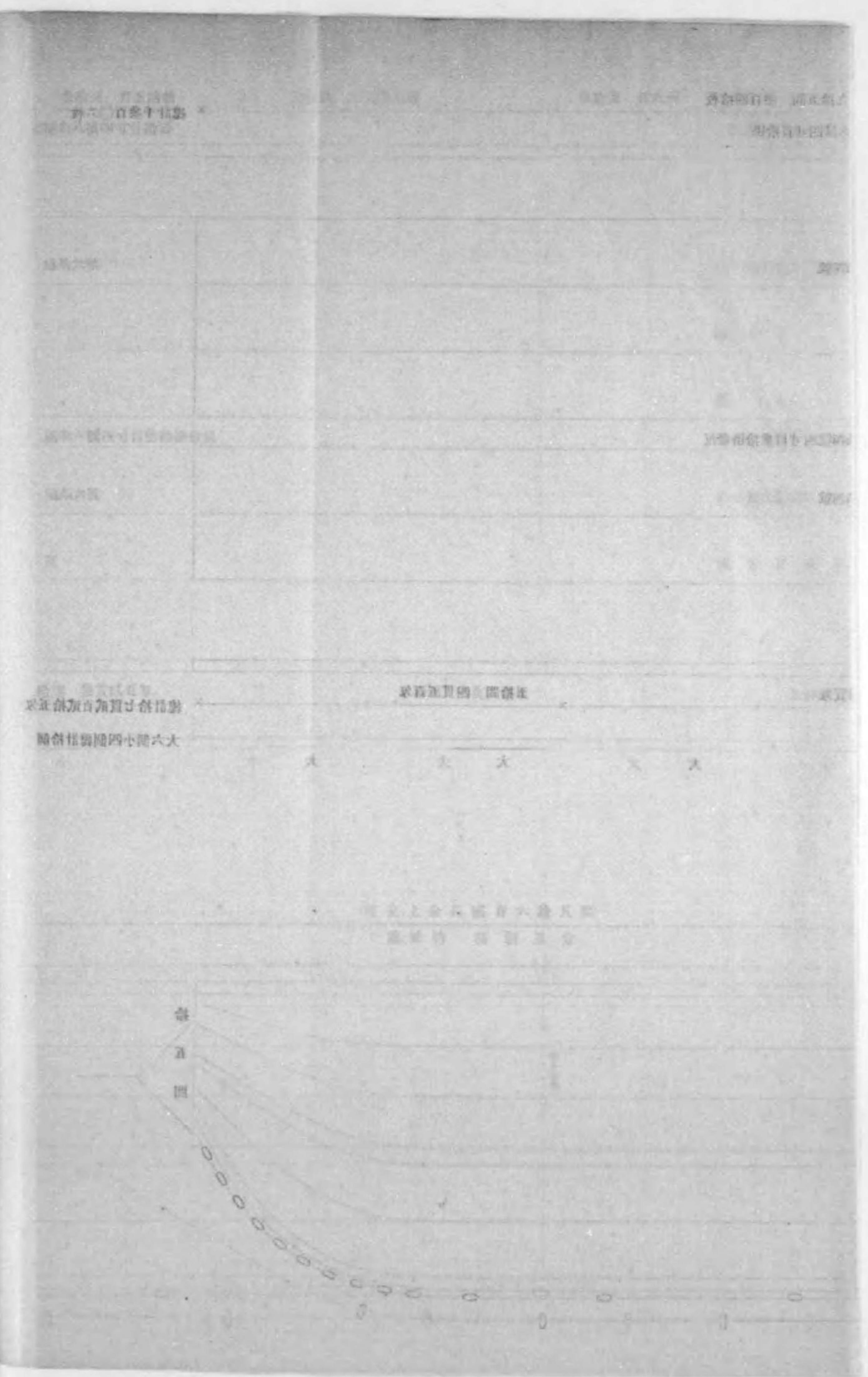
仕立上全長貳百六拾五間
縮結約 三割三分



大正二年度産物採納試験

名	稱	符號	仕	樣	片側數量	兩側數量	價	格	重
魚身	取網	イ	二〇番手一〇號綿糸二寸目		五〇間六反	六〇〇	三二五	〇〇	七二五
魚同	取	ロ	八號綿糸		五〇間六反	六〇〇	三二五	〇〇	七二五
魚同	取	ハ	八號綿糸三寸目		一五間八反	二四〇	八四五	〇〇	二九八
魚同	取	ニ	六號綿糸四寸目		一五〇間三反	九〇〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ホ	三〇掛		一五〇間一反	三〇〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ヘ	一〇號綿糸五寸目		一九〇間二反	六〇〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ト	四號綿糸四寸目		一九〇間三反	一一四〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	チ	同上		一九〇間一反	三八〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	リ	四號綿糸五寸目		一九〇間二反	七六〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ル	一〇號綿糸二寸目		三六間二反	一四四	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ワ	八號綿糸三寸目		一二間二反	四八	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	ヰ	八號綿糸四寸目		一二間二反	四八	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	カ	一〇號綿糸四寸目		一五〇間二反	六〇〇	二四〇	〇〇	二九八
魚同	取	タ	六號綿糸四寸目		一五〇間二反	六〇〇	二四〇	〇〇	二九八
浮子			コルク徑三寸五分厚二寸四分		一三〇六	二六一二	一個	三〇四	一四〇
沈子			鉛圓筒形		一七貫二五	三四貫四五〇	一個	二七五	三四〇
環			亞鉛鍍鐵 小內徑二寸五分		小大	一八二	一三〇	〇〇	一〇五
撚戻			亞鉛鍍鐵 大內徑二寸三分		一	二	〇〇	〇〇	〇〇

三



品目	並	摘要	員	數	價	格	重	量	
浮子網	徑三分棕柁網		二本	八〇間	二、二八三	三〇〇	七〇九	八〇〇	
沈子網	徑三分五厘マニラロープ		一本	一、〇六〇	六〇一	四二二	二一〇	〇〇〇	
環網	徑七分タロープ左右燃各一本		一本	六三〇	一九〇	六〇一	三三三	三九五	
手網	徑五分棕柁網		一本	一一〇	六〇一	一〇〇	一六五	〇〇〇	
雜用系	四、六、八、一〇、二五號綿糸		一本	一一〇	平均一貫 三二七	三三五	九〇〇	〇〇〇	
計					二、二八三	三〇〇	七〇九	八〇〇	
染網	品目	並	摘要	員	數	價	格	重	量
同	コールター			六九斗	七五把	五五〇	二二八	〇〇〇	三三四
同	松薪コールター煮沸用			七八人	三七八	二四〇	七〇〇	〇〇〇	四五〇
同	網染乾取入人夫			二俵	二一五	二〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
同	食塩乾燥網地積置用			一〇枚	二五〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
同	菰同上用			一臺	四〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
同	染網機修繕費(壓搾機原價約四十圓)			一臺	二五〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
同	雜器具損料			八〇人	一一二	四四五	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
計									
網仕立	人夫			八〇人	一一二	四四五	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
網具附屬	分銅鉛			二本	八〇間	一一〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
全部前年度品	分銅網徑五分マニラロープ			二本	八〇間	一一〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

染網

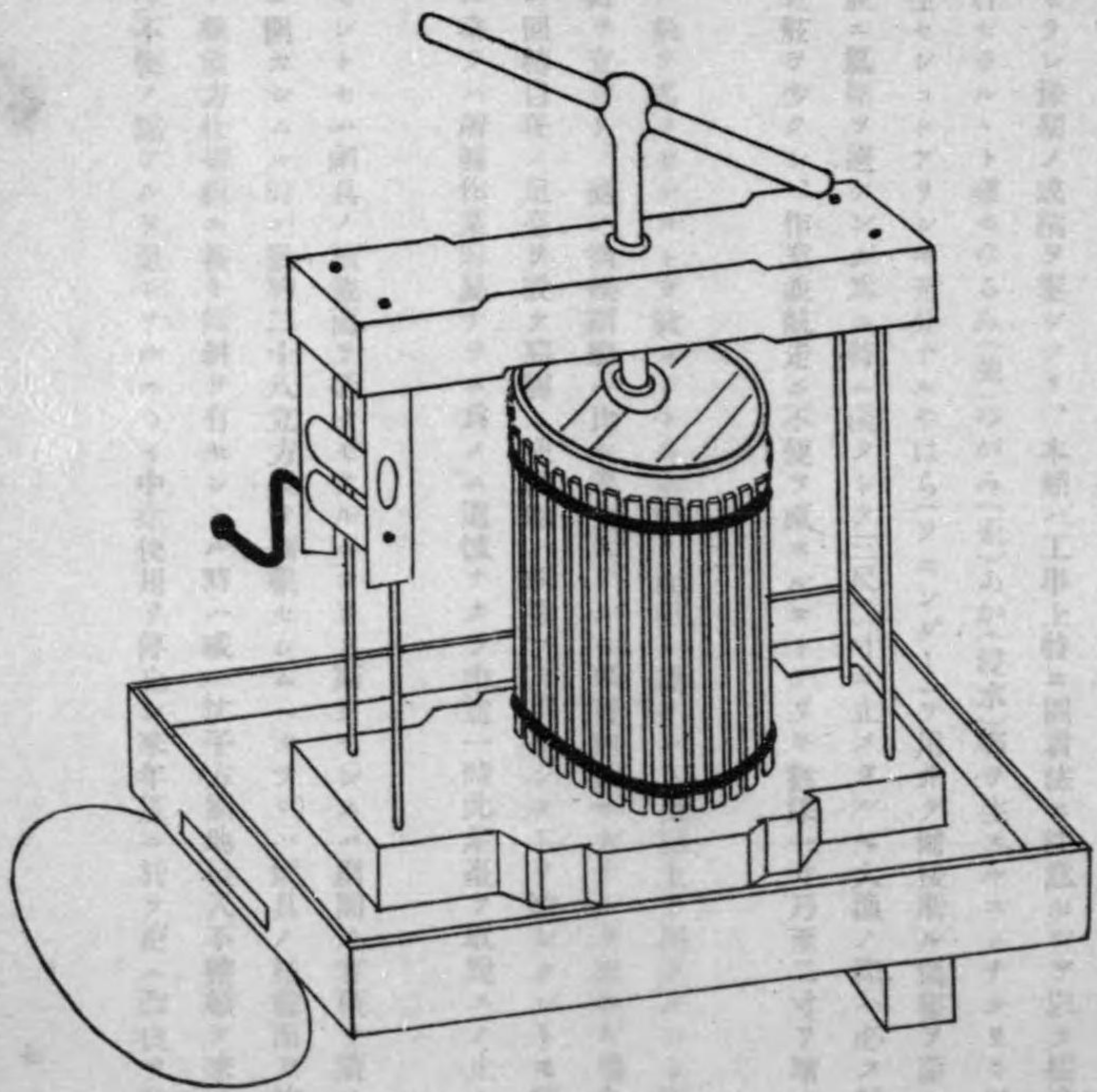
同	滑車八吋スナッチ			八	五六	〇〇〇	一一	四一〇
同	同 シングル			二	一〇	七八九	〇〇	二六〇
同	同 ダブル			二	一一	五二七	〇〇	九四〇
計								
副漁具	卷揚機(環網巻揚用)			二臺	四二〇	〇〇〇	二一	四〇〇
同	右漁船へ据付費			二臺	六三	四四五	二九	四〇〇
同	ダビット 鐵製徑三寸高三尺三寸(原價三、〇〇)腕長一尺五寸ニテ此改造代		中大 萬力	二本	四二	八〇〇	三六	八〇〇
同	魚鈎			一〇本	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇
同	鉋			四本	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇
同	網針			三	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇
同	網針			二〇	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇
同	槌節打殺用			六	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇
同	すばり浮子網曳張用			四	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇

前年度試験ニ於テ染料「コールター」ノ効力偉大ナルヲ確認シタルモ染網方法不備ナリシヲ以テ本年度ハ左記ノ如キ設備方法ヲ施セリ

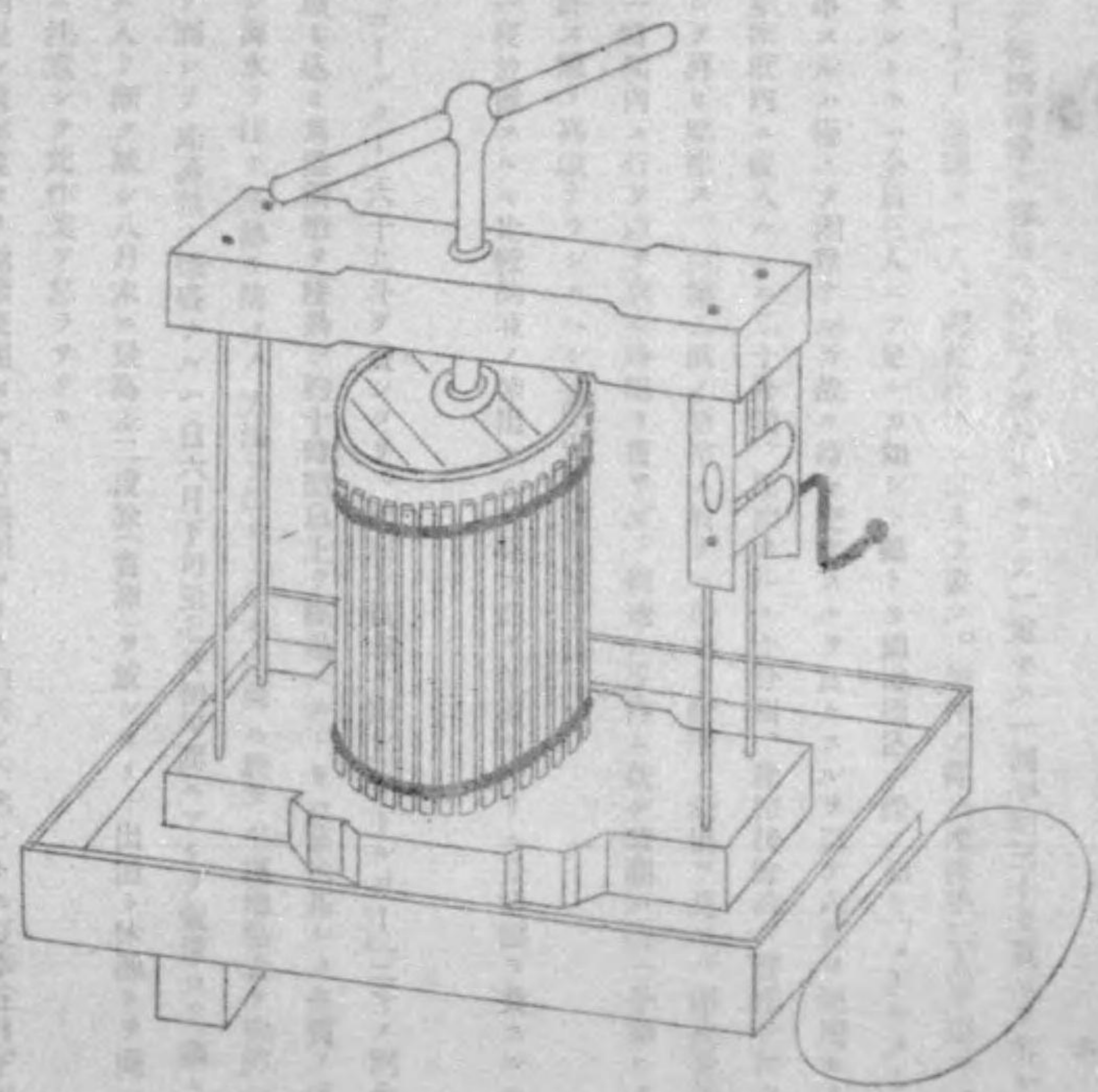
「コールター」ヲ煮沸セル釜ニ浸セル網地ヲ引キ揚ケ「ローラー」ヲ通シテ荒搾ヲ爲シ壓搾框ニ入レテ壓搾シ、浸出セル液汁ヲ「流シ」ニ受ケ、「流シ」ノ口ヲ釜上ニ開キ網地ヨリ浸出セル液汁ハ再ヒ釜ニ復シテ不斷必要ノ温度ニ保タル、ノ設備トス

- 一、框ノ容積ハ十二、四立方尺ニシテ毎回網地ノ容量ハ網地ノ都合ニヨリテ一定セス一回平均三十五貫ヲ容レタリ
- 一、手間ハ火焚及釜入ニ一人、「ローラー」運轉ニ一人、網地繰込ニ二人ヲ要ス。壓搾ノ際ハ壓搾手二人ヲ要ス。網地取出ノ際ハ同シク二人ヲ要ス。即節約スルトキハ全員三人ニテ足ルカ如シト雖トモ網地繰込ノ際ノ如キ「コールター」ノ熱高クシテ同一人連續シテ同一作業ニ從事スルハ極メテ困難ナルカ故ニ時々交代スルヲ良トスルヲ以テ六人ヲ使用セリ
- 一、網地三十五貫乃至四十貫ヲ壓搾框内ニ繰入ル、ニ二十分間、壓搾スルニ十分間、壓搾後餘液ノ浸出ヲ待ツ爲ニ框内網地ヲ其儘積ミ置ク事三十分間ニシテ再ヒ壓搾ス。但第二回ノ壓搾ニ於テハ殆ント餘液ノ浸出ヲ見ス。而火焚釜入等ハ網地ヲ框内ニ繰入ル、作業ト殆ト同一時間内ニ行ヲ以テ別ニ時間ヲ費サズ。網地ノ釜内ニ在ル時間ハ約三分間ニテ充分ナルヘシ
- 一、「コールター」ノ熱度ハ作業上許ス限リ高温ナラシムヘシ、浸出容易ナリトス。
- 一、網地ヲ壓搾框内ニ壓搾セル儘一夜放置スルモ比較的液ノ搾出セルヲ見ス即チ積置ニ餘リニ長時間ヲ費スルモ益ナキヲ知ルヘシ
- 一、網地約二百三十貫ヲ染ムルニ「コールター」六十九斗ヲ費シタリ。網地十貫々ニ對シ「コールター」三斗ノ割合ナリ
- 一、海中ニ使用セル網ヲ船艙内ニ積ミ込ミ其儘網船ヲ陸揚シ約十時間以上ヲ經過スルトキハ蒸熱甚シク糸質ノ保存ニ惡影響ヲ及スヘキヲ以テ艙外ニ繰リ出シ海水ヲ注キ蒸熱ヲ防クノ方法ヲ採レリ是亦一面ニ於テハ網地粘着ヲ豫防シ出漁網具使用ノ際作業ノ容易ヲ計ルヲ得タリ而シテ此蒸熱ノ熾盛ナルハ自六月下旬至七月初旬間ニアリテ氣温ヨリ高キコト殆ト五度(推測)ニ及フコトアリ、八月ニ入り漸ク減シ八月末ニ最高差二度餘(實測)ヲ感シタリ。出漁ト休漁トヲ問ハス網地ノ蒸熱ト粘着トヲ豫防スル爲メニ常ニ注意シテ此作業ヲ怠ラザリキ
- 一、網地ハ魚取部ニ於テ染料最モ剝脱シ前年度ヨリ繼續使用セル内方袖網ヨリモ猶甚シ。然レトモ夏季五月下旬ヨリ八月末迄三ヶ月餘ノ間一回ノ日乾ヲ爲サザルニ糸質腐脆セス張力減退セサルヲ見ルトキハ如何ニ「コールター」ノ効力強大ナルカヲ證シテ餘アリト謂フヘシ
- 一、海水特ニ清澄ナルトキハ能ク數尋ノ深ニ在ル網地ヲ肉眼ニテ透視シ得ルト雖モ他ノ茶褐色ノ染料ニ比シ際立タサルカ如ク

染網壓搾裝置



柴 附 型 製 器



其他水切ノ良好、沈降力ノ増大等ハ前年度報告セシカ如シ

第四章 漁船ノ成績

成績 (漁船仕様書大正元年度報告書記載)

- 一、本船ハ輕裝快速ヲ旨トシ設計セラレ豫期ノ成績ヲ奏シタリ、本船ハ工事上特ニ固着法ニ注意セシヲ以テ從漁期間不斷高速力ニ引曳セラレ又舳接ノ儘漕行セラル、ト雖モゆるみ(弛)ゆがみ(歪)あか(浸水)等ヲ生スルコトナカリキ但波浪荒ル、ノ日舳接シ棚板ニ小ナル裂傷ヲ生セシコトアリシモ充分ナルやはら(フエンダー)ヲ用井テ爾後斯ル傷害ヲ蒙リシコトナシ
- 一、本船ノ深ハ網具使用上ノ便宜並ニ風壓ヲ避ケンガ爲ニ特ニ淺クシテ三尺二寸ニ止メタルモ大漁ノ際ハ必ス船内ニ溜水多キヲ免レス且漁獲物積載ノ爲ニ乾舷ヲ少クシ、作業並航走ニ不便ヲ感スルコトアリキ猶深一寸乃至二寸ヲ増ス時ハ或ハ便宜ヲ得ヘシ
- 一、漕艇速力ノ大ヲ計ル爲可成艇ノ數ヲ多クセンコトヲ欲スレトモ本船ノ配置ニ於テハ八挺以上ヲ用フルコト困難ナルカ如シ本年試驗中投網ノ際ハ普通七挺ヲ立タリ。他ノ揚網艇船ニ比シ速力大ナルモ事實猶更ニ大ナルヲ求ムル場合多シ全網ヲ投スルニ七八分間ヲ要ス。網間ハ回轉自在ノ足臺ヲ設テ脇艇(逆網船ハ前艇)ヲ用キンコトヲ欲シタレトモ積載セラレタル網具ハ舷上尺餘ニ高リ此足臺ニ乗テハ漕艇作業容易ナラス爲メニ遺憾ナカラ中途一時此足臺ヲ取脱スノ止ムナキニ出テタリ
- 今此足臺ヲ利用シ脇艇ヲ活用セントセハ網具ノ積載面ヲ低クセサルヘカラス斯クセンニハ網間ノ容積ヲ廣メサルヘカラス網間ノ仕切板ノ下方ヲ前後方ニ開カシムル時ハ猶約二十八立方尺ヲ擴張セシムヘクサレハ網具ノ積載面ヲ約一尺低メ得ルヲ以テ漕艇ニ支障ナカルヘシト雖前方仕切板ニ甚キ傾斜ヲ有セシムル時ハ或ハ沈子方網地積入不整頓ヲ來サザルナキカス
- 一、「ローラー」モ本年度實驗上多少不便ノ點アルヲ免レサルニヨリ中途使用ヲ停止シ來年度ニ於テ更ニ改良ヲ加ヘ使用セントス

大正二年度經銷沖取網試驗

一、本巻場機ノ特徴ハ

(イ) 形態輕小構造簡短ニシテ小漁船ノ甲板上任意ノ箇所ニ据付ケ得ルコト
 (ロ) 多數人力ヲ有効ニ且平易ニ合力セシメ得ルコト
 (ハ) 速力ノ變化ハ僅ニ綱ヲ上下ニ動スコトニ依リテ極メテ簡短ニ行ヒ得ルコト
 (ニ) 本船仕様書ニ記載セル如ク垢間ノ中央ニ据付ケシカ形態網小ナルヲ以テ他ノ作業ヲ妨クルコトナシ
 本機ヲ運轉スルニ一臺ニ付八人ヲ働カシムルニ得、加働柄ハ方向循環的(或ハ順序的ト云フカ)ニ附着セルヲ以テ運轉ニ間歇ナク極メテ圓滑ニシテ綱ヲ損耗セシムルコトモ極メテ少シ
 網操揚ノ初ハ綱ヲ大輪ニカケ中途小輪ニ移ス、其ノ方法ハ本機運轉中ト雖モ綱ヲ僅ニ持チ上ケ容易ニ大輪ニ導キ得ルナリ
 一、表ヨリ第二ノ間ヲ水張甲板トセス實板張トセシハ漁獲物投入ノ便ヲ計リ及積入後ノ漁獲物ノ蒸熱ヲ避ケンカ爲ナリシモ網船船接ノ儘航走スル場合舷側ニ衝動スル波沫ノ浸入スル部分ハ恰モ此第二ノ間ニシテ屢々之ヲ排出セサルヘカラサルノ煩勞ヲ免レサリキ
 一、帆索ハ「ラツガー」型ニシテ前帆ノミトセシニ操帆簡易帆能良好ナリシモ帆面積約二百六十平方尺ハ猶約二割ヲ増大スルノ餘裕アルヲ告ケシカ如シ

漁船建造費

名目	仕	樣	員數	價	格
船體	肩幅七尺五寸		二艘	二〇八	〇〇
舵	用材檣床下長八尺		二艘	四一七	〇〇
櫓	櫓杉長二丈五尺 桁杉長一丈四尺及一丈五尺		同	一八九	〇〇
				九四〇	〇〇

金具	具	員數	價	格
小緣「ローラー」	附屬足臺附屬	一	五六	〇〇
帆	ナオンス帆布製約二百六十平方尺附屬品共	二	一八五	〇〇
艇	幹長 大一丈五尺五寸 中一丈四尺五寸 小一丈三尺五寸	一	平均	〇〇
計				六八一八〇

第五章 試驗方法

一、本試験ニ要セシ人員ハ

- 七號艇 (ドーリー附屬) 指揮員 一 監督員 一 水夫 二 機關士 一
- 網船二艘 船頭 二 漁夫 三二 内小人 二
- 手船一艘 船頭 一 漁夫 五 内小人 三

外ニ漁業練習視察員時々數名乗船

一、漁業ノ根據地ハ前年度報告ノ如ク小田原町ニシテ網船手船ハ稀ニ錨泊セシモ多クノ場合陸岸ニ曳揚ケタリ、此作業ハ時間ト努力トヲ冗費スルコト尠ラサルモ漁夫ノ休養並ニ網具ノ放冷ノ爲ニ止ヲ得サルコトトス
 其他各般ノ任務漁夫ノ配置漁具使用法等前年度報告ニ異ラス

一、漁場ニ於テ兩網船ヲ單縦列ニ曳行スル時ハ左ノ欠點アリ

- A 第一船ノ曳綱ハ網船二艘手船一艘計三艘ノ重ヲ受クルコト
- B 實發的ノ魚群ニ遭遇シタル場合網船ヲ舫ハシムルニ曳船ヲ停止シ第二船ノ鰲漕シテ第一船ノ直側ニ來ルヲ待ツニ少クトモ二三分間ヲ費スコト

故ニ網船ヲ複横列ニシ各船一條ノ曳綱ニヨリ兩船間適當ノ間隔ヲ持シテ航行セリ而手船ハ孰カノ網船ニ隨從セリ

兩船ヲ舫接シタル儘長距離ヲ航行スルハ不利益ナリ何トナレハ兩舷間ニ押ル、水ハ船ノ推進ニ甚シキ抵抗ヲナシ兩舷間ニ激スル湍流ハ舷上ヲ越テ浸入スレハナリ

左記ノ場合ハ網船ヲ急速ニ引曳スヘカラサルモノトシテ注意セリ

A 復横列ニ引曳シ始ントスルトキ未タ兩舷並列セサル場合

B 曳網ノ施緩セル場合

C 網船ノ船首方吃水深キ場合

一、揚網中網ノ中央部網船ニ接近シ網型ヲ壓潰スルノ傾向多シ之ヲ防ク爲網船ヲ緩速力ニ外方ニ曳ケリ。多クノ場合ニ於テ此作業ハ必要ナリ、又網形ヲ整理スル爲ニ或ハ手船ドーリー或ハ稀ニ曳船ヲ以テ網ノ内方ニ陥入スル部分ニ細網ヲ附シ曳出スル作業ハ殆ト使網毎ニ一回ダモ欠キシコトナカリキ

一、漁期ニ關シテ兩年度ノ本試驗及從來揚網漁業ノ結果ヨリ推考スルニ相摸灣内ニ魚群來游ノ最モ多キハ例年六月中旬ヨリ八月上旬迄ナルカカ如シ然レトモ大島近海、三崎沖合房州近海ハ下田沖合ハ右期節以外ニ於テモ鯉群ノ大ナルモノ多シ。相摸灣外ニ於テ本年度漁獲高ハ擧テ數フルニ足ルモノナシト雖モ將來猶試驗スヘキ價値アルモノト信ス

第六章 試驗日誌

五月二十九日七號艇東京出帆翌三十日網船出初八月三十日出終翌三十一日網船ヲ以テ本年度試驗ノ終ヲ告グ(七號艇機關小破 捐修繕ノ爲小田原延着爲ニ網船ハ五月三十日、三十一日ノ兩日出漁セシモ其後六月四日迄七號艇ノ回航ヲ待テリ)

Table with columns: 月別, 全日數, 出漁日數, 風波ノ爲出漁セサル日數, 降雨ノ爲出漁セサル日數, 其他事故ノ爲出漁セサル日數, 全日數ニ對スル出漁日數ノ割合, 月別, 全日數, 出漁日數, 風波ノ爲出漁セサル日數, 降雨ノ爲出漁セサル日數, 其他事故ノ爲出漁セサル日數, 全日數ニ對スル出漁日數ノ割合

Table with columns: 計, 八, 九二, 六六, 一一, 五, 九, 七四

出漁セサル日ハ休日ニアラサル限リ網具或ハ船具ノ修繕手入ヲナスモ別ニ日誌ヲ掲ケス、左ニ出漁日誌ヲ掲ク、表中始業時ハ漁夫ノ出漁準備ニ着手スル時刻ニシテ終業時ハ漁夫ノ業ヲ了テ歸休セントスル時刻ナリ

出漁日誌

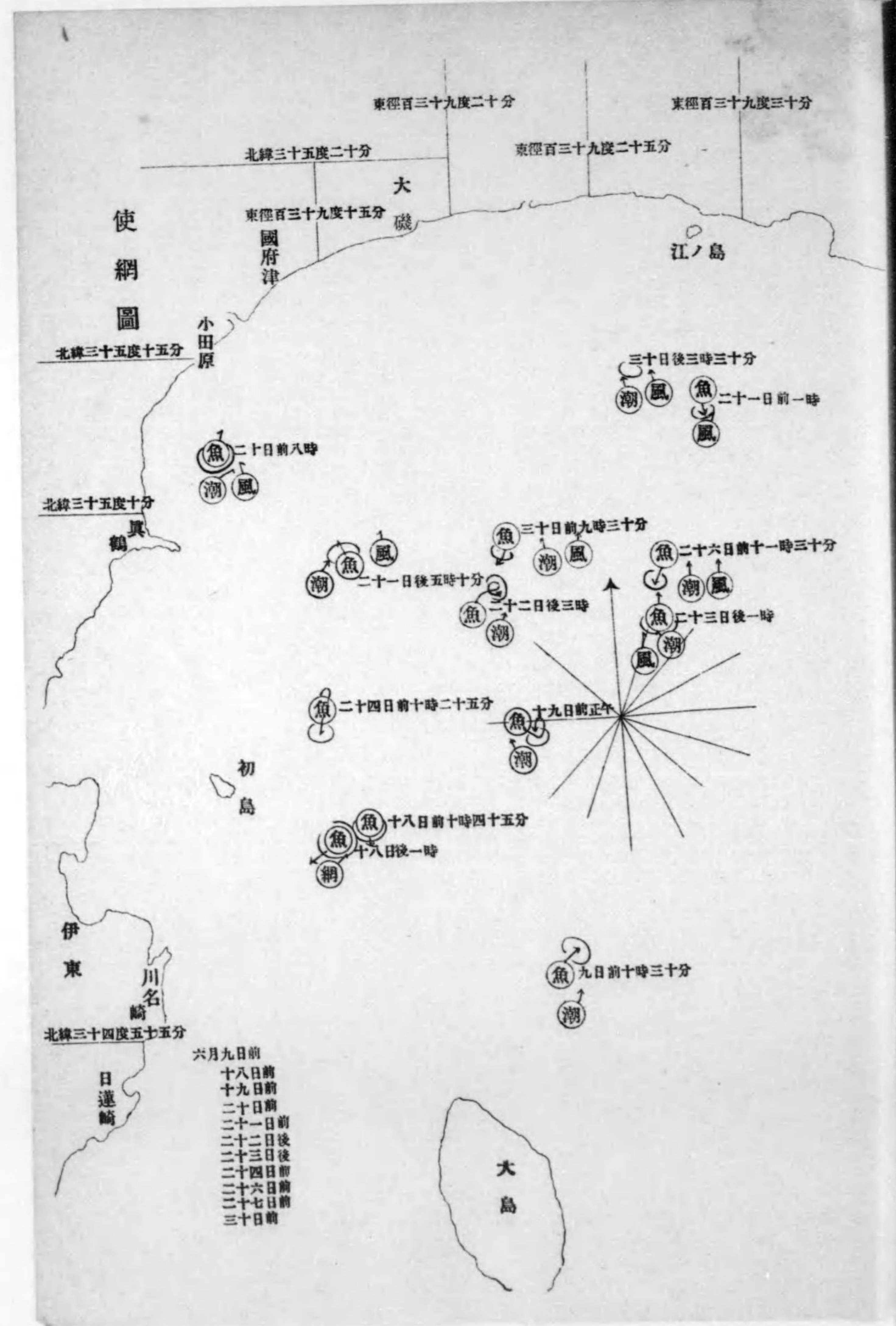
Main table with columns: 始業, 出漁海區, 使網回數, 記, 事, 海洋觀測時, 水温, 比重, 潮流, 波浪, 氣温, 風向, 風力, 天候

七	六	五	三	二	七	三〇	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
八、〇〇	七、三〇	七、〇〇	七、四〇	六、〇〇	七、四〇	七、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	八、〇〇	四、〇〇
小田原南方	初島北東	初島北東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東	初島南東
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使	鯨群アリトモ潜降速ニシテ使
後	後	正午	前	前	前	前	後	前	後	前	後	後	前	正午	前	前
一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
微南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南
快	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇

二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一三	一二	九	八
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
八、〇〇	六、一五	五、四〇	五、〇〇	四、五〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方	小田原南方
二	〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲	鯨群ニシテ網ヲ下スト二回ニ及ルヲ以テ網形不整遂ニ不獲
後	正午	正午	正午	前	前	前	後	後	正午	正午	正午	前
一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
微南	和南	強南	和南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南	軟南
快	晴	曇	微雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇

二六	二七	二八	二九	七、三〇	八、四	五	六	七	八	九	一〇
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
九、四三〇	八、三〇〇	四、二〇〇	四、三〇〇	七、四〇〇	五、三〇〇	五、〇〇〇	四、三〇〇	二、〇〇〇	八、二〇〇	四、三〇〇	五、三〇〇
小田原南東	小田原南東	眞鶴宮東	眞鶴宮東	大磯南東	大磯南東	小田原南東	小田原南東	須賀崎南東	須賀崎南東	須賀崎南東	須賀崎南東
三	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
午前七時及九時ノ兩回めじ群ニ投網シタレトモ不獲三度眞鶴ノ東ニ於テ鯉群ニ網シタレトモ不獲小瀬技師馬場君乗艇陸揚シテ再同方面めじ群多シ得ス此日大群ニ網シタレトモ朝めじ群ヲ網ス此外群ヲ見ル明治天皇祭ニ付下田技師新宅技手練習生休業謹慎ノ意ヲ表ス大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇	大磯南八湊ノ邊鮪群多シ今日ヨリ講習所製造科生徒二名宛乗艇
正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午
〇、二〇六	一、〇二五	一、〇二七	一、〇二八	一、〇二九	一、〇三〇	一、〇三一	一、〇三二	一、〇三三	一、〇三四	一、〇三五	一、〇三六
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南
曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇

一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	二〇	二一	二二	二四	二五	二九
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
五、〇〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	六、四〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	四、三〇〇	四、四〇〇	四、四〇〇	一、五〇〇	八、四〇〇	五、三〇〇
自小田原南東	自小田原南東	自眞鶴東	自眞鶴東	小田原南東	小田原南東	自眞鶴東	自眞鶴東	自眞鶴東	自眞鶴東	國府津南	小田原南東	自眞鶴東
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鯉めじヲ漁獲ス小笠原島廳技手新國氏十三日迄乗艇	はね又ハクちらつきノめじ群アリ米神前鮪群多シ	稀ニめじノ小群ヲ見ルノ概六日マテ乗艇	めじノ小群アリ揚網モ無漁	國府津沖ニめじ大磯沖ニ鯉めじアリ風力強午後一時歸原七號艇ハ館山ニ行キ講習所へ引渡シ代船福吉丸着原午後下田技師講習所ニテ漁業ノ講話ヲナス	めじはねアレトモ足早シ	鯉めじ浮沈不定使網ニ至ラス	國府津南ニ於テ鯉めじヲ漁獲ス(午後)	大磯方面魚群更ニナク午前午後兩回初島ノ北東約三湊ニ行キ鮪はねヲ見タリ	風強海況寒	海況淋シク雨サヘ來ルヲ以テ群アリ投網セシモ不獲	海況淋シク雨サヘ來ルヲ以テ群アリ投網セシモ不獲	潮色悪シク逆潮ナク海況淋シク眞鶴北東ニテ鮪ニ投網シタルモ不獲ゴベ氏乗艇
前	正午	正午	後	前	後	正午	正午	正午	正午	正午	正午	前
九、四三〇	二、九	二、九	〇、三二七	九、〇	〇、三二七	二、七、八	二、七、八	二、七、八	二、七、八	二、七、八	二、七、八	一、〇、〇、五、五
北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南	微南
曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇



大正二年度漁船沖取網試験

三〇前 五、四〇 自初島北々東
至國府津南

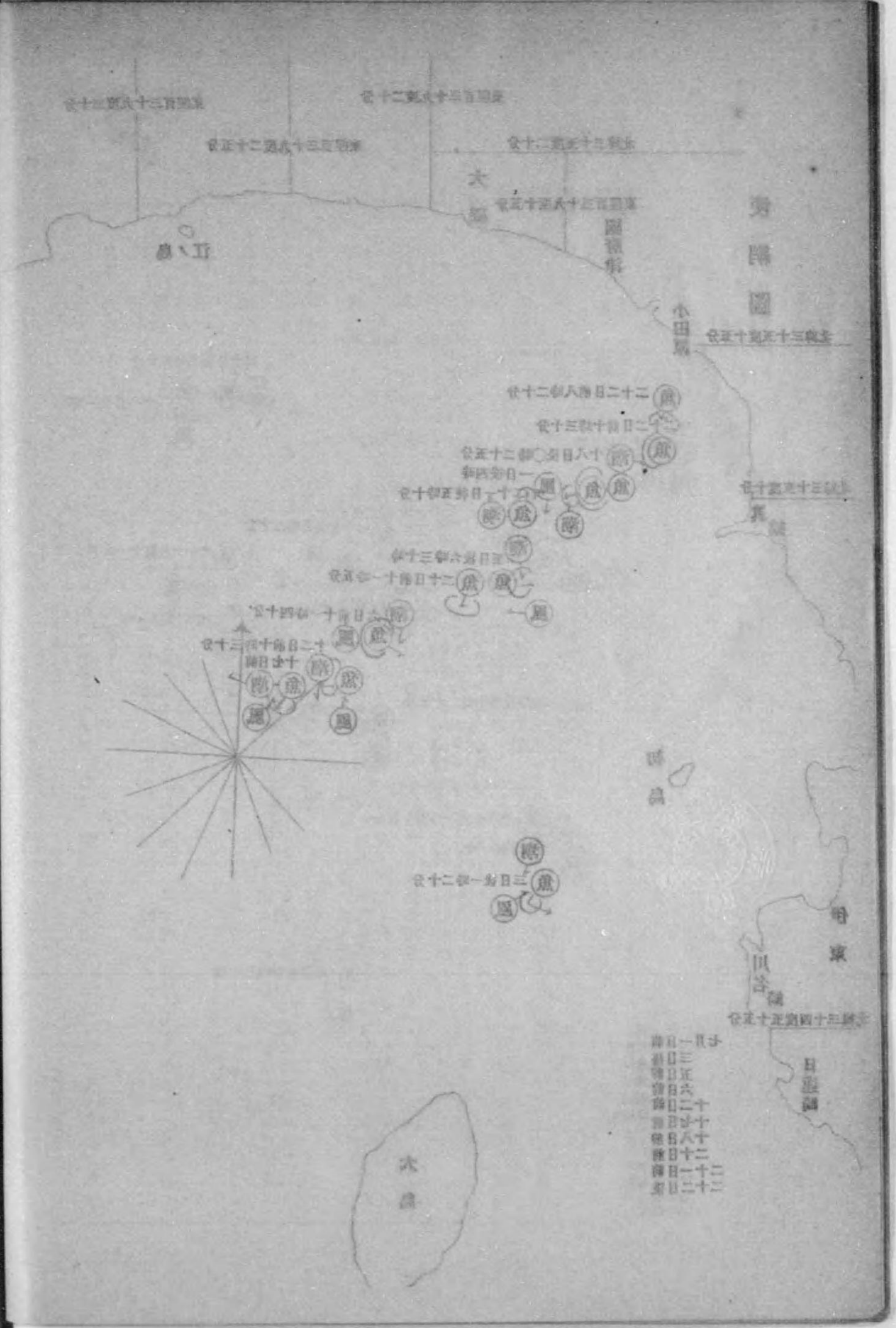
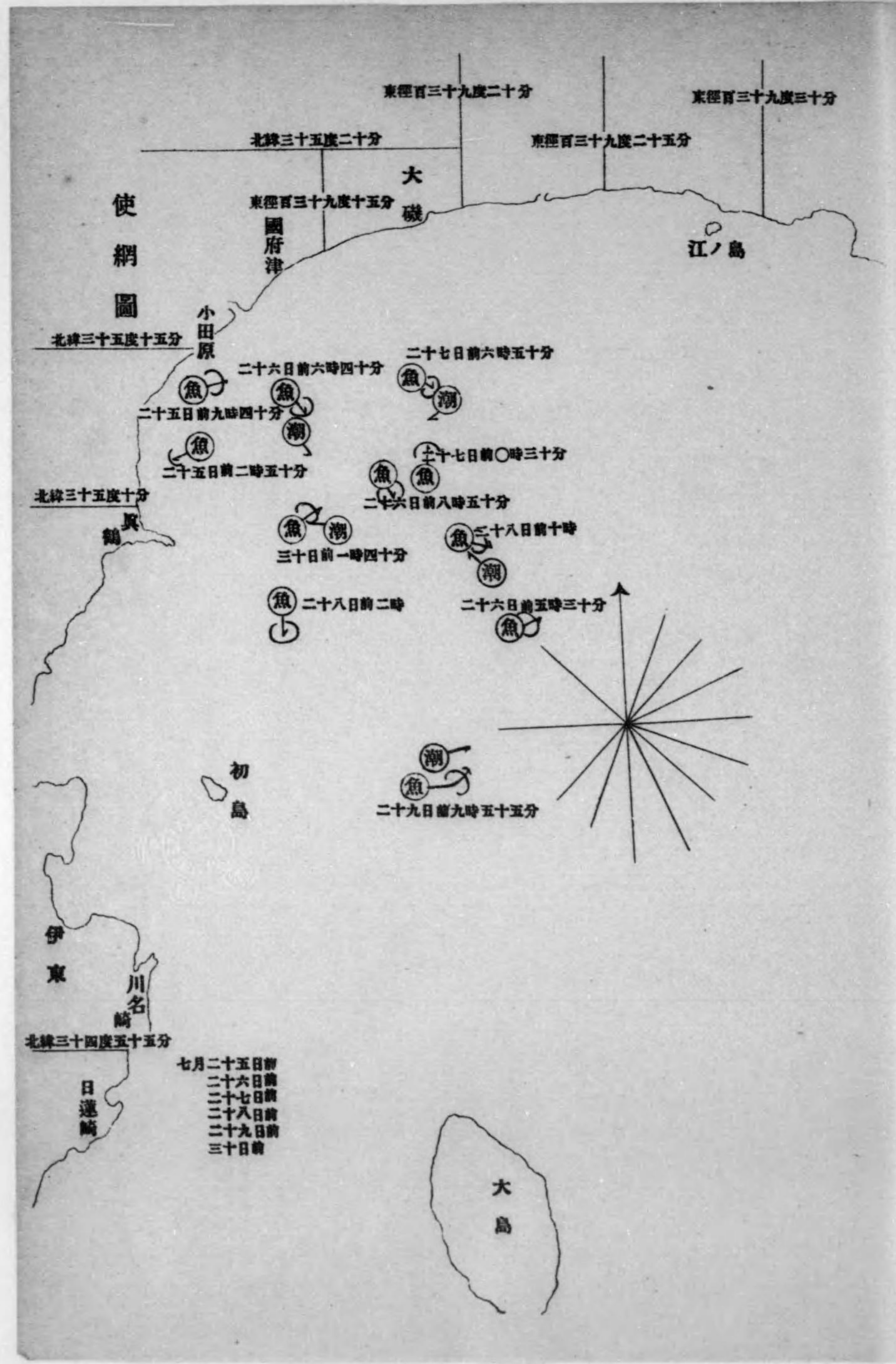
小田原南三四哩ニ小群アリ
沖合潮色悪シ國府津南小群アリ

正午 二五、五、一〇、四、五、七

和南

使網日誌

月日	魚群	漁獲	時使	間網	記	事
六、九	鯉とろみ	青鯉 三〇五	三	二〇	潮急ニシテ網形不整 環網急縮シ鯉愈浮上ス	
一八	めじ	〇	一	一五	魚群ニ對シ網除リニ近距離ニシテ網ノ沈垂ニ先チ魚群ノ先頭己ニ網外ニ在リ即チ僅ニ半圍シテ止ム	
同	めじ	〇	二	三〇	急潮(北東)網底ノ空口ヲ横ニ開キ加之分銅ノ滑車ニ網地ヲ喰込ミ分銅ヲ引揚ケタル爲此處ニ出口ヲ與ヘ途ニ漁獲ナカリシカ	
一九	めじ	〇	二	三〇	魚群方向轉々スルヲ以テ網肩ヲ擴ケ過キ一旦逸出セシモ七號艇威嚇ノ効カ再網内ニ入ル環網縮括中魚群沈潜ニ回頗ル疑懼ニ堪エザラシム	
二〇	鮪	〇	二	五〇	投網シ兩網船ノ未タ接近セサルニ先逸出ス	
二一	鮪はみ	〇	二	一〇	魚群廣大ニシテ到底一網ノ能ク包圍シ得ヘクモ見エス網形不潰故障ナカリシモ魚頭ニ餘リ接近シテ投網セシ故魚取網ニ來リシモノハ恐レテ回頭シ袖網ニ圍マレシモノ網裾ノ沈垂ニ先チ逸出セシ如シ	
二二	鮪みづもち	〇	一	三〇	今日小田原揚繰千尾漁獲ノモノ一艘其他無漁	
二三	鮪みづもち	〇	一	四〇	魚群ヲ完全ニ包圍シ環網約三分一ヲ縮メタル頃ニ魚もぢヲ見タルヲ以テ果シテ漁獲ヲ期シタルニ二分一ヲ縮ムル頃網外ニなむらヲ成ス魚取部ニ少許ノ稚鯉ヲ殘セシノミ	
二四	めじ	〇	一	一五	異狀ナシ	
二六	めじ	〇	一	三〇	逆網袖ニ於テ沈子方網地纏絡スルアリ爲ニ裂割數間ヲ生セリ然ルニ幸ニ魚此處ニ來ラス本魚群ハ鯉釣船ヨリ讓ラレシモノナリ	
二七	鯉みづもち	〇	一	三〇	異狀ナシ	
六、三〇	めじ	〇	一	一〇	網ノ距離近キニ失シ魚群ハ網底ヨリ脱出セシカ如シ即チ網ノ全部ヲ投セ	



右表ヲ見ルトキハ鯉鮪群ハ七月上旬並八月下旬ニ於テ(但シ毎日午前八時ヨリ午後四時ニ至ル間)殆ト皆無ノ状態ナリ 鮪群ハ六月下旬皆無ニシテ之ニ續ク七月上旬頗ル多シ
 鯉鮪群ハ六月中旬ハ午後ニ多ク六月下旬並七月下旬ハ共ニ午前中ニ多シ而各月總体ニ於テハ時刻ニ依リ餘リ高低ナキハ表ノ末項(回数表)ニ明示セラレタリ

鮪群ハ六月中旬ハ午後ニ多ク七月中旬ハ午前ニ多シ而シテ七月ニ於ケル午前ノ鮪群ハ最モ高數ヲ示セリ 斯ク六月下旬ハ鯉鮪群アリテ鮪群ヲ見ス七月上旬ハ獨リ鮪群ノミニシテ鯉鮪群ノ來ラサリシ又六、七兩月下旬ノ鯉鮪群ハ殆ント午前中ニアリテ午後ニナク中旬ノ鮪群ハ兩月相反セリ是何ニ原因スル乎全ク不明ニシテ茲ニ推論スラ爲シ能ハス蓋シ如斯ハ只一ヶ年ノ情況ニ依リテ知ル能ハサルヤ明ニシテ繼續統計ニ待テ測ル外ナケン

第七章 收支計算書

總 水 揚 高

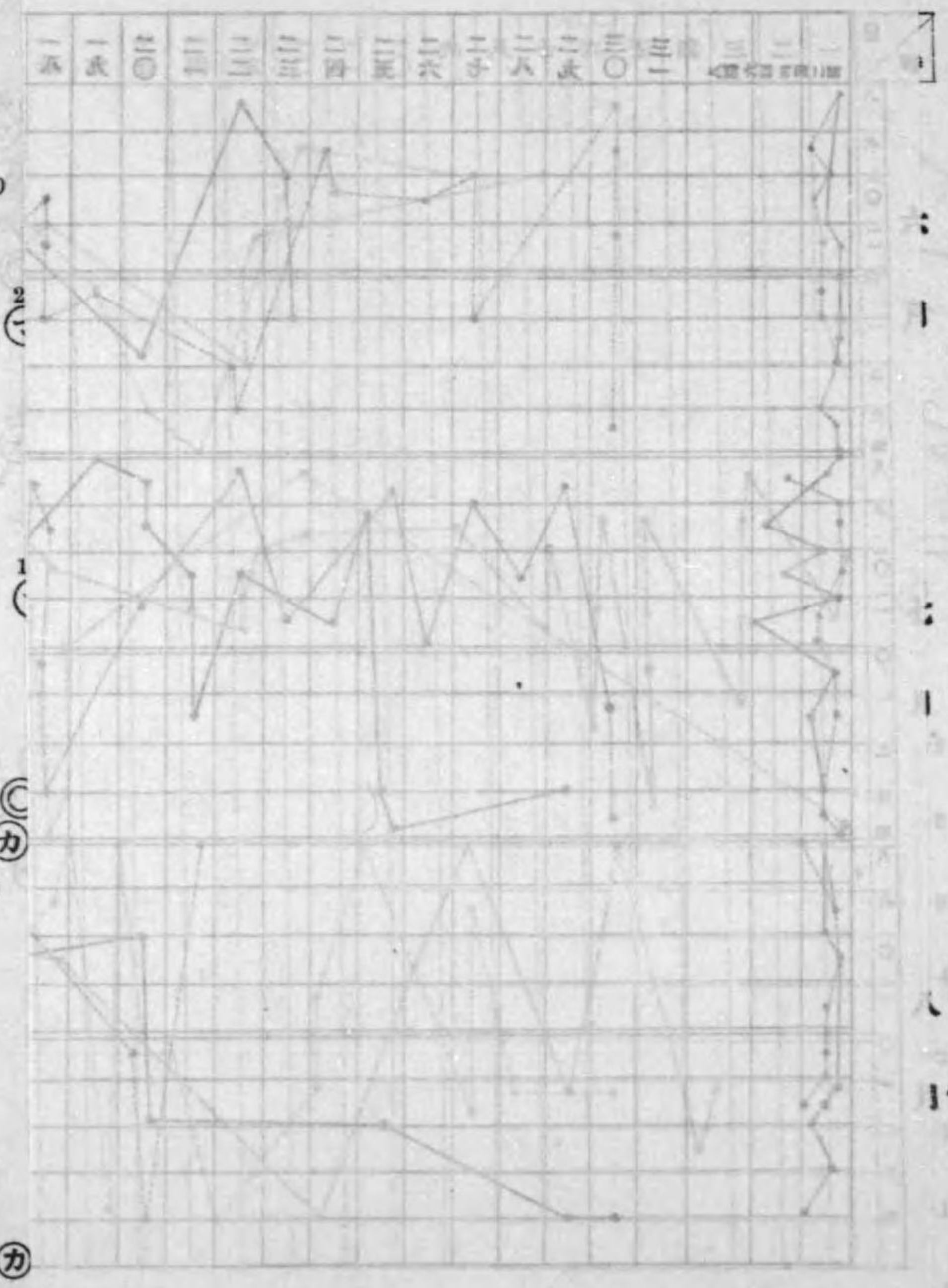
一、收入金五千貳拾八圓六拾錢五厘
 一、支出金參千七百七拾五圓五拾四錢六厘

内 譯

- 金參百圓七拾四錢五厘
- 金參百貳拾圓七拾貳錢壹厘
- 金七百五拾六圓〇七錢
- 金壹千五百六拾七圓拾七錢
- 金六百八拾七圓拾七錢
- 金百參拾參圓八拾貳錢
- 金九圓八拾五錢

- 魚群發見者配當
- 魚市場口錢及漁獲物荷揚費
- 漁夫配當及賞與
- 諸備給及食料
- 消耗品費
- 雜 費
- 通信費

魚群浮上時刻一覽



六月
 カノ三
 カメ七
 マニ二
 魚群圖



觀測ノ位置
 字ハ日附

右表ヲ見ルトキハ鯉魚群ハ七月上旬並八月下旬ニ於テ(但シ毎日午前八時ヨリ午後四時ニ至ル間)殆ト皆無ノ状態ナリ 鯉魚ハ六月下旬皆無ニシテ之ニ續ク七月上旬頗ル多シ 鯉魚群ハ六月中旬ハ午後ニ多ク六月下旬並七月下旬ハ共ニ午前中ニ多シ而各月總体ニ於テハ時刻ニ依リ餘リ高低ナキハ表ノ末項(回数表)ニ明示セラレタリ

鯉魚群ハ六月中旬ハ午後ニ多ク七月中旬ハ午前ニ多シ而シテ七月ニ於ケル午前ノ鯉魚群ハ最高數ヲ示セリ 斯ク六月下旬ハ鯉魚群アリテ鯉魚群ヲ見ス七月上旬ハ獨リ鯉魚群ノミニシテ鯉魚群ノ來ラサリシ又六、七兩月下旬ノ鯉魚群ハ殆ント午前中ニアリテ午後ニナク中旬ノ鯉魚群ハ兩月相反セリ是何ニ原因スル乎全ク不明ニシテ茲ニ推論スラ爲シ能ハス蓋シ如斯ハ只一ケ年ノ情況ニ依リテ知ル能ハサルヤ明ニシテ繼續統計ニ待テ測ル外ナケン

第七章 收支計算書

一、收入金五千貳拾八圓六拾錢五厘
 一、支出金參千七百七拾五圓五拾四錢六厘

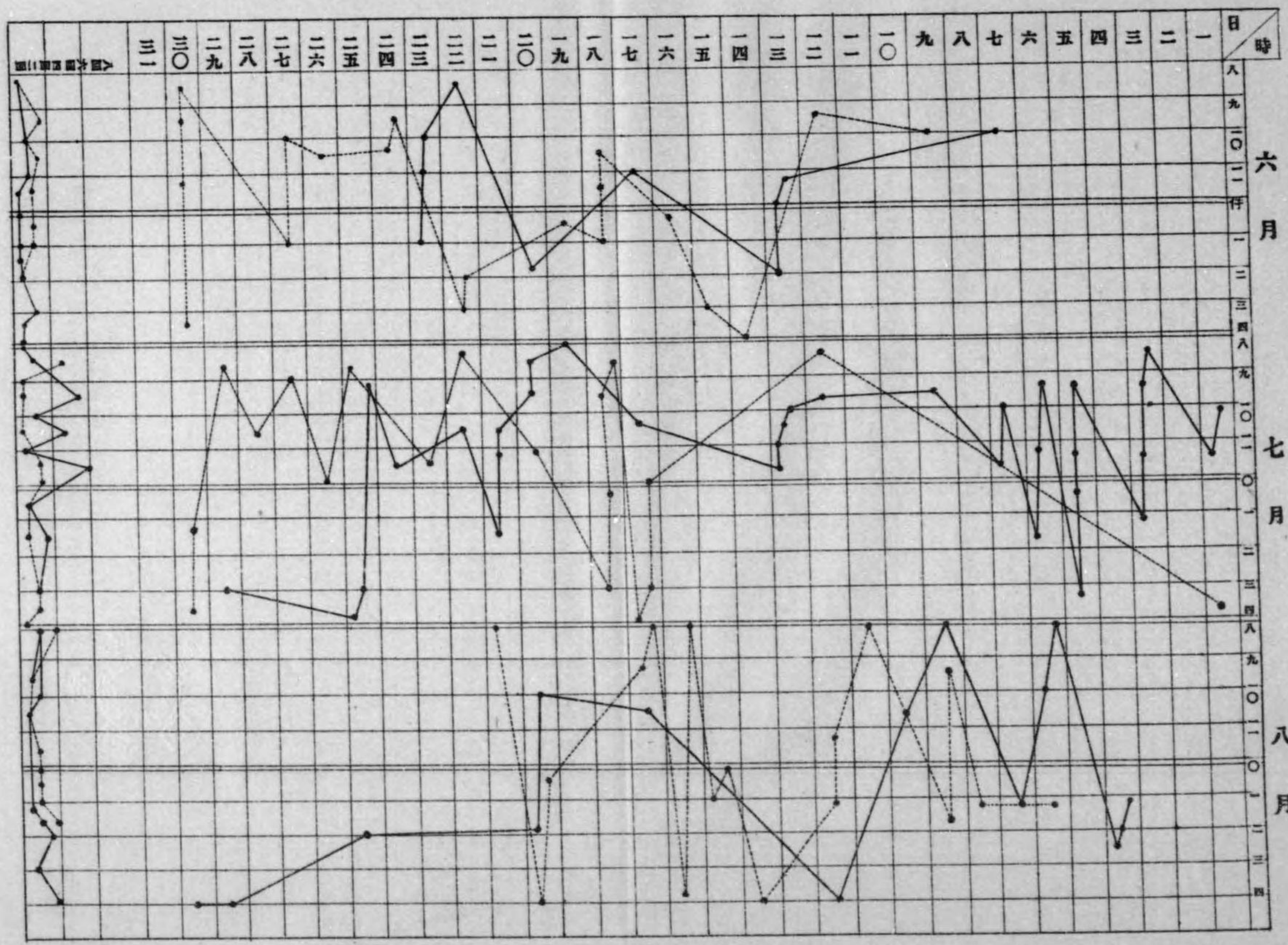
總 水 揚 高

内 譯

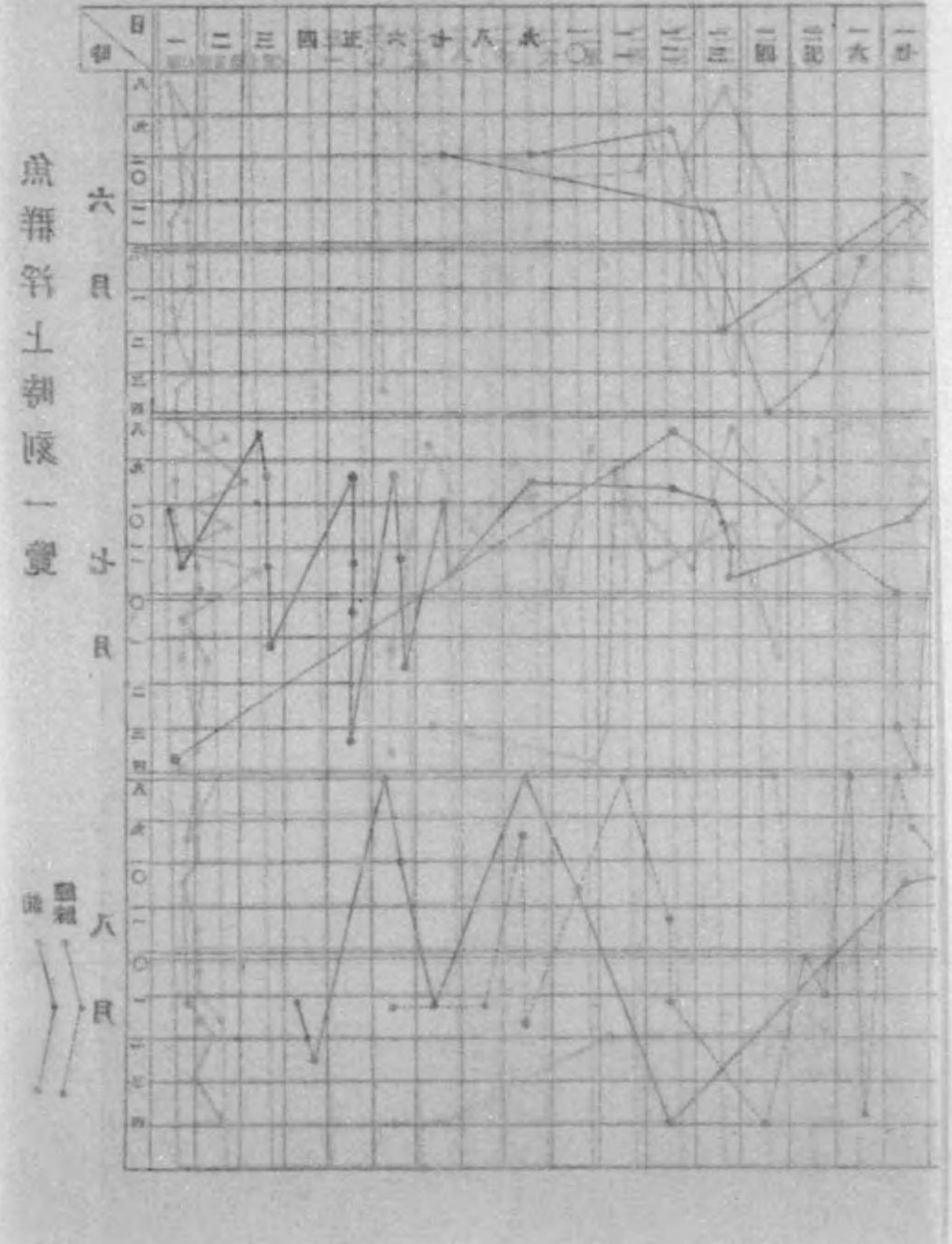
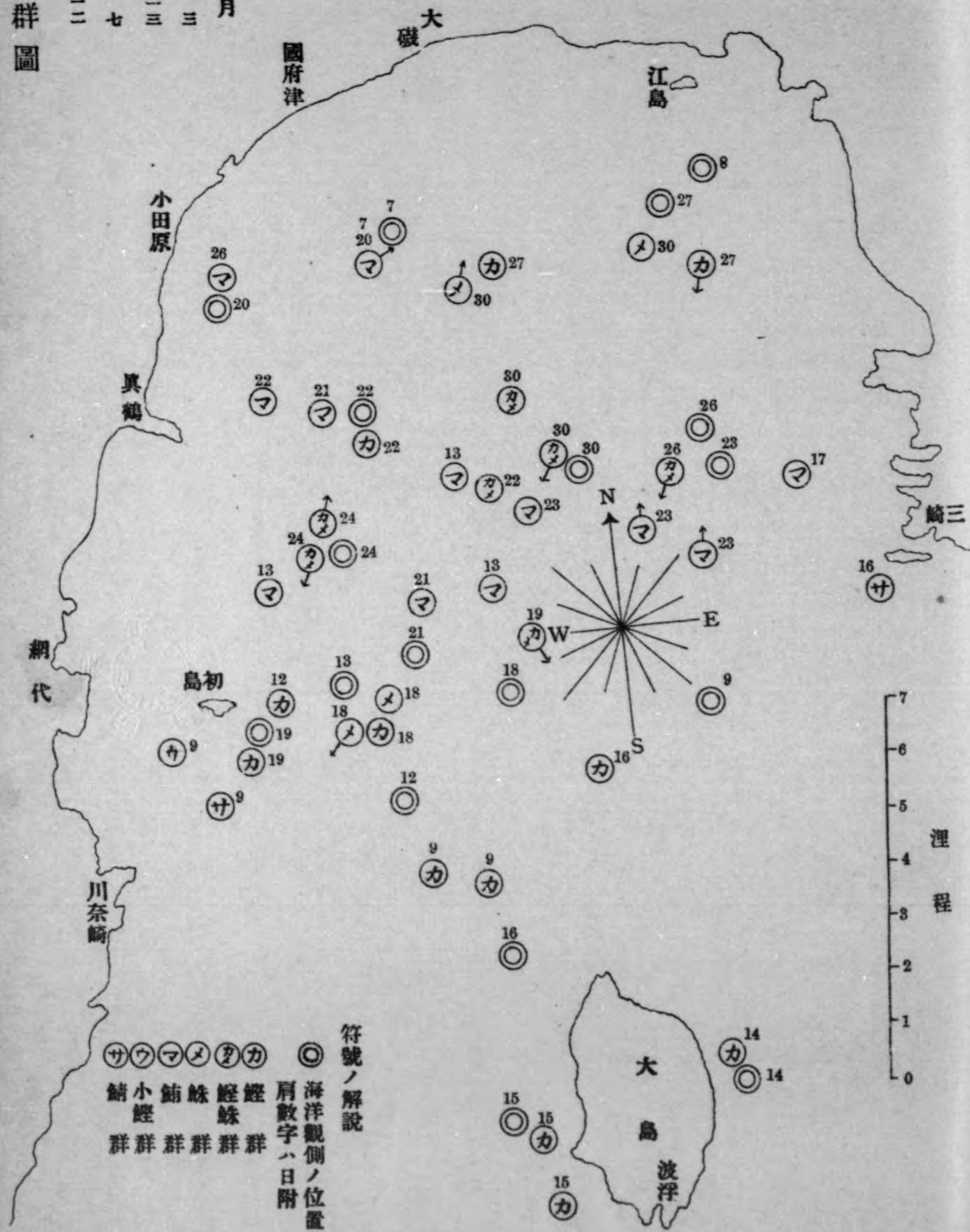
- 金參百圓七拾四錢五厘
- 金參百貳拾圓七拾貳錢壹厘
- 金七百五拾六圓〇七錢
- 金壹千五百六拾七圓拾七錢
- 金六百八拾七圓拾七錢
- 金百參拾參圓八拾貳錢
- 金九圓八拾五錢

- 魚群發見者配當
- 魚市場口錢及漁獲物荷揚費
- 漁夫配當及賞與
- 諸備給及食料
- 消耗品費
- 雜費
- 通信費

魚群浮上時刻一覽

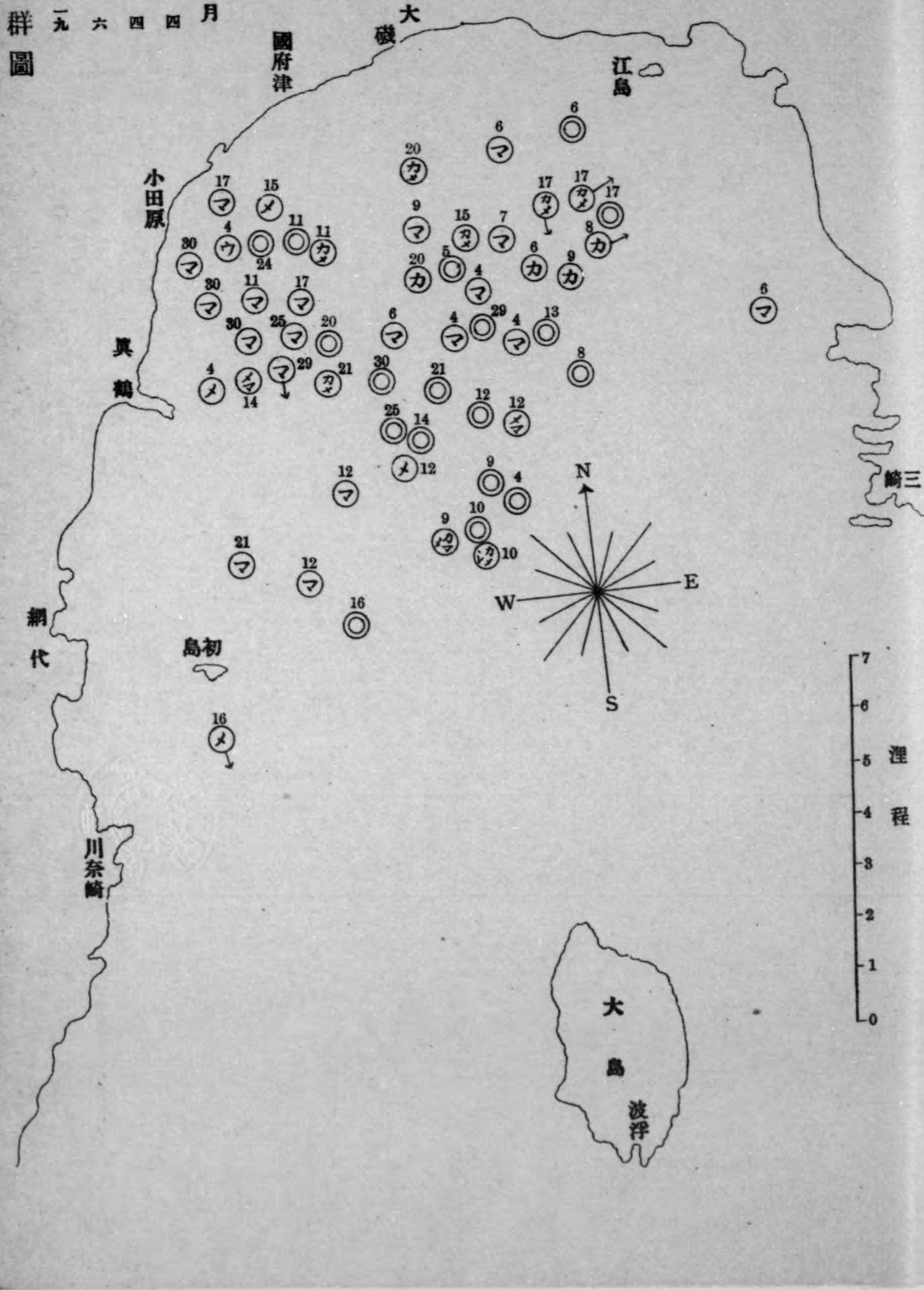


魚群圖
六月
三十三日
カノ
カメ
マ



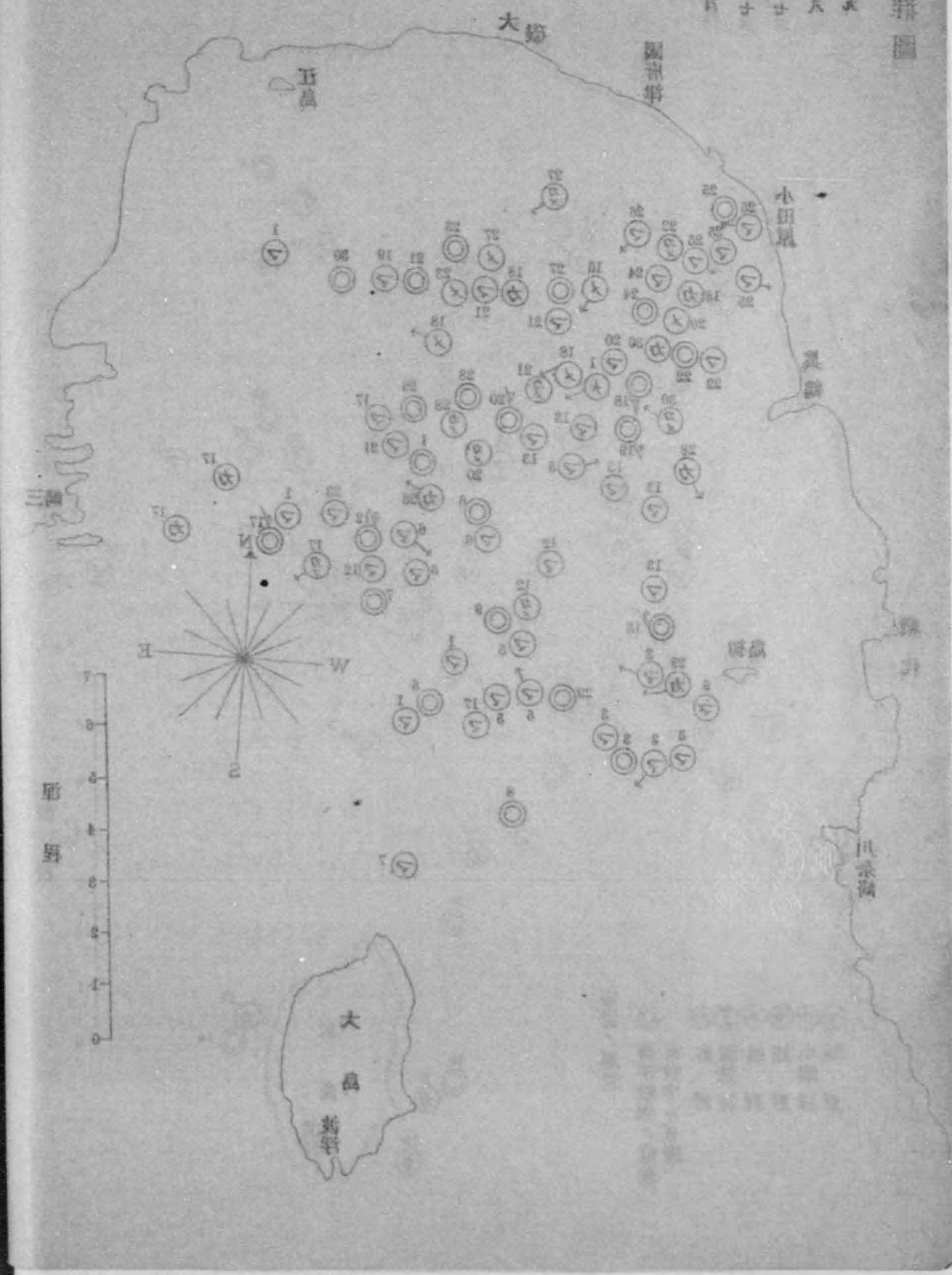
魚群圖

一九四四年四月八日



魚群圖

一九四四年三月十八日



大正二年長鯨沖取網試驗

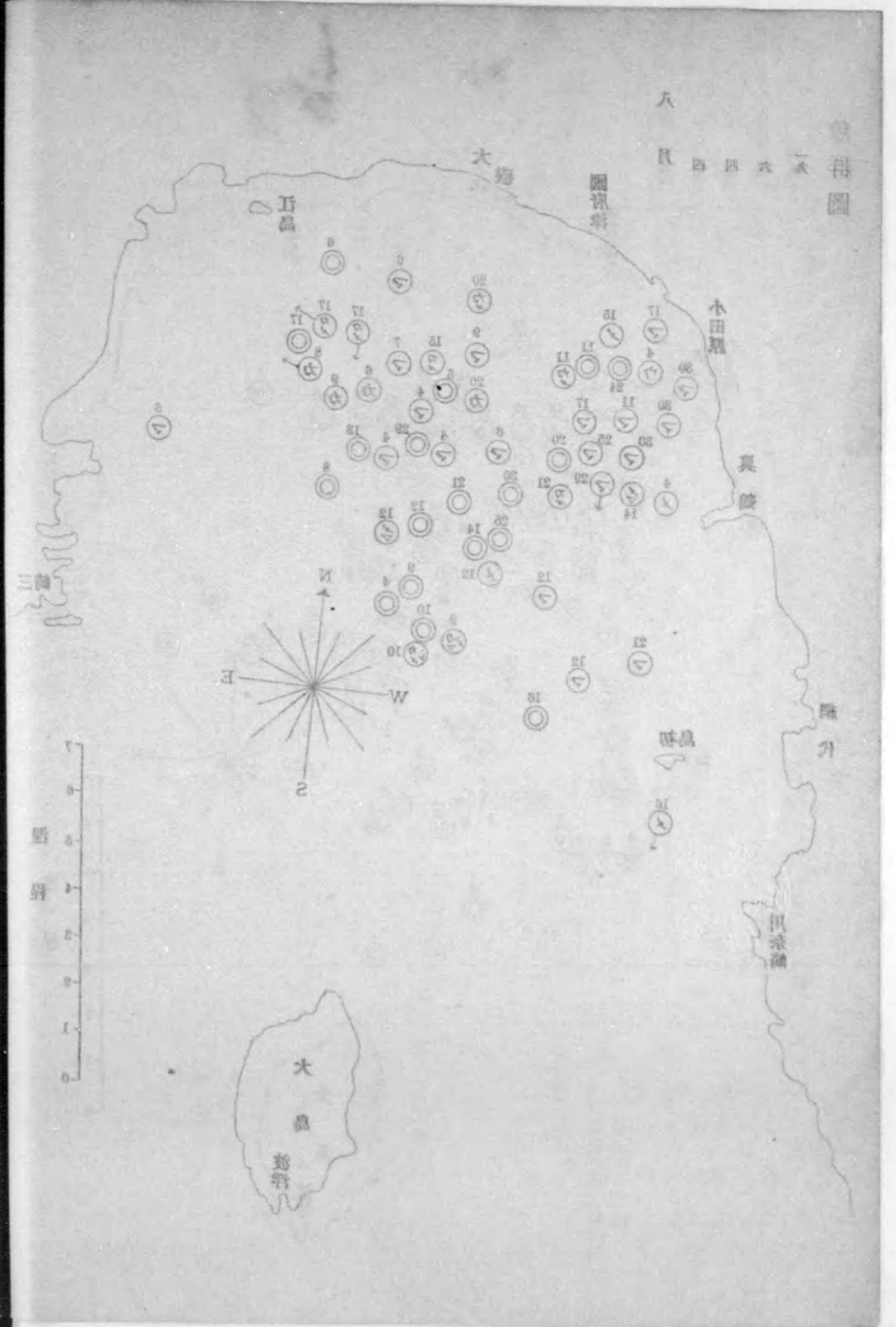
漁獲日	種類	數量	水揚高	小計	市場揚口費	手取金額
六、一	鯨	三〇二尾	九三六五〇	九三九五〇	〇五七四〇〇	八七六一〇
同	青鯨	一	三〇〇	九三九五〇	〇五七四〇〇	八七六一〇
六、一九	鯨	二七五	一一六九六〇	二五九九六〇	一五六〇〇〇	二四二三六〇
同	鯨	二二〇	一四三〇〇〇	二五九九六〇	一五六〇〇〇	二四二三六〇
六、二二	鯨	一六三	八九六五〇	三三二二五〇	一九二七五〇	三〇〇二七五
同	鯨	三八六	二三〇六〇〇	三三二二五〇	一九二七五〇	三〇〇二七五
六、二四	鯨	三一〇	一七〇五〇〇	二二一九二五	一三三二一五	二〇七〇一〇
同	鯨	一三五	五一四二五	二二一九二五	一三三二一五	二〇七〇一〇
六、二六	鯨	四〇四	一五一四〇〇	三三六八六〇	一九六一〇〇	三〇四六五〇
同	鯨	二八三	一七五四六〇	三三六八六〇	一九六一〇〇	三〇四六五〇
六、二七	鯨	四一	一七五四六〇	二五四〇〇	〇二〇二五	二二六九五
七、二	鯨	二	三〇〇	二五四〇〇	〇二〇二五	二二六九五
同	鯨	二	三〇〇	二五四〇〇	〇二〇二五	二二六九五
七、六	鯨	七四	二三六八〇〇	三八〇〇	〇二二〇	三五七〇

一金五千貳拾八圓六拾錢五厘

漁獲高明細表

總水揚高

一、剩餘金壹千貳百五拾參圓〇五錢九厘



項目	魚類別	鯉	めじ	鮪	其	他	計
數量		三、五四六尾	四、三四二	一五五	六四		
水揚高		一、三九〇四三五	二、五八四八七〇	九九四六〇〇	五七七〇〇	五、〇二八六〇五	

足柄下郡地方揚操網十六統中最高ハ壹萬圓ニ垂タトシ最低ハ五百圓ニ達セス一統平均額四千圓ニ及ハス斯ル漁獲高ノ不平均ハ鮪群ノ多キニ依リ生セシモノトス蓋シ鮪ハ偶ニ餌鰯等ニ餘程貪狂セル場合ノ外船響網影ニ恐愕スルコト鋭ク漁獲ハ實ニ萬一ト稱セラル而本年ノ鮪群ハ比較的密集シ且体大ナルモノ多カリシヲ以テ一網スレハ能ク貳叁千圓ヲ得ルモノアリシニ依ル

本船ハ斯ル僥倖ヲ待タスシテ確實ナル鯉群ヲ搜索スル爲ニ鮪群ヲ顧サリシコト幾回ナリシカラ知ラス揚操網ノ水揚高多キモノハ殆ト鮪ノ漁獲高多クヲ占メラル、モノナリ

本船ノ鮪水揚高ハ總水揚高ニ對シ僅ニ二〇「パーセント」ナリ尤モ鮪群ノミニ對シテハ揚操網ノ有利ナル場合アリ何トナレバ網ノ總長約千間深約八拾間ニシテ驚怖シ易キ鮪群ヲ遠圍シ得レハナリ

前年度本船ノ漁獲高ハ小田原揚操網十統ノ上ニ位リ又本年度ハ前記ノ理由アリシニ係ラス平均額ヲ超ユル壹千圓ニ及ヒシヨリ見レハ本網ノ揚操網ニ比シ漁獲ノ確實ナルヲ證シ得ン

一、鮪群前年度トノ多少比較

比例事項	本年度	前年度
總魚群ニ對スル鮪群ノ百分比	五八	七

一、出漁並使網回数

比例事項	本年度	前年度	本年度増減ノ理由(推定)
試驗全日數ニ對スル出漁日數	七二	七三	
出漁日數ニ對スル使網回数	五九	五三	魚群數多シ
使網回数ニ對スル漁獲回数	四一	五四	鮪群多ク鯉群少シ

一、使網魚網別

魚類	漁獲回数	包圍後逸出	包圍前逸出	網全部ヲ投セスシテ止ミシモノ	計
鯉	五	二	五	〇	一二
めじ	二三	九	七	二	四一
鮪	五	五	二	五	一七
計	三八	二五	二七	九	一〇〇

一、網具重量ノ輕減

本年度網地(「コールター」ヲ施セル)ノ重量ハ前年度ニ比シ約百三十貫(網地以外ノ重量新舊大差ナシ)ヲ輕減シ得タリ魚取部網地麻糸ヲ綿糸ニ改メシハ結果良好ニシテ其構造モ適當ナルカ如シ本年七月十二日(最大十七、八貫ヲ交ユ)大鮪八十餘尾ヲ漁獲シタル時ハ魚取部網地ニ裂傷ヲ生シタルモ之ハ丈夫ナル取網ニテ補助シ得ヘケレハ斯カル特別ノ大鮪ニ對スル爲ニ豫備的ニ太糸ノ網地ヲ用フルハ不經濟ナリ現在ノ糸ヲ以テ充分ナル太サナリト信ス外方袖網裾部ハ猶網目ヲ大ニスルコトニ依リ重量ヲ輕減センコトヲ欲ス

一、網型ノ擴大

大正二年度鯉鰯沖取網試驗

本年度網具ハ前年度ニ比シ全長ニ於テ三十間深ニ於テ二間ヲ擴大セリ鮪群ニ對スルトキハ猶長深共擴大セラレシコトヲ欲スレトモ網型大ナレハ使網上特ニ急潮ニ際シ困難ヲ感スヘシ現在ノ大ヲ以テ殆ント限度ト稱ス可シ但總テノ漁業組織規模ヲ大ニスルトキハ論外ナリ

一、網具ノ染料並ニ手入

本年度施行セル方法ヲ以テ殆ト十全ナリト信ス只日光殺菌ノ意味ニ於テ一ヶ月一回位網具ヲ展ケ完全ナル日乾ヲ爲セハ或ハ効果アルヘシ

一、環持網ハ沈子網ト同長ナリシモ稀揚ヲ速ナラシムル爲稍延ハスヲヨシトスヘシ

一、網船ノ深サ

前ニ網船ノ成績ニ關スル條ニ於テ述ヘシカ如ク乾舷少クシテ作業並ニ航走ニ不便ヲ感スルコトアルヲ以テ乾舷ヲ猶一寸乃至二寸増加スルヲ便宜トス可シ

一、網船船ノ數

漕艇速力ノ大ナラシコトヲ欲スルヤ切ナルモ船八挺以上ヲ立ツルコト困難ナリ速力ヲ大ナラシメンカ爲メ船幅ヲ狭クシテ長ヲ増ス可ラス船ノ回轉能ヲ失スレハナリ

一、網船表ニ番間ノ甲板

前章ニ述シカ如キ理由ニ依リ比較的廣キ船口ヲ有スル水密張甲板トス可シ

一、帆ノ面積

帆面積約二割ヲ擴大スヘシ

一、巻揚機加働柄ノ長

前後二本ノ加働柄ノ長ヲ猶約七寸増ス(隨テ太サヲ徑ニ於テ約二分位増スヲ要ス)時ハ一本ニ付猶一人ノ加働ヲ得ヘシ、左右ノ二本ハ足場ノ都合ニ依リ柄長ヲ増スモ効ナシ

一、漁具ノ使用

本年度試験ニ於テ特筆ス可キ新漁法ヲ見出サ、リシト雖益漁具使用ニ熟練セシハ論ヲ待タサル事實ナリトス凡熟練ハ最良ノ方法ニシテ練磨ハヤカテ發明ナリ

本年度試験ニ於テ漁具使用ニ通例左ノ如キ時間ヲ要シタリ

投網	五―八分間
環網	三十五分―五十分間
揚網	四十分―六十分間

投網時ハ魚群密集團結シテ移動セサルトキハ最小ニシテ此ニ反シ或ハ魚群移動ノ方向不定ナル爲投網中途一時見合スル場合ノ如キハ前記ノ時間以上ヲ費スモノトス、環網縮括時間ハ網場ヲ狭ク投網シ風潮順當ニシテ網中魚群ヲ有シ漁夫ノ鼓舞セル時ニ於テ最小ナリ稀ニ潮工合惡シク網地環網ニ纏絡セル場合ノ如キハ前記以上ノ時間ヲ費スモノトス

網揚時間ハ潮工合惡シク(即チ横潮)又ハ漁獲物非常ニ多量ナル場合ニ最大ナリ。漁獲上最モ時間ノ短縮ヲ求ムルハ投網及環網縮括ニアリ而シテ投網時間ヲ短縮スヘキ方法ハ一ニ網船ノ進行速力ニ係ル將來或ハ網船ニ多數ノ擲ヲ運用スルカ或ハ補助機關ヲ運轉スルカ如キ手段ニヨリテ進航速力ノ増大ヲ試ムルノ日アルヘキモ目下ニ於テハ未タ之ヲ實現スルコト困難ナルヘシ

環網縮括時間ヲ短縮スヘキ方法ハ一方網地ノ抵抗ヲ減少シ一方巻揚力ヲ増大スルニアリ網地ノ抵抗ヲ減少センニハ其抵抗面ヲ減少スヘク網地ヲ構造シ巻揚力ヲ増大センニハ巻揚機ヲ強大ナラシムルノ外ナカルヘシ
使用時間特ニ著シク短縮セラル、場合アルモ全期ヲ通シテ見ルトキハ平均一時間五十分ニシテ前年度ニ比シ平均三十分ヲ短縮セルカ如シ

漁船漁夫ノ數前年度ニ比シ多ク減シ得ナリキ但シ時ニ或ハ二割ヲ減セシコトアルモ然ルトキハ漁夫ノ疲勞甚シ又漁獲多キ期節ハ僅ニ數人ノ漁夫給ヲ惜ムハ却テ不經濟ニシテ欲セサル所トス

一、漁場ノ擴張

前章ニ述ヘシカ如ク相摸灣外漁場ノ試験ハ蓋シ興味アル事業ナリトス。要スルニ本漁業ニ對スル好漁場ハ

A 鯨ノ大群來游スル近海

B 潮流カ網ノ深ノ各層ニ於テ甚シク速力ト方向トヲ相違セサル海

C 鯨ノ付ク岩礁カ淺キカ若クハ水面上ニ出ルカ或ハ又島付磯付魚ニシテ潮流急激漁具ノ使用ニ支障アル場合以外ノ海面

D 餌料代高價ニシテ鯨釣漁業ノ經濟困難ナル場所等トス

即チ灣外ノ近海ニシテ右要件ヲ具備スルモノアリト信スレハナリ

瓢網試験

試験ノ要旨

縣下三浦郡沿岸ヲ概觀スルニ定置漁具ヲ敷設スヘキ場所尠カラサルガ如シ仍テ魚類回遊ノ狀況、潮流ノ方向強弱、海底ノ狀態等
カ果シテ豫想ノ如ク本業ニ適當ナルヤ否ヤヲ認定センカ爲メ瓢網ヲ敷設シ試験ヲ爲サントス

試験ノ場所

大正二年度試験ノ場所ハ三浦郡葉山村名島先ニシテ試験ニ先チ調査推定セル所左ノ如シ

一、海深ニ就テ 磯際十八尋(五尺尋)二百間ノ沖合ニ於テ二十一尋ヲ算スルヲ以テ相當ノ深サトス猶左右ノ海岸線周圍海深
ノ模様ヲ圖示スレハ左ノ如シ

一、魚道ニ就テ 種々ノ魚族ノ集游ニ適スル鎌倉逗子ノ灣ヲ西方ニ控ヘ該灣ヨリ東方ニ出テントスル魚道ハ必スヤ名島ニ在
リ、而モ岸深ナルヲ以テ魚道モ極メテ接近シテ存在スヘク又東南方ヨリ秋谷、葉山沖ヲ通り該灣ニ入ラントスルモノモ亦
必スヤ名島ヲ掠過セサルヘカラス即チ東西ノ關門ト稱スヘシ

鵜島沖ニ於テ東西スル魚群尠カラスト稱セラル是レ名島ニ於テモ亦然ルヲ立證スルノ言トスヘシ、蓋シ兩者ノ中間ヲ遮斷
シ若クハ中間ニ於テ魚群ヲ出入セシムルニ足ルモノヲ見出サ、レハナリ

名島ニ鯨ヲ釣シ鯨ヲ網シ東際ニ鯨ヲ見西邊ニ鯢ヲ望ムヲ以テ來集スル大小ノ魚族其種類多カルヘシトナセリ

一、潮流波浪ニ就テ 潮流ハ寧ロ緩慢ニシテ網具ノ存置容易ナルモ或ハ魚族ノ回游ヲ不活潑ナラシムルヤノ虞ナキニシモア
ラス波浪ハ敢テ靜穩ナラスト雖モ島邊ニ使用スル底刺網類ノ波浪ノ爲メニ嘗テ打チ動カサレタルコトナシト聞ケハ漁具ノ
定置ニ困難ヲ感セサルヘシ

一、網具敷設經費ニ就テ 瓢網ハ海深二十尋位ヲ適當トセハ此附近ニ於テ名島ハ最モ短キ垣網ニテ足り又底質堅カラサルヲ
瓢網試験

瓢網試験

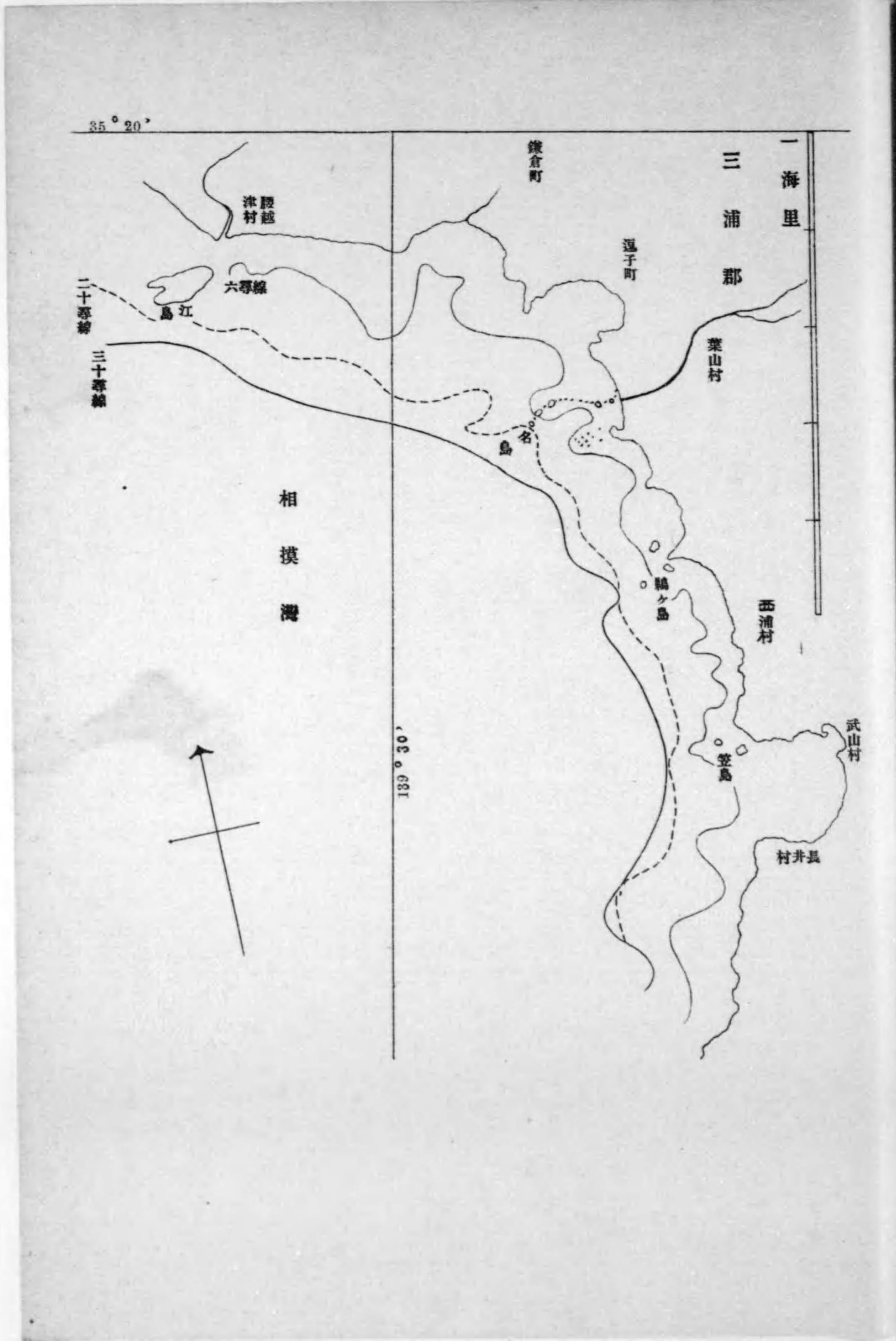
以テ土俵ノ數モ比較的多クヲ要セス
 一、作業ノ難易ニ就テ、名島嶼列ノ陸岸ニ達スル處即チ名島ヨリ最モ近キ陸岸ニ於テ森戸灣ヲ有シ磯波高キ場合ト雖モ容易ニ漁船ノ出入ニ堪フ
 潮流ハ前述ノ如ク急激ナラサルヲ以テ網作業困難ナラス
 風浪ハ靜穩ナリト稱スルヲ得ス
 網具乾燥ニハ適當ノ乾燥場ヲ有セリ
 一、漁獲物處理ニ就テ、鎌倉逗子ニ近キヲ以テ處理便利多シトス

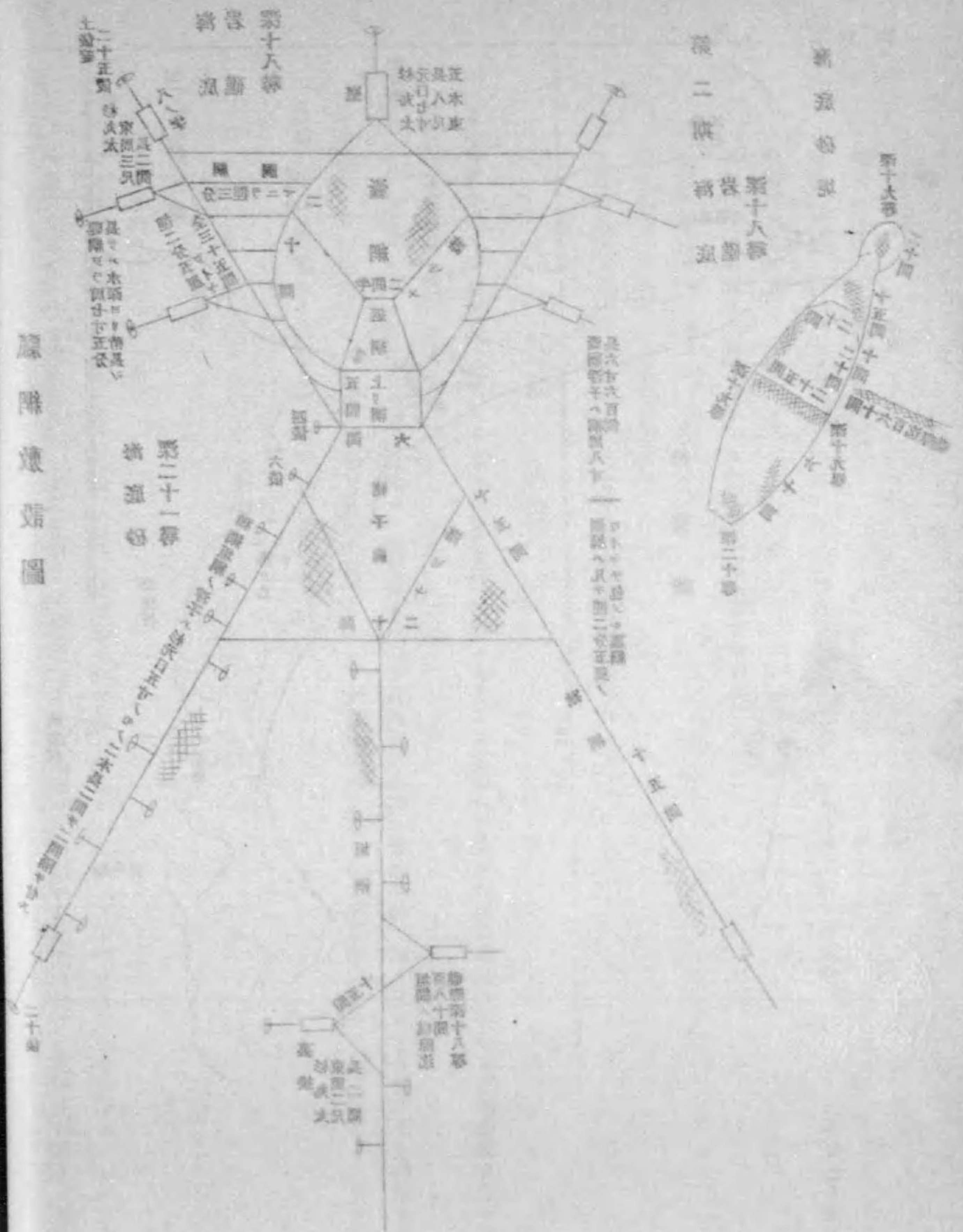
試験ノ組織

葉山村名島先ヲ試験適地ト認ムルヤ葉山漁業組合ハ試験ノ囑託ヲ希望セシヲ以テ本場ハ漁具ヲ提供シ本場監督ノ下ニ事業ノ經營ヲ右漁業組合ニ囑託セリ
 第一期ヲ六月ヨリ八月上旬迄トシ富山縣ヨリ聘用シタル助手島崎藤左衛門ヲ派遣シ第二期ヲ八月下旬ヨリ十一月迄トシ同組合ハ本縣足柄下郡漁業家青木忠藏ヲ招聘シ業務ヲ擔任セシメタリ蓋第一期試験ニ於テ漁獲渺カリシモ猶見込アリトナシ同組合ハ試験ノ伸長ヲ申請セシヲ以テ第二期ノ如ク之ヲ伸長セリ

漁具ノ構成

兩口瓢網
 一、兩口瓢網ヲ採用セシニ就テ
 名島近海ニ來游スル魚群ハ鰭、鯖、鰯、小鯉、いぼ鯛等其他多數ノ雜魚ニシテ概シテ暖季北上シ寒季南下スルモノ、如シト雖モ斯ク軌ニ沿ハサル場合往々ニシテ之レ有リ、又鎌倉、逗子灣ニ集來スル魚群ハ名島先ニ於テハ北ヨリ南下スト雖葉山前ヨ





漁網敷設並網地配置

リ外海ニ出ントスル魚群亦名島ヲ掠過セサルヲ保セス仍テ兩口網ヲ採用セシモノトス

一、網具敷設並網地配置

瓢網地配置

- 一、囊網ノ内鏡網(魚取)
- 二、囊網ノ内胴網
- 三、囊網ノ縁網
- 四、返シ網

綿糸四號十六節百掛十尋切十二反
 綿糸四號十節百掛三十二間切十三反
 綿糸八號十節五間二十三間入レ二十間ニ仕立
 外方(左右)各二反三號十節百掛五間二尺切
 次(左右)各三反二號同上

此ノ内ニ三角網片目落長二間半左右各一反 兩目落二尺ヲ其底邊ヲ下方ニシテ押入
 フラ一尺目四十五掛左右各一反

外方(左右)各ヲ一尺二寸目四十五掛九尋一反
 内方(同) 各同 一目ヨリ三十掛ニ擴ケハ一反
 外方(同) 各一尺四寸目三十五掛十二尋半二反
 内方(同) 一目ヨリ三十掛ニ擴ケ同一反

外方(同) 一目ヨリ十七掛ニ擴ケハ一反
 内方(同) 同 一目ヨリ十七掛ニ擴ケハ一反
 内外各一尺四寸目三十五掛十二間半二反一尺目十二掛十二間半一反
 一尺四寸目三十五掛
 二尺目二十五掛
 二尺目海深ニヨリ減目

- 七、袖網
- 八、垣網上部
- 中部
- 底部

一尺四寸目三十五掛
 二尺目二十五掛
 二尺目海深ニヨリ減目

別紙圖面説明ノ通り

- 一、第二期ニ於テハ九月下旬迄別紙圖面ノ通り小臺網ヲ併用セリ小臺網ハ本縣下ニ行ハル、三艘張網ヲ縮少セルモノニシテ其構造法稍相等シキモノトス
- 其後漁網ノミヲ使用セリ

試験ノ方法

- 一、前章記述ノ網具ヲ七人乗漁船第一期ハ一艘第二期ハ二艘ヲ以テ操業セリ
- 一、魚類回游ノ状況ハひき、水面ニ現ハル、なむら、潮流ノ方向ニ依リ異ル漁獲、近海ノ漁況等ノ統計的調査ヲ待テ推測スルコト、セリ
- 一、潮流ノ状況ハ網場ニ於テ日々観測シ網具ノ蒙ル影響ヲ視ルコト、セリ
- 一、海底ノ状況ハ測深具ニ依ルノ外急潮流急瀉ニ際シ土俵(碇)ノ据ハリ等ニ鑑テ測知スルコト、セリ
- 一、試験地地方漁民ハ未タ嘗テ定置漁具ニ關スル經驗ナキヲ以テ之ヲ指導スル爲或ハ富山縣或ハ縣下真鶴ヨリ熟練セル漁夫ニ右地方漁夫ヲ交テ網仕立敷設ノ當初ヨリ實務ニ就カシメタリ

試験日誌

期 間	業 務	第 一 期
自五月一四日 至同 一七日	名島ヨリ鶴ヶ島ニ至ル近海ヲ實測ス	
自五月二一日 至六月三 日	網具仕立ヲナス	
自六月四 日 至六月二二日	網具敷設ヲナス但風雨ノ爲二日間休業(六日北風雨十一日同上)	
自六月二三日 至七月二三日	使網回数一日二回以上但此間休漁若クハ一日僅ニ一回ノ使網ニ終ルモノ如左	

六月二十八日南風強雨東潮急	
同 二十九日同	
七月十七日南風強西潮急	
同 十八日同	
同 十九日北風強 同	
同 二十日東潮急	
同 二十一日同	
同 二十二日西潮急	
七月二四日	數日來風波強潮流急ナルヲ以テ漁具諸所小破損
七月二五日	右破損修繕
自七月二六日 至八月三 日	使網回数一日二回以上但此間休漁若クハ一日僅ニ一回ノ使網ニ終ルモノ如左
七月二十六日東西潮急	
同 二十七日同	
同 三十日同	
八月三日	兩三日來急潮打續キ而モ前日ヨリ魚類更ニ上綱セサルヲ以テワラ網部ヲ檢セルニ猪子前並垣網ニ修繕ニ堪ヘサル程ノ大破損アリ仍テ第一期試験ヲ了ルコト、セリ
自八月二九日 至同 二九日	網具仕立敷設ヲ爲ス

第 二 期

自八月二十日 至九月二十日	使網回数一日二回以上但此間休漁セルモノ如左
自九月二十一日 至九月二十二日	九月二十日南風強
自九月二十三日 至九月二十六日	小臺網引揚
自九月二十七日 至九月二十八日	瓢網囊部修補土俵増入張替作業ニ従事ス
自十月十九日 至十月二十一日	從漁 此間休漁如左
自十月二十二日 至十月二十三日	十月五日漁夫ノ都合ニ依ル
自十月二十四日 至十月二十六日	十月十八日高浪
自十月二十七日 至十月二十九日	休漁 漁夫ノ都合ニ依ル
自十一月一日 至十一月三日	網入替
自十一月四日 至十一月六日	從漁
自十一月七日 至十一月八日	網ノ側網高浪ノ爲メ切斷セラレ囊網破損
自十一月九日 至十一月十日	網ノ修理
自十一月十一日 至十一月十二日	從漁
自十一月十三日 至十一月十四日	網ノ側網風波ノ爲再切斷セラレ網具破損ス
自十一月十五日 至十一月十七日	網具引揚乾燥ノ手入ヲ爲シ試験ヲ終了ス

試験ノ結果並將來ノ希望
一、漁獲物種類月別表

種類	六月分	七月分	九月分	十月分	十一月分	合計
鱈	三、二〇〇尾	一、〇〇〇尾	一五〇尾	八九〇尾	七五〇尾	六、〇〇〇尾
小鱈	六五樽	八〇樽	二〇樽	一〇尾	一	一六五樽
いぼ鯛	二〇〇尾	二、二〇〇尾	二二〇尾	一〇尾	少	二、六〇〇余
とびうを	一二〇尾	三〇〇尾	一	一	一	四二〇尾
かます	少	少	四二〇尾	四五〇尾	二五〇尾	一、一〇〇余
たちのうを	六五〇尾	一六〇尾	四五尾	一三尾	少	八七〇
い	少	少	少	少	少	少
さ	少	少	一六〇尾	少	少	少
小鯛	少	少	少	少	少	少
黒鯛	少	少	少	少	少	少
すい	少	少	少	少	少	少
小鯉	少	少	六二尾	三三〇尾	一二〇尾	五二〇
鯉	少	少	少	少	一尾	少
むろ	少	少	少	少	少	少
いさぎ	少	少	少	少	少	少
ぐち	少	少	少	少	少	少

しいら	だつ	わかご	いなだ	わらさ	にべ	せいご	むつ	うるめ	いしもち
				少					
少	少	少		少					
			四六尾	少	少			少	少
						少	少		
							少		
			四六尾						

右表ノ如ク漁獲物ノ數量ハ意外ニ少シニシテ營利事業トシテ成立セシムルニ猶不足ナレトモ其種類ハ豊富ニシテ更ニ大規模ノ漁具ヲ猶數十間ノ沖合ニ敷設スル時ハ有望ナルヘキコトヲ感セシム

一、漁獲ト潮流トノ關係

(左ノ魚類ヲ比較的多少漁獲セル場合ノ潮流)

種類	六	七	九
東	西	東	西
月	月	月	月
緩	急	緩	緩

鮭	とびうを	いぼだい	かます	たちのうを	小鱈	鰓
				緩	緩	緩
	緩					
		不	緩			
	流					
					緩	
						緩
			急			

(十月十一月分ハ調査不完全ニシテ明瞭ヲ欠クカ故ニ右表ニ示サス)

右表ハ概括的統計ニ據ルコトヲ得スシテ作レルモノニシテ甚斷言ヲ憚ルト雖左ノ如キ概念ヲ與フルモノカ

- 一、鱈ハ潮流ノ方向緩急ヲ問ハス
- 二、鮭、とびうを、かますノ如キ比較的土層ヲ游泳スルモノハ西潮ノ際上網スルモノ多シ
- 三、其他ハ東潮緩ナルヲヨシトス

東潮ハ網ノ東口ニ西潮ハ西口ニ魚道ヲ開キ易ク又魚類ノ多クハ潮上リノ性ヲ有スルヲ以テ左ノ如キ推定ヲ下サントス

- 一、鱈ノ回游ハ東西孰レヨリモス
- 二、鮭、とび、かますノ如キ比較的上層ヲ游泳スルモノハ西ヨリ東スルモノ多シ
- 三、いぼだい、たちのうを、いわし、いなだ等ハ東ヨリ西スルモノ多シ

一、最モ急激ナル潮流

日 一 日 前 後	六 月		七 月		八 月		九 月		十 月		十一 月	
	東 潮	西 潮	東 潮	西 潮	東 潮	西 潮	東 潮	西 潮	東 潮	西 潮	東 潮	西 潮
一												
二												
三												
四												
五												
六												
七												
八												
九												
十												
十一												
十二												
合計	1	1	3	1	2	5	3	3	1	1	1	1
二五	1	0	1	0	2	5	3	3	1	1	1	1
二〇												
一五												
一〇												
五												

右表ノ示ス所ニヨレハ急激ナル潮流ハ七月、九月ノ夏季ニ其回数多クシテ概シテ東潮ヨリモ西潮ノ場合ニ然ルヲ知ル但例年ハ最モ急激ナルモノハ西潮ヨリモ東潮ニ多シト云フ、急激ノ程度ハ精密ニ觀測セザリシヲ以テ其速力ヲ數字ニテ示スヲ得ザルモ漁夫ノ言ニ依レハ縣下足柄下郡地方ノ最モ急激ナル潮流即チ小臺網ノ浮竹ヲ海底ニ逼ハシメ或ハ新調ノ網地ヲモ切落ス程ノモノニ比スレハ其ノ半ニモ及ハサルヘシ

七月下旬ノ急潮ニ際シ浮木ノ水中ニ潜沈セシコトアルモソハ潮流ノカバカリ急激ナルニ依ルニアラスシテ浮木ノ浮力ノ比較的弱カリシニ因ルコトヲ知レリ

要スルニ本年ノ急潮ハ西潮ニ多ク而シテ其程度ハ定置漁業ニ(他地方)甚シキ障害ヲ與ヘサルモノナルコトヲ認ム

一、海底ノ状態

海底ニハ多少ノ岩礁在散セルモコレヲ避ケ網具ヲ敷設スルハ容易ナリ他ハ概シテ砂泥質ニシテ所謂底ノ動キナク礎持チハ良キカ

如シ

一、漁獲物ノ少量ナリシ理由

網ノ臺尻ニ深十八尋幅約十五間長約三十間ノ岩礁アリ鮭、鯖等ノ大群ハ常ニ此岩礁迄來リ其以內ニ進入セサルハ度々實見セル所ナリ鱈群ノ其以內ヘノ來否ハ確認スルコトヲ得ザリシモ或ハ魚群ノ多クハ此岩礁ニ依テ其道ヲ遮ラレタルカ如シ此岩礁ノ深サハ相當深キヲ以テ此等魚群ノ魚道ヲ遮斷スルコトヲ得サルヘシト謂フ者アルモ此岩礁ノ外方ハ突如トシテ深サ二十三尋ヨリ漸次其深ヲ増加セルヲ以テ其狀況恰モ魚群ノ集游ニ適スルモノト見ユ

又毎ニ夕暮ノ網ニノミ比較的漁獲ノ多カリシヨリ察スルニ大群ノ集游スル依置ニ網口ノ達セザリシヲ知ル、コレ漁獲ノ少量ナリシ理由ノ一ナリ

試験中既ニ右ノ如キ現象ヲ生シタルモ經費ノ都合上網形ヲ擴大シテ外方ニ更ニ敷設スルコトヲ得ザリシハコレ漁獲ヲ増進セザリシ理由ノ一ナリ

試験地地方ハ瓢網ニ對シ潮流緩ナリト稱スルコトヲ得ス、又海水ノ透明度(最モ透明ナル時ハ二十尋以上)ハ富山縣地方ニ比シ高キ場合多キガ如シ仍テ小型瓢網ハ或ハ急潮ノ爲メ上網返網ヲ吹キ上ケ或ハ清澄ノ爲メ魚類ノ面前ニ網ノ所在ヲ明ニシ一旦猪子前ニ誘導セル魚群ヲシテ返網ニ致ラシメス要スルニ小型瓢網ハ該地方ニ適當セサルカ如シ、コレ魚群來游ノ割合ニ漁獲ヲ伴ハサリシ理由ノ一ナリトス

一、結 論

本年度試験ニ於テ魚類回游ノ狀況潮流ノ緩急等ト定置漁具トノ關係ヲ實驗スルコトヲ得タルモ僅ニ一ケ年ノ實驗ヲ以テ事實ヲ斷定シ將來ヲトスル能ハス

仍テ大正三年度ニ於テ再ヒ本年度試験場所ノ外方カサレハ近隣地方ニ適地ヲ索メテ本試験ノ要旨ヲ達シ併テ本漁業ハ果シテ有利ノ事業トシテ成立スヘキヤ否ヤヲ明ニセントス

櫻蝦漁場調査試験

試験ノ要旨

從來本縣相摸川以西ノ沿岸ニ於テ櫻蝦棲息ノ形跡アリ而シテ其ノ海況ハ恰モ櫻蝦ノ主產地タル静岡縣由比、蒲原地方ニ酷似セ
ルヲ以テ或ハ同蝦ノ漁場アルヘシト爲シ嘗テ一二ノ漁業者ニ依テ試験セラレタルコトアルモ漁場ヲ發見シ能ハサルヲ以テ僅ニ
數日ニシテ中止シ其ノ目的ヲ達スルヲ得サリシト云フ然レトモ斯クノ如キ漁場ノ調査ハ僅ニ二三回漁具ヲ使用スルモ漁獲ナキ
ヲ以テ直ニ之ヲ斷念スヘキニアラサルヤ勿論ナリトス
隣縣静岡ニハ僅ニ數里ノ沿岸ニ就テ能ク數十萬圓ノ漁獲ヲ擧ケ頗ル有利ナル漁業タルヲ見ル本縣下ニハ果シテ本漁業ヲ經營ス
ルニ足ル漁場アルヤ否ヤヲ調査スルノ最モ緊急ナルコトヲ感ス仍テ之レカ調査試験ヲ行ヒ該漁業ノ啓發ニ資セントス

試験ニ關スル豫備調査

本試験開始前準備行爲トシテ調査セシ要項ヲ記シ參考ニ資セントス

- 一、静岡縣ニ於テ本漁業創始前ニ由比ノ鰯揚網ニテハ己ニ久シキ昔ヨリ往々一夜一石位ノ漁獲ヲ見又鯛底刺網ニ纏絡セル少
數ヲ見ルコトアリタリ
 - 一、本縣ニハ初夏ノ候手繰網、地曳網ニ二合宛入ルコトアリ(年ニヨリ)
 - 一、漁獲セラル、鮭、魴、鯛、鯛ノ胃中ニ發見スルコトアリ
 - 一、秋季漁獲セル鮭ノ胃中ニ充滿セルコトアリ
 - 一、秋季小臺網ニテ數斗ヲ獲ルコトアリ(年ニヨリ)
- 漁場ニ出テ、蝦群ノ有無並ニ其ノ厚薄ヲ測知スル方法アリトセハソハ漁場調査上最モ參考ニ値スル事項ナリトス

一、静岡縣ニ於テハ「しらむ」ト稱シテ水面ヲ游泳スルコトアリ特ニ五月頃多シ

一、網ヲ用フルコトナクシテ直接測知スルノ方法ナシト云フ

一、本縣ニ於テハ「しらむ」ヲ見タル漁夫ナシ(或ハ注意充分ナラサルニ因ルカ)

一、烏賊、鯖ヲ釣ルニ用ル漁燈ニ集ルヲ見タリ

櫻蝦ノ習性ヲ詳ニスルハ漁獲上欠クヘカラサル要件トス

一、夜々浮沈定リ難シト雖モ晴夜氣溫水温共ニ比較的高キ時ハ浮上スルカ如シ

一、游泳ノ速力ハ極テ緩ナルカ如キモ四、五月ニ入レハ漁場ノ移動頻々タリ

一、底質軟泥ヲ好テ棲息スルカ如シ網具ノ海底ニ達セサルニ往々泥土ヲ被覆セル無數ノ櫻蝦ヲ上網スルコトアリ

一、嗜食スル餌料ニ關シテハ未タ詳細ヲ知ラス水産講習所中澤技師ノ說ニ依ハ櫻蝦ハ泥土ヲ食シ其ノ内ノ有機分ヲ以テ營養ト
ナスカ如シ

漁夫ノ言ニ依レハ産卵期ハ五月末ヨリナレトモ其稚仔ハ何處ニ於テ成長スルカヲ知ラス

産卵後ハ皮殼俄ニ硬靱トナルト云フモ一ケ年ヲ通シテ見ル時ハ五月及九月ニ於テ皮殼最モ硬靱ナルカ如シ

産卵期前ハ由比蒲原沖一面ニ櫻蝦群密度ノ甚シキ差異ヲ生セス又大ナル距離ヲ移行セスシテ比較的散漫セリ

産卵期ニ入レハ即チ一所ニ密集シテ常ニ雁行シ漁夫ヲシテ最モ垂涎ニ堪ヘサラシム

櫻蝦ノ分布カ何程ノ深ニ及ヘルカニ關シテハ未タ知ルコトヲ得サレトモ三百尋以上ノ深キヨリ釣リ揚ル鮭黒魚ノ胃中ニ蝦
ノ存スルヲ見レハ數百尋ノ深層ニモ棲息スルモノ、如シ

蝦網ノ最モ深ク沈降スルトキハ約七十尋ニシテ豐漁ノ際ハ僅ニ二十尋附近ニ浮上セリ

漁期ハ十二月ヨリ翌年五月迄ニシテ概シテ一、二、三月ヲ盛期トス

一、漁法等其他ニ關シテハ茲ニ之ヲ省ク

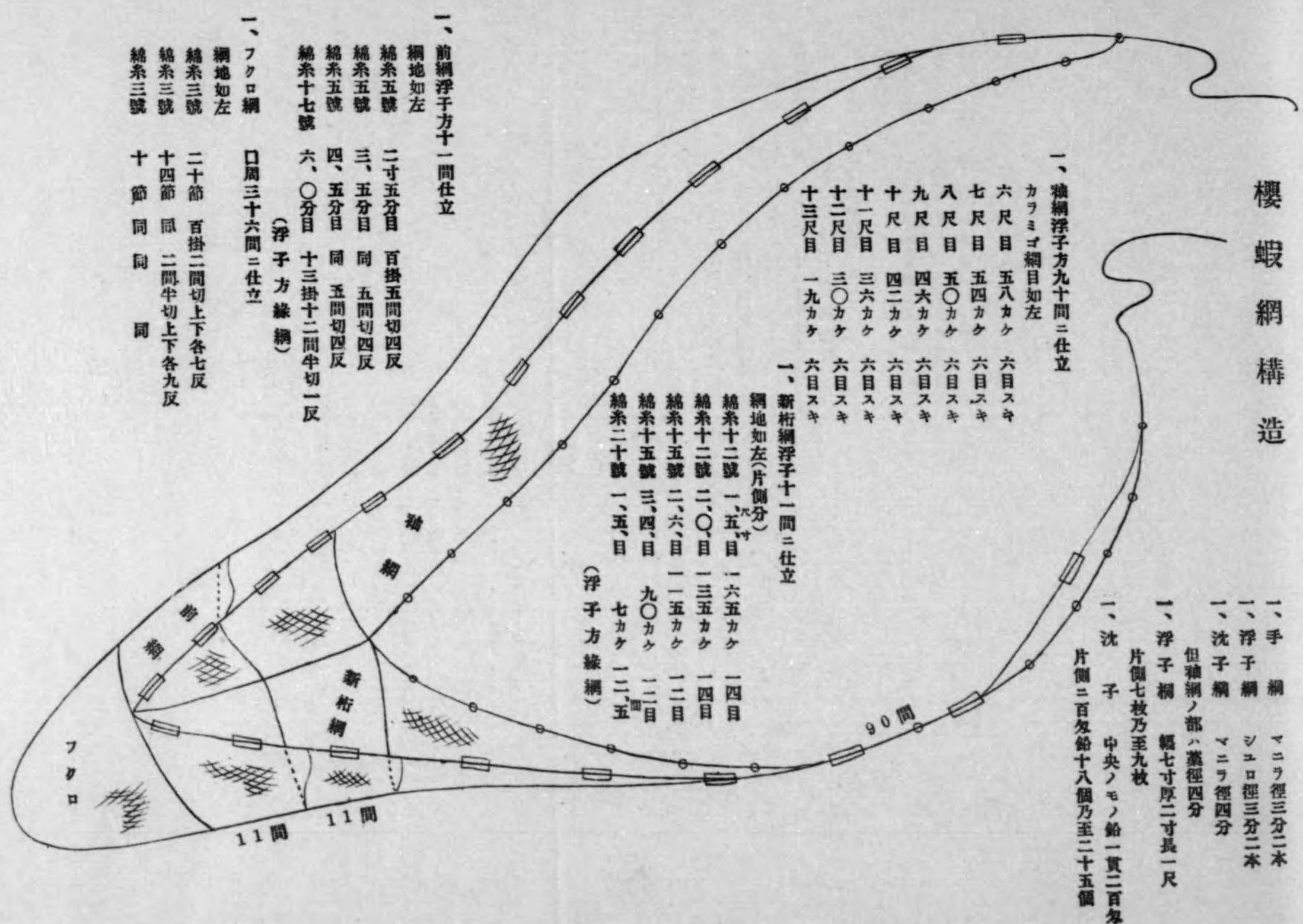
試験ノ方法

- 一、漁具
 - 漁具ハ蒲原地方ノモノニ準據セリ其ノ構造別圖ノ如シ
- 一、漁夫
 - 漁具ノ使用法ハ獨特ナルヲ以テ蒲原地方一名ノ助手ヲ雇入レ他ノ漁夫ハ(十七人)當地方ノモノヲ雇用セリ
- 一、漁法
 - 普通揚繰網ノ如ク風下張潮上張トシ水面ノ浮子網トノ角度普通二十度乃至六十度ニ至ル迄沈降スルヲ待テ或ハ直ニ或ハ十數分間ノ後初メ舫網ヲ取ラスシテ揚網ス
- 一、漁船
 - 特別ノ構造ヲ要セス肩六尺ノモノ二艘
- 一、根據地
 - 足柄下郡前羽村ハ相模川以西沿岸ノ中央ニ位スルヲ以テ全沿岸ヲ調査スルニ便宜ナルヲ以テ根據地トセリ
- 一、漁期
 - 一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ撰ヘリ之レ隣縣ニ於ケル盛漁期ナレバナリ

試験ノ成績

自一月下旬至三月下旬期間ニ於テ暗夜十六夜、自大磯至小田原海深三百尋乃至四十尋ニ於テ漁場ヲ探索センニ毎夜到處使日毎ニ必ス多少漁獲ヲ見タルモ集團極メテ稀薄ナリキ
 漁獲極少量ナルヲ以テ漁獲量ト氣象海況トノ關係ヲ測知スルニ由ナシ
 今回試験ノ成績ニ依リ此沿岸ニ於テハ漁場ナシト斷定スルハ早計ニ失スヘシ何トナレハ尙調査スヘキ季節ノ殘存スレバナリ

櫻蝦網構造



一、手綱 マニラ徑三分二本
 一、浮子網 シユロ徑三分二本
 一、沈子網 マニラ徑四分
 但沈子網ノ部ハ蓋徑四分
 一、浮子網 幅七寸厚二寸長一尺
 片側七枚乃至九枚
 一、沈子 中央ノモノ鉛一貫二百匁
 片側二百匁鉛十八個乃至二十五個

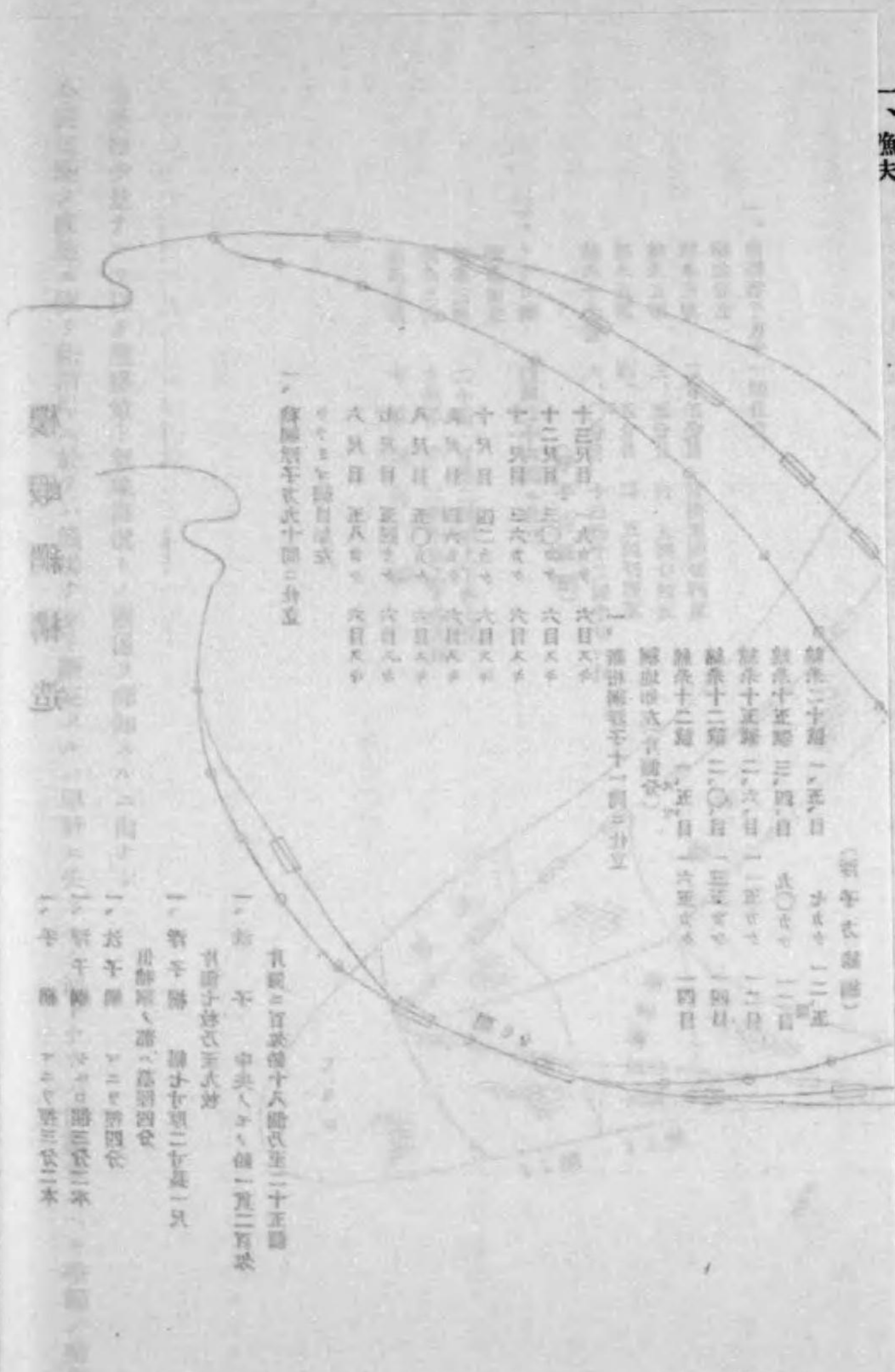
一、新桁網浮子十一間ニ仕立
 網地如左(片側分)
 網系十二號 一、五目 一六五カケ 一四目
 網系十二號 二、〇目 一三五カケ 一四目
 網系十五號 二、六目 一一五カケ 一二目
 網系十五號 三、四目 九〇カケ 一二目
 網系二十號 一、五目 七カケ 一二五
 (浮子方線網)

一、前網浮子方十一間仕立
 網地如左
 網系五號 二寸五分目 百掛五間切四反
 網系五號 三、五分目 同 五間切四反
 網系五號 四、五分目 同 五間切四反
 網系十七號 六、〇分目 十三掛十二間半切一反
 (浮子方線網)

一、フクロ網
 網地如左
 網系三號 二十節 百掛二間切上下各七反
 網系三號 十四節 同 二間半切上下各九反
 網系三號 十節 同 同

試験ノ方法

一、漁具
漁具ハ蒲原地方ノモノニ準據セリ其ノ構造別圖ノ如シ
一、漁夫



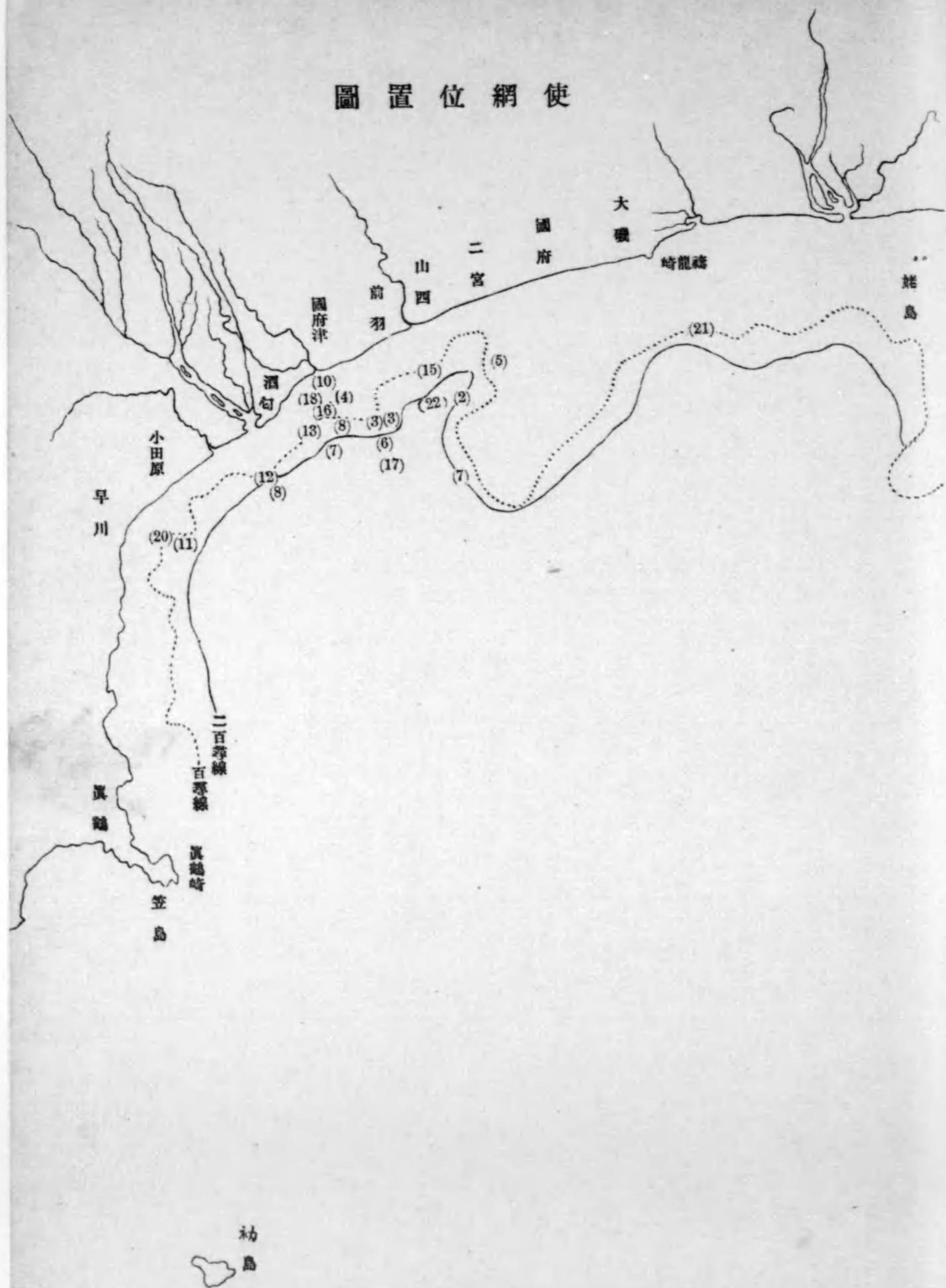
今回ハ彼地ノ盛漁期ニ鑑ミ一、二、三月ニ於テ試験セルモ次回ハ此沿岸ノ手繰網並地曳網ニ入ルコトアリト云フ晩春産卵ノ候若クハ鮭ノ胃中ニ充滿シ及小臺網ニ上綱スルコトアル暮秋ノ季ニ於テ此ヲ試ミントス
尙櫻蝦餌料ヲ需ムル坭土ニ就テ彼我兩縣ノモノヲ比較研究セントス

一、漁獲物

月日	櫻蝦	其他
一、二〇	數尾	はだかいはし數尾
一、二二	數尾	はだかいはし三尾
一、二六	二十餘尾	はだかいはし三十餘尾、ひしこ二尾、いか稚三尾、たち稚三尾等
一、二八	七尾	はだかいはし數十尾、ひしこ一尾、みづいか稚五尾
一、二九	三十餘尾	みづいか稚六尾
一、三二	數尾	はだかいはし數十尾、ひしこ一尾、みづいか、くらげ、たち等
二、一七	(稚蝦多シ)約五升	はだかいはし約一升、ぐみいか數十尾、其他雜
二、一八	約一合	はだかいはし約五合其他
二、二〇	數尾	はだかいはし數尾其他
二、二二	約二合	はだかいはし數十尾其他
二、二四	約二合	はだかいはし數十尾其他
三、二二	數尾	はだかいはし數百尾、ひしこ十餘尾、其他
三、二七	約二合	はだかいはし、ひしこ、其他若干
三、二八	約一合	同前 外小あじ十餘尾
三、二九	約一合五勺	同前 外小のは數十尾

二月十七日漁ノ蝦ハ殆ント全部 Euphausia ニシテ稀ニ櫻蝦 Sergestes phosphoreus Kishinouye ヲ交ヘ二月二十一日漁ノ中

使網位置圖



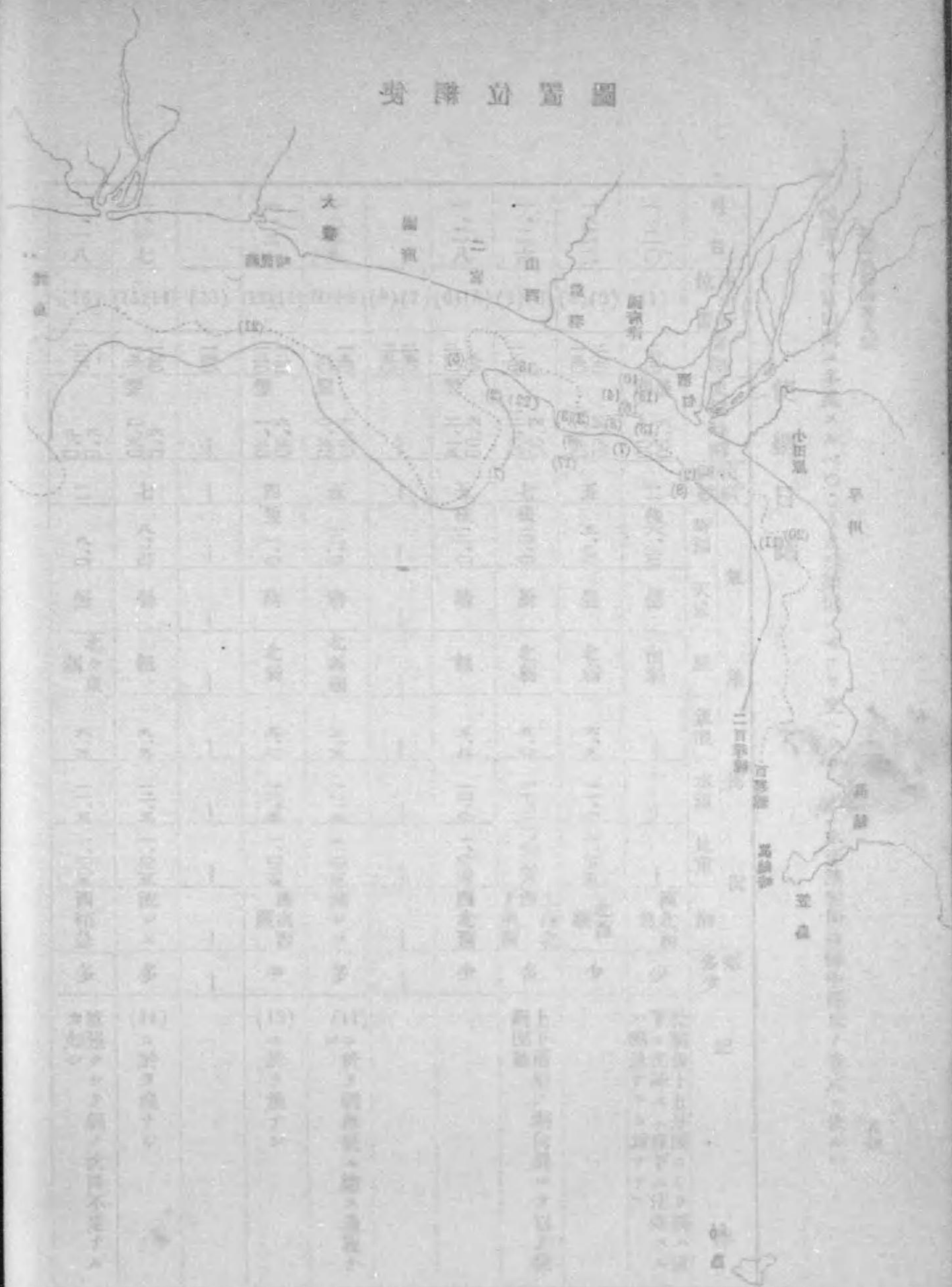
櫻鮒漁場調査誌
ニハ懷卵セル富山灣ニ多産スルベツコウスル似ノモノヲ交ヘタリ (水産講習所技師中澤氏ノ査定ニ依ル)

使網日誌

月日	主ナル位	海深	使網時刻	使網回数	時刻	天氣	風象	氣溫	海水溫	比重	潮況	蝦	記事
一、二〇	(1)	同後	八、三〇	二	後六、三〇	曇	南弱	—	—	—	西北西急	少	投網後十五分間ニシテ網ハ直下ニ沈降ス(直下ニ沈降スルハ潮急ナルカ爲ナリ)
一、二二	(2)	一、五〇	一、五〇	五	五、三〇	曇	北弱	六、五	二、〇	二、〇五	北西緩	少	上下兩層ノ潮向異ルヲ以テ使網困難
一、二六	(3)	二〇	二、〇〇	七	後〇、〇〇	曇	北弱	五、〇	二、二	二、〇四	上西北下南西	多	
一、二八	(4)	二〇	二、〇〇	五	後二、〇〇	晴	無	五、八	二、〇	二、〇六	西北西	少	
一、二九	(5)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(6)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(7)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(8)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(9)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(10)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(11)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(11)ニ於テ網海底ニ達ス漁獲ナシ
一、二九	(12)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二九	(13)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(13)ニ於テ漁ナシ
一、二七	(14)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
一、二七	(15)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(11)ニ於テ漁ナシ
一、二八	(16)	二〇	二、〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	風強クシテ網ノ沈降不定ナルカ如シ

三、二九	三、二八	三、二七	三、二二	三、二一	二、二四	二、二一	二、二〇
(16)(6) (14)(14) (22)	(22)	(22)(21)	(20)(11)	(19)(14) (16)	(18)(4) (16)	(7)(1)	(16)(14)
		二〇〇〇	九	〇〇	一〇〇	三〇〇	一
六、三〇	一、五、三〇 一、四、三〇	〇、六、三〇 〇、三、三〇	七、五、三〇 三、三、三〇	一、六、三〇 〇、〇、三〇	一、六、三〇 〇、〇、三〇	〇、五、三〇 三、三、三〇	一、六、三〇 四、四、三〇
八 八、三〇	五 三、〇	四 三、〇	二 六、〇	五 二、三〇	七 九、〇	六 八、三〇	四 一〇、〇
曇	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇
北西弱	北東強	北々西弱	北西弱	西北西弱	北西弱	北弱	北弱
八、〇	九、〇	六、五	一五、五	二、〇	六、七	八、〇	五、八
二六、〇	一五、五	二六、〇	一五、五	二四、二	二、五	二二、〇	二〇、二
一、〇、三	一、〇、四	一、〇、三	一、〇、四	一、〇、三	一、〇、五	一、〇、四	一、〇、六
東緩	東急	東上緩 下急	南々西緩	東南東緩	流レス	東緩	西北西緩
多	多	多	少	少	多	少	少
	潮急ニシテ使網困難				櫻蝦ノ体比較的肥大	懷卵セル蝦ヲ交フ	

表 陣 立 置 圖



集魚燈試驗

試驗ノ趣旨

縣下何レノ沿岸ニ於テモ多量ノ鰹群ヲ見ル然レトモ其漁法ヤ甚タ幼稚ニシテ三浦郡ニ於ケル十餘統ノ鰹揚網ハ集魚燈ヲ以テ夜間從漁スルコトナク又三浦、鎌食、高座、中ノ各郡ニ於ケル百數十統ノ鰹八田網ハ小ナル網ニ多額ノ餌料石油ヲ費シ多數ノ漁夫ヲ不經濟ニ使用セリ、而モ此近海ハ更ニ大規模ニシテ有利ナル鰹漁業ニ進ムヘキ漁場ノ餘裕綽々タリ
 仍テ本縣ニ於ケル鰹漁業ヲシテ發達セシムル第一着手トシテ比較的光力強キ集魚燈ヲ使用スルニ於テハ如何ナル程度迄有効ニシテ且經濟的ナルカラ試験セントス

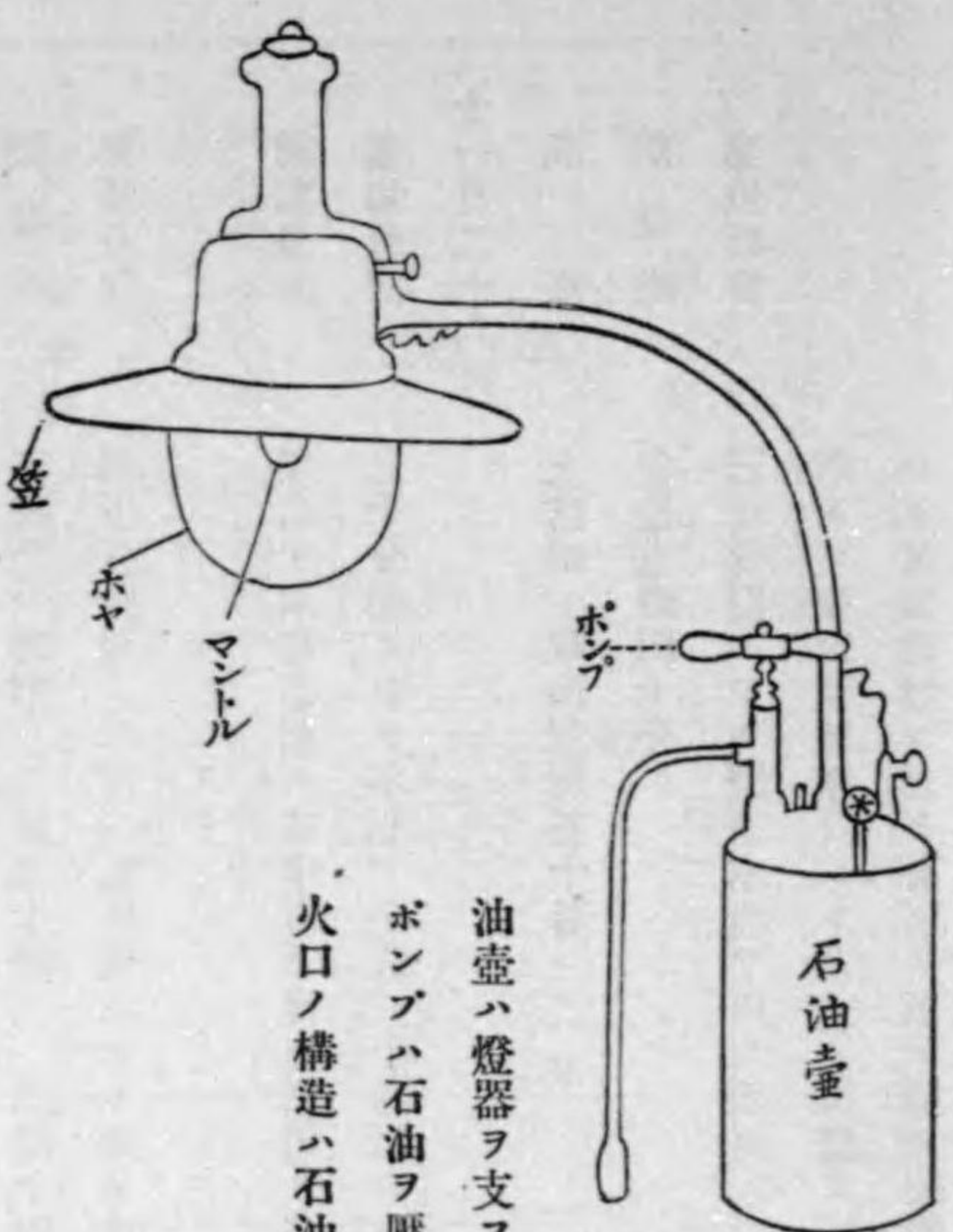
試驗ノ方法

- 一、三浦郡北下浦、南下浦漁業組合ニ集魚燈ヲ貸與シ鰹揚網ニ之ヲ用ヒ如何ナル海深ニ於テモ集魚シ且漁獲シ得ルヤヲ試驗セシム
- 一、高座郡茅ヶ崎漁業組合ニ集魚燈ヲ貸與シ鰹八田網ニ用ヒ從來ノ集魚燈ニ比シ石油及餌料ノ消費ヲ如何ニ減量シ得ルカラヲ試驗セシム

試驗用集魚燈

五百燭光「ブランチャードランプ」ヲ採用セリ

高	約 三尺五寸	重量	約 七貫匁
石油壺	六升入	定價	百貳拾圓



油壺ハ燈器ヲ支フル臺ヲ兼ス
 ポンプハ石油ヲ壓スル爲空氣ヲ入レ及油壺ニ油ヲ注入スルニ用ヒラル
 火口ノ構造ハ石油瓦斯ニ點火スル如クナレリ

試驗ノ成績

- 一、三浦郡鰹揚網ニ於ケル成績
 三浦郡北下浦村沖合海深約百尋ニ於テ網丈約二十尋ノ揚網ヲ以テ三時間ニ鰹百籠ヲ漁獲シ試驗ノ目的ヲ達シタルカ如シト雖漁業時期及天候ノ關係上完全ナル試驗ハ僅ニ一夜ニ止マリ未タ該地方漁業者ニ確信ヲ與フルコトヲ得サリシモ已ニ本集魚燈ヲ購入使用セントノ熱心ナル希望者ヲ生セリ
- 左ニ試驗當時ノ模様ヲ畧記セン

大正二年十一月二十三日
 漁 場 三浦郡北下浦村長澤 東徹南 海深約百尋 點燈 午後六時

集魚時間 第一回 一時間 第二回 三十分間 第三回 十五分間
 漁獲數量 同 二十籠(斗入) 同 四十籠 同 四十籠

午後七時氣温十二度、水温十六度、比重一〇三三水色濁透明度燈下四、潮流急ニシテ第三回ノ如キ網浮子ヲ沈メ網内鯷ノ大半ヲ逸ス、鯷ノ外鱈、鱒、鯖、さより等交リ來リ鯷ハ燈下ヲ距ル約五間ニ飛躍シ又燈下ノ近傍ニ泡ヲ出フ

試驗前日二十日ハ南下浦ニ於テしらす地曳網ニ少數ノ鯷混入シ二十一日ハ午後揚繰網ニ少數アリ二十二日ハ近海鯷漁ナシ水揚高七拾圓 石油消費高拾貳錢 漁夫給水揚高ノ七割

十一月二十四日 出漁スルモ強風ノ爲點燈ニ至ラスシテ歸港
 十一月二十五日 北風強カリシヲ以テ手船ニテ集魚燈ノミヲ持テ出ツ

漁場 上宮田 東南東海深約五十尋
 點燈時 午後十一時半 氣温十度 水温十四度 海水濁透明度三 波稍高
 集魚時間 四十五分間 だつ數尾來リシモ殆ト睡眠セサルカ如ク運動不活潑ニシテ攪網ニテ容易ニ抄ヒ取ルヲ得

同點燈時 翌二十六日午前一時半南下浦上宮田ノ沿岸海深四尋ニ於テ
 集魚時間 三十分間ニシテ小鯷、小蝦、小烏賊ノ少數ヲ見ルノミ 鯷無數ニ集リ透明度僅ニ二尋トナル

十一月二十六日
 漁場 上宮田 東海深約五十尋
 點燈時 午後五時四十分
 集魚時間 三十分間ニシテ燈下水泡ヲ出シ須更ニシテ水面下ニ鯷密集スルヲ見ル
 然ルニ強南西風來ラントスルノ模様アリタルヲ以テ網ヲ舫ヒ居ラス此際燈船ヨリノ指揮ヲ受ケ舫ヒ始メシニ南浪突如トシテ高マリ來リ網ノ使用困難ナルヘキヲ豫想ニ依リ故ニ斷念シ消燈セルニ鯷ノ吹き上ク

一、高座郡鯷八田網ニ於ケル成績
 ル泡ト群集トハ愈々増加スルヲ明瞭ニ認メタリ其後連日北風強ク試驗ヲ中止セリ

試 驗 月 別 日	十一月二十八日		三年二月十五日		二月十八日		合 計	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙
漁獲高	五三杯	三一杯	一三杯	七杯	二四杯	二杯	六二九〇	二六、五〇〇
石油代	三、七〇〇	三、〇〇〇	九、〇〇〇	四、九〇〇	一六、八〇〇	一、四〇〇	〇、一〇〇	一、五〇〇
石油代甲乙差	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
漁獲高增加數(甲乙比)	一、八、六〇	一、〇、〇〇	二、六〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、一、五〇	一、一、五〇
石油代減額ノ少數(甲乙比)	一、八、六〇	一、〇、〇〇	二、六〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、一、五〇	一、一、五〇
餌代	同	前	同	前	同	前	〇、五、一〇	〇、五、一〇

右表甲船ハ本集魚燈ヲ試用セルモノニシテ毎夜同一漁場ニ二十餘張出漁シ其ノ内最高漁獲ヲナシタルモノヲ乙船トス
 二月十五日、十八日ノ如キハ甲船以外ノモノハ從漁時間ヲ増加スレバスル程損失多キヲ以テ毎ニ甲船ヨリ從漁時間短縮セリ
 本試驗ハ恰モ薄漁ニ際シタルヲ以テ前表ノ如キハ統計トシテ完全ナルモノニアラス單ニ前表ニ依リ直ニ集魚燈ノ價值ヲ稱揚スルニ足ラサルヘシト雖モ右試驗ノ結果ハ正ニ漁獲高二割五歩ヲ増シ石油代ヲ八歩ニ減シ(豊漁ノ歲ハ石油百圓位ヲ用ユ)餌代ヲ半減(四百圓位使用)セシヲ以テ要スルニ漁ノ豊凶ニ係ハラス石油代並ニ餌代ヲ大ニ減シ得ヘシト推定スルモ大過ナカラン該地方ノ漁業者ハ本集魚燈カ從來ノモノニ比シ集魚力強ク且石油代餌代ヲ節約シ得ルコトヲ確信セリ
 然レトモ本集魚燈ノ價格ハ八田網漁業ノ經濟ニ對シ餘リニ高貴ナラスト雖モ從來ノ集魚燈ト其ノ使用裝置ヲ異ニ(本集魚

燈ハ別ニ火船ヲ要ス。セルヲ以テ或ハ經濟成立スルヤ否ヤヲ保セス。茲ニ於テ彼等ハ八田網ガ小ニ過クルコトヲ痛切ニ感シ將來大規模ノ鰹漁業ニ進ムヘキ時運ニ際會セルヲ悟レリ。斯クノ如クシテ本試驗ハ其目的ノ半ニ達スルヲ得タリ。今左ニ試驗當時ノ模様ヲ略記セン。

大正二年十二月二十八日

漁場 茅ヶ崎沖海線百二十尋

點燈時 午後六時 南風軟微雨水温十五度 透明度燈下五 點燈直チニ鰹燈下ニ近ク游泳ス群極メテ薄シ

集魚時間 三時間半 此間使網回数二十回 群薄クシテ一回ノ漁獲五杯ヲ超ユルヲ得ス

午後九時半 位置ヲ移シ集魚シタルモ風潮ノ釣合不良ニシテ網具ノ使用ニ堪ヘス今回ハ餌料ヲ用フルコトナクシテ集魚スルコトヲ得タリ

同一漁場ニ出漁セル二十八張ノ八田網ハ普通漁獲十數杯ニシテ最高ト雖三十一杯ニ過キス本船ハ擧テ、五十三杯ヲ漁獲セリ

試驗前後ノ模様

二十六日 鰹群ヲ見サル爲出漁セシモノナシ

二十七日 江島沖ニ大漁

二十九日 強風ノ爲出漁セシモノナシ

大正三年二月十五日

漁場 茅ヶ崎沖深六十尋

點燈時 午後六時 南微風曇

集魚時間 二時間 鰹群薄ク使網十數回ニシテ僅ニ十三杯ヲ得タルノミ鰹ノ外だつ小蝦火ニ付ク

同一漁場ナル他ノ二十六張ノ八田網ハ薄漁ヲ豫想シテ點燈集魚ヲナサルモノアラリ普通ニ、三杯漁最高ト雖モ僅ニ

七杯ヲ超ヘサリキ

二月十六日 點燈集魚セルモ鰹更ニナシ蓋シはものまはしナリ

二月十七日 強風ノ爲休漁

二月十八日

漁場 茅ヶ崎沖深六十尋

點燈時 午後六時 曇 氣温九、七 水温一四、七

集魚時間 五十分 漁獲高二十四杯 強風ノ爲中止歸船

同一漁場ニ於ケル二十餘張ノ八田網無漁又ハ僅ニ二杯ノ漁獲

集魚燈ノ構造等ニ就テ

一、形態重量共ニ小ニシテ据付運搬輕便ナリ

一、石油消費量一時間約一合三勺ニシテ從來八田網ニ使用スル茶瓶型燈(木框ニ載セ網上ニ流シ浮フ裝置)三個一時間二升ニ比シ其ノ量ニ於テ僅ニ六歩五厘(茅ヶ崎ニ於ケル實驗ニ依レハ其ノ價額八歩)ニテ足り又他ノあせちりん瓦斯集魚燈、石油集魚燈ニ比シ同燭光ニ消費セラル、石油ノ量少キカ如シ

一、集魚ニ際シ光達圈ノ擴張及光力ヲ増減自在ナレハ便宜ヲ得ル事大ナルモ本集魚燈ニ於テハ其ノ裝置ヲ欠ク

一、燈火能ク強風ニ堪テ消ユルコトナシト雖モ火屋ハ無孔硝子製ニシテ點燈中大ナル波沫ニ溶スル時ハ龜裂ヲ生シ之ヲ數回重スルトキハ遂ニ破壊ス他ニ適當ナル材料ヲ需ム(雲母ニテ試製セリト聞ク)ルノ必要アリ

一、殊ニ動搖激シキ小漁船ニ於テ取扱粗暴ナル漁夫ニ對シ本集魚燈ノ如キ脆弱ナルはや、まんとるハ使用ニ熟練シ緻密ナル注意ヲ拂フニ至ル迄不適應ノモノト謂ハサルヲ得ス(はや、まんとるハ取扱ニ注意スレハ破損スルコトナク長日月ノ使用ニ堪ユ)

- 一、本集魚燈ニ點燈セントスル際點火用トシテあるこゝるヲ要ス是亦避クヘカラサルモノト雖モ漁夫ハ複雑ヲ感スヘシ
- 一、石油ハぼんぶニ依リテ便宜ニ且安全ニ注入スルコトヲ得
- 一、石油壺ニハ時々ぼんぶヲ以テ空氣ノ注入ヲ要スルモ使用簡易ニシテ漁夫ハ更ニ煩雜ヲ感セス

鯉節製造傳習

趣旨

本縣ハ京濱ノ大都市ヲ控ユルヲ以テ從來漁獲セル鯉類ハ殆鮮魚トシテ需要セラレ鯉節製造ニ従事スルモノ極メテ少カリシカ時世ノ進運ハ之ヲ以テ満足セス足柄下郡小田原町ニ於ケル製造業者ハ年々静岡縣ヨリ教師ヲ聘シテ製造方法ノ改善ヲ企圖シ近時技能ノ熟達ハ事業ノ盛大ト相俟ツテ駿豆産ト相伯仲セントスルノ傾向ニアリ又三浦郡三崎港ニ於テハ漸ク兩三年前鯉節製造ノ濫觴ヲ見タルニ過キササルモ鯉節ノ發展ト漁船入港ノ増加トニ伴ヒ益々進運ノ機ニ臨メリ

而シテ其ノ製造法ニ至リテハ漸次改善ノ域ニアリト雖、尙研究スヘキ點少ナカラス、殊ニ製造上最モ難事ト稱セラル、削法ノ如キハ其ノ技頗ル陋タルヲ免レス、仍テ該製造業ノ發達ニ資センニハ一般改善獎勵ト共ニ削法傳習ノ緊要ナルヲ感シタルヲ以テ茲ニ足柄下郡小田原町ニ於テ傳習ヲ實施セントス

成績

傳習生七名年齢十三歳乃至十五歳ニシテ當業者ノ子弟ヲ採用シ且獎勵ノ爲メ相當手當ヲ支給セリ

傳習ヲ行フコト三ヶ月間(自七月中旬至十月中旬)材料僅ニ百貫目餘ニ過キサリシモ其ノ技頗ル熟シ成績極メテ佳良ニシテ益々傳習生ヲ増員シ材料ヲ増額シ繼續之ヲ實施セントス

燻製鰯及アンチオビ製造指導

(イ) 燻製鰯

本縣足柄下郡ニ於テハ鰯大敷網又ハ大謀網數ヶ所ニ設置セラレ毎年(自一月至五月)三十萬乃至五十萬圓ノ漁獲アリ(大正三年ハ六十萬圓ヲ算ス)其ノ過半ハ鰯ニシテ通常一貫目ニ付一圓乃至三十五錢ノ相場ヲ唱へ皆鮮魚トシテ京濱ニ供給セラル、ト雖多數漁獲セラル、時ハ其ノ處理ニ因シ價格暴落スル場合尠ナカラス、仍テ茲ニ適當ナル化製方法ヲ施シ以テ其ノ利用ヲ計ルノ適切ナルヲ感シ、大正三年二月二十一日足柄下郡酒匂村小八幡大謀網ニ於テ漁獲セル約一萬二千尾ノ内約二十尾(平均二貫目)ヲ以テ供試料トシ燻製鰯製造指導ヲ行ヒ以テ、ホテル業者及内外商人ノ品評ヲ得タルニ要ハ孰レモ香味色澤佳ナルモ、猶鹽味燻乾程度及調理法ニ關シテ研究シ延イテ需要方法ニ付キ考究スルノ餘地尠ナカラサルカ如シ

尙鰯ハ脂肪分量多量ニシテ其ノマ、空氣中ニ放置スルトキハ香味色澤ヲ失ヒ易ク長キ保存ニ堪ヘサルヘキヲ以テ恰モ燻腿ニ於ケルカ如キ体裁ニ包裝シ其ノ保存程度ヲ試ミツ、アリ

(ロ) アンチオビ製造指導

縣下至ル處存黒鰹ヲ産スルモ之等ハ養乾鰹、目刺鰹及べ粕ノ原料タルニ過キス仍テ之ヲ「アンチオビ」ニ試製試賣スルノ必要ヲ感シ大正三年五月、縣下高座郡水産會ヲシテ數樽ノ試製ヲ行ハシメ現在之ニ對スル海外ノ品評ヲ求メツ、アリ

鹹水養殖試驗

趣旨

現今淡水養殖業ハ確實ナル産業ノ一トナルモ鹹水養殖業ニ在リテハ僅カニ内灣淺海ニ於ケル介藻類ノ外蝦類等ノ蓄養ニ止リ未ク廣ク魚蝦ノ養殖並蓄養行ハレサルハ從來漁業ニ俟ツ處蓋シ大ナリシカ爲ナリト雖、今ヤ沿海性種族ニ在リテハ稚魚ノ養殖及適種ノ蓄養ハ最モ緊要且有利ナル事業トス

殊ニ本縣ハ東京横濱ノ大都市ヲ控ヘ又縣内避暑遊覽地ニ富ミ終年需用多ク而カモ高價ナリ然ルニ縣下十數萬坪ノ廢止鹽田、潮溜等空シク放棄セラレ尙適地尠カラサルニ未タ期業ノ勃興ヲ見サルハ甚タ遺憾トスル處ナリ

茲ニ於テ本場ハ最モ集約的ニ鹹水魚蝦ノ養殖並蓄養試驗ヲ行ヒ荒無地ノ利用ト共ニ大ニ斯業ノ開發ニ資セントス

試驗池ノ位置及地勢

久良岐郡金澤村字洲崎ニ設置ス廢止鹽田ノ一部ニシテ附近一帶ニ廢止鹽田並潮溜多ク平坦低地ナレトモ風水被害殆トナシ南ハ金澤灣ニ接シ東ハ水産講習所養蠶試驗池ニ北ハ廢止鹽田ニ西ハ水田用排水路ニ界ス

金澤灣ハ潮汐干満ノ差五尺位ニシテ干潮時底部露出シ附近河川ト稱ス可キモノナキモ鹹度低シ

面積及建築物

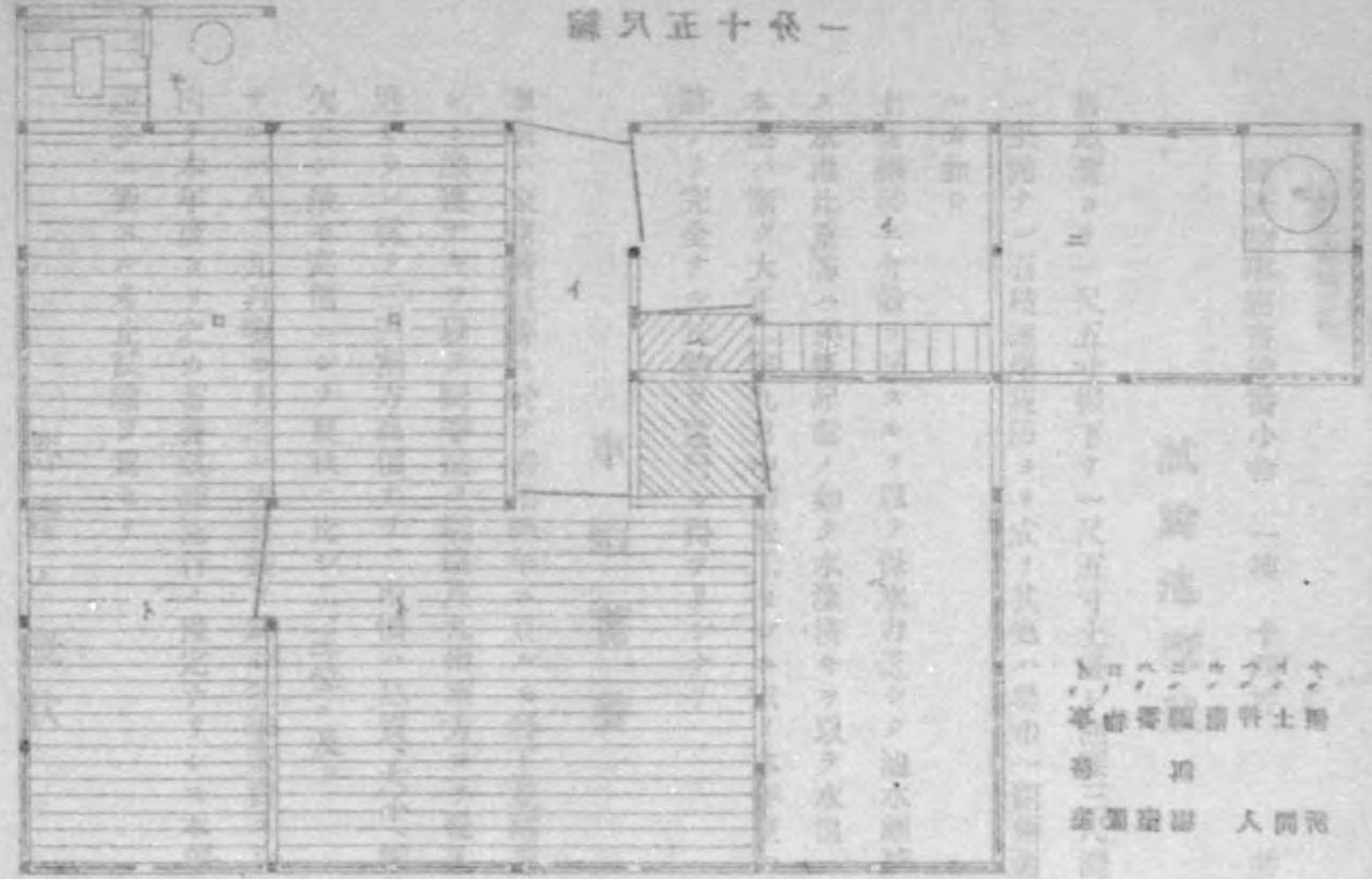
總面積	千四百九十六坪	堤防面積	二百八十坪	池水面積	千六十六坪
宅地面積	百五十坪	第I號池	百坪	第II號池	百坪
第I號池	百四十四坪六合六勺	第II號池	百坪	第III號池	百坪
第III號池	二百九十三坪七合四勺	第V號池	三百三十七坪五合五勺	導水池	百三十坪五合五勺

鹹水養殖試驗

五五

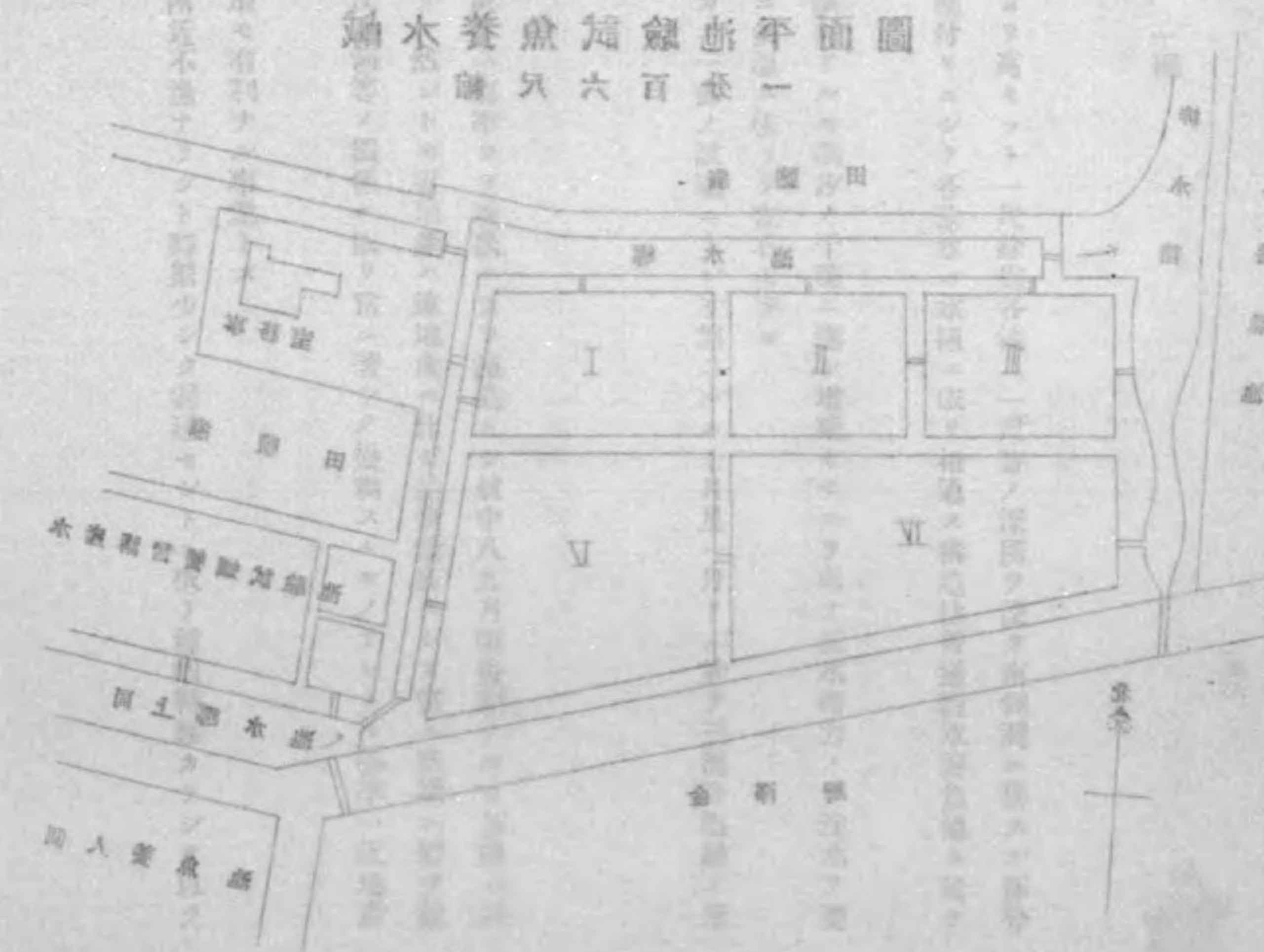
草舎室平面圖

圖一十五第



池水養魚箱平面圖

圖一十六第



第I號池ニ特ニ海濱ノ浮泥ヲ混セサル細砂四五寸層ヲ加ヘ左ノ如ク放養セリ

月日	數	量	平均一尾ノ体長	同体	同重	同價	同格	備考
九月二十五日	五五尾約	五五〇匁	五、五、一	一〇、六、六	四、五	四、五	試驗池附近ニテ手續網ニテ捕獲セルモノ	
十月九日	九五尾約	九三〇匁	五、三、六	九、六、七	四、五	四、五		
十一月十九日	一四五尾約	六一〇匁	四、〇、七	四、二、〇	二、三	二、三	木更津附近ニテ捕獲セルモノ	
合計	二九五尾	二貫〇九〇匁						

晝間ハ砂中ニ潜入シ僅ニ兩眼ヲ砂上ニ現シ更ニ活動セサルモ夜間ニ至リテ匍出索餌シ且脱皮ス
 蓄養期間中体肉ノ消耗ヲ防ク爲メ毎日体重ノ二十分ノ一乃至二十五分ノ一量ノ蜆、雜魚、蠶蛹等ヲ投與セシニ池面ニ比シ放養量
 僅少ナリシヲ以テ捕餌良好ナラス尙十一月中旬後ハ殆ント捕食セザリキ
 蓄養期間内ニ於ケル斃死ノ狀況ヲ視ルニ第一回放養分ハ翌日一尾、第二回分一週間内ニ十四尾、第三回分皆無ナリ第二回分ハ
 漁獲時取扱ヒ粗暴ニシテ負傷且疲勞セシニ依レルカ如シ其後更ニ斃死無カリシモノ十二月上旬ヨリ漸次寒氣甚烈トナリ同月中凍
 死セルモノ十一尾ニ及ヘリ因テ十二月下旬防寒ノ爲メ葦簀ヲ以テ池面ノ一部ヲ蔽ヘルモ尙一月中八尾二月中三尾ヲ算セリカク
 シテ三月二日捕獲販賣セリ其後五日迄ニ捕採ノ際負傷セルモノ七尾斃死セリ
 冬季斃死セルモノヲ檢スルニ殆ント脱皮セルモノノミニシテ脱皮後ハ皮殼柔軟ニシテ直チニ砂中ニ潜入シ得サルヲ以テ寒氣ノ
 爲メ遂ニ凍死セルカ如シ、蓄養中水深二尺内外ニシテ殆ント毎日注水ス、本試驗期間中觀測表ニ示スカ如ク十月二日迄テハ比
 重一、〇一六三四(於攝氏十五度)ナリシモ三日急下シ一、〇〇六六一トナリ引キ續キ四日一、〇〇七五八、五日一、〇〇八三六ノ
 低比重ニシテ六日漸ク一、〇〇一二四ニ至リシモ此間一尾モ斃死セザリキ

蓄養蝦ノ處理

鹹水養殖試驗

前記ノ如ク販賣好期ハ十二、一、二月ニシテ此間ニ於ケル越冬歩減ヲ檢シ其後ハ斃死率モ減少ノ傾向アリ而モ大ニ生長セルヲ認メタリ仍テ三月二日捕採ノ上同夜横濱魚市場ニ販賣セリ
 捕採ハ俗稱「ムツゴ」ニテ砂ヲ掻キ起シ潑出スル蝦ヲ攪網ニテ掬捕セリ捕獲後ハ小箱ニ干燥セル藁ヲ敷キ蝦ヲ列ヘ其ノ上ニ藁ヲ乗セ數層トナシ蓋ヲ蔽ヒテ運搬セルニ何レモ元氣旺盛ナリキ
 販賣總數 百六十三尾 一貫四五〇〇匁

放養時ト販賣時ノ比較

種別	數	量	歩減		不明數	一尾平均體長	一尾平均體量	一尾平均價格
			數	量				
大	放養時	一五〇尾	一、五二〇	三三尾四六八匁	四六尾	五、四三	一〇、二二	四、五
	販賣時	七一尾	一、〇五〇	六、一、九	四、八、〇	一四、八、〇	九、〇	
小	放養時	一四五尾	六、一〇	一二尾六八匁	四一尾	四、〇、七	四、二〇	二、三
	販賣時	九九尾	四、〇〇	四、一、〇	四、三、四	二、三		
合計	放養時	二九五尾	二、一三〇	四五尾五三六匁	八七尾			
	販賣時	一六三尾	一、四五〇					

右歩減數量中七尾四十四匁ハ三月二日捕採ノ際負傷セルモノニシテ越冬中ノ歩減ハ三十七尾四九二匁ニシテ尾數一割三分弱重量二割三分ニ相當スルモ今不明數及捕獲時斃死セルモノ九十四尾九百一匁ヲ加算スル時ハ各尾ノ生長ニ依リ歩減量ヲ補フテ尙餘アリ

然レトモ今回ハ三回盜難ノ形跡アリ不明數ノ爲メ之レヲ確言スルヲ得サルヲ以テ更ニ明年度細密ナル試験ヲ施行セントス
 斯クシテ本試験ハ諸種ノ原因ニ依リ豫定ノ試験ヲ完フシ得サリシモ其結果ニ依レハ大要左ノ如シ

- 一、種蝦ハスヘテ丁寧ニ取扱ヒ負傷又ハ疲勞セルモノハ可成放養セサルコト
- 二、放養時期ハ漁獲ノ豊凶價格ノ如何ニ依レトモ蓄養中生長肥滿セシメ得ラル、ヲ以テ早キ方宜シキカ如シ
- 三、蓄養蝦トシテハ可成大ナルモノヲ撰フコト
- 四、比重一、〇〇八乃至一、〇〇六位ニシテ數日間斃死セサルコト
- 五、十一月中旬後ハ殆ント捕餌セサルモ脱皮ハ越冬中ニテモ行ハル、コト
- 六、カ、ル地勢ノ池中ニ於ケル凍死ノ豫防法ヲ研究スルコト
- 七、不明數ニ依リ歩減率ヲ確定シ難キモ放養蝦ニ注意セバ現池ニテ一割乃至二割位ノ歩減率ニ止メ且ツ歩減量ハ其ノ生長ニ依リ補足シ得ラル、カ如シ

餌育概狀

本種ハ晩秋ヨリ冬季ニ亘リ多獲セラレ殊ニ稚兒ハ安價ナルモ夏季ハ活魚トシテ需用多ク高價ナルヲ以テ之レカ養殖試験ヲ施行セリ
 種魚ハ主トシテまこかれいニシテ「いしかれい」「ほしかれい」幾分ヲ混入ス

總放養量 十七貫五百三十匁 千六百五十尾

放養月日	數	量	一尾平均體長	一尾平均體重
十一月八日	一二〇尾	二貫五六〇匁	五寸三分〇厘	二一匁三分
同 十六日	七〇〇尾	五貫六七〇匁	三寸六分二厘	八匁一分
同 二十二日	三四〇尾	二貫三〇〇匁		六匁七分
同 二十八日	四九〇尾	七貫〇〇〇匁	四寸一分四厘	一四匁八分

備考 體長尾緒ヲ含マス

鹹水養殖試験

飼育池ハ第II號ニシテ同池ハ車蝦蓄養ニ當ツル爲メ特ニ細砂四五寸層ヲ加フ水深平均二尺内外ニシテ殆ント毎日注水セリ
 車蝦ト同様晝間ハ砂中ニ潜入シ兩眼ノミヲ現ハシ更ニ游泳セサルモ夕刻ヨリ夜間ニ及ヒ匍出索餌ス
 餌料トシテハ生雜魚蠶蛹等ヲ與ヘシニ二月初旬頃マテ幾分捕喰セルカ如キモ殆ント殘餌トナレルヲ以テ一時中止シ一月中旬
 ヨリ飼ヲ碎破シテ投與セシニ漸ク捕食スルニ至リシモ到底飼ノミヲ以テ飼育シ難ニ依リ蠶蛹等ヲ混スルモ僅カニ捕食スルノミ
 ナリ而カモ種魚大小混入セルヲ以テ生長均一ナラサルヲ認メタルニ依リ三月二十二日捕獲セリ
 總數十六貫八百五十七尾ニシテ歩減數八十尾七百三十尾ヲ算セリ、右ノ内二百四十尾ハ一尾平均二十六尾強ニシテ
 他ハ平均七尾九分ナリキ乃チ放養時大ナリシモノハ生長肥滿セルニ反シ小ナルモノハ瘠瘦衰弱セルヲ以テ更ニ同地ヲ竹簀ニテ
 二區トナシ捕獲時負傷等ニ依ル斃死者ヲ除キ同日左ノ如ク放養セリ

池別	坪數	放養數	同上量	一尾平均體長	同上體重
イ區	四〇坪	二、三六〇尾	六貫二〇〇匁	五寸五分	二十六匁三分約
ロ區	六〇坪	一、二九〇尾	一〇貫二七〇匁	四寸二分	七匁九分

而シテ三月中毎日餌料トシテ飼イ區ニ升口區三升宛ヲ碎破投與セシニ何レモ盛ニ捕食セリ
 捕獲時ハ池面小ナルヲ以テ排水シ攪網ニテ掬捕セリ

三、あ な こ

本種ハ内灣各所ニ於テ秋期打瀬網等ニテ雜魚ト共ニ多獲セラル、モ種魚ハ鮮魚トシテ殆ント價ナク或ハ佃煮トナシ或ハ時ニ肥料ト爲スコトアルモ一二月頃ニ至リ四、五匁大以上ニ成長セルモノニ在リテハ需用多ク從テ高價ナルヲ以テ之レカ養殖並蓄養ノ有利ナルコト前者ニ同シ

飼育概狀

總放養量二十二貫匁大約七千尾、一尾平均重量三匁一分四厘強

内 譯

放養月日	重 量	尾 數	一尾平均重量
九月二十六日	一一貫〇〇〇匁	大約四、〇〇〇尾	二匁七分三厘
十月九日	一一貫〇〇〇匁	大約四、〇〇〇尾	三匁六分七厘

第III號池ヲ使用ス水深平均二尺乃至二尺五寸池底堅クシテ潜入シ難キニ依リ特ニ海藻石塊等ヲ投入セルニ晝間ハ之レ等ニ潛伏シ活動頗ル遲鈍ナルモ日暮頃ヨリ浮出シ盛ニ游泳索餌ス

放養後一週間以内ニ第一回放養分ハ二百匁許第二回放養分ハ八百匁許斃死セルモ其後ハ認メス
 餌料ハ生雜魚ヲ主トシ貝類蠶蛹等ヲ使用セシニ生雜魚及貝類ハ好ンテ捕食スルモ常ニ給餌シ難キニヨリ鰻ノ如ク漸時蠶蛹ニ代ヘントセシモ亦容易ナラス漸クニシテ捕食スルモノ有ルニ至リシモ体色黒變スルノ傾向アリシヲ以テ十一月初旬ヨリハ生雜魚ノミヲ給與セリ、投餌分量ハ一定シ難キモ十月中ハ毎日平均百五十匁乃至二百匁、十一月中三百匁乃至四百匁宛ヲ給與セルニ盛ニ捕食セリ

カクシテ十一月下旬マテ更ニ斃死スルモノナク各尾平均五匁強ニ成育シ成蹟可良ナリシヲ以テ更ニ十一月二十八日短期蓄養ノ上販賣ノ豫定ニテ三十七貫匁ヲ放養シ毎日生雜魚一貫匁許ヲ給與セルニ當初何レモ元氣旺盛ニシテ盛ニ捕食セシモ十二月下旬ヨリ漸減シ遂ニ一月中旬一時中止セリ

捕食度ノ減セシハ寒氣ノ爲メト最後放養ノ分ハ計ラスモ釣獲セルモノニシテ腹中釣鈎ヲ藏シ吐出シ得サルモノハ爲メニ漸時斃死スルニ至リシニ依レルカ如シ

サレハ一月二十五日ヨリ同二十七日ニ亘リ採捕販賣セルニ總量二十八貫三百三十匁ニシテ飼育期間中ノ歩減量九貫百匁(九月中約二百匁十月中八百匁十一月中四百匁(第三回放養後)十二月中三貫七〇〇匁一月中四貫匁)ヲ加算スルモ尙二十一貫五百七

十夕ノ不足量ヲ生シタリ
 歩減量ハ其都度記録セルヲ以テ大過ナキモノト信ス又販賣時魚体瘠瘦セス且隣池等ニ逃入セルヲ認サルニカク不足量多大ナル
 ハ果シテ何レニ歸因セルヤ或ハ盜難ニ依ルモノナランカ更ニ明年度ノ正鵠ナル試験ニ俟タントス
 本種ハ性狀鰻ニ酷似シ晝間ハ陰所ニ潜伏シ夜間水面ニ上浮上索餌スルモ捕餌等ノ動作騒暴ナルニ晝間ハ鰻ニ比シ一層運動遲鈍
 殆ント索餌セサルカ如シサレト大体鰻ト同様ニ養殖シ得ヘク飼育池ノ池底ニハ砂泥、海藻等潜所ノアルヲ可トスルカ如シ

四、せい、かい、ご (くらたひノ稚魚) (すいきノ稚魚)

本年ハ既テニ時期遅レ飼育期間モ少ナキニ依リ飼育試験ヲ施行シ得サルモ此種ハ從來カ、ル淺池ニ於テハ一般ニ越冬困難ナリ
 ト稱セラル、ニ依リ本年度ハ之レカ越冬試験ヲ爲セリ

越冬概狀

十月二十日及三十日兩度ニ於テ左記ノ通り放養セリ

種別	尾數	一尾平均体長(尾鰭共)	同上	体量
かい	四八〇尾	四寸五分		一、一、二、二分
せい	一〇〇尾	六寸八分		一、九、三、三分

試験池第五號水深平均二尺五寸乃至三尺、十二月下旬深所ニ三十坪許葦簀ニテ防寒ノ爲メ蔽ヲ爲セリ
 放養後ハ種魚少キト既テニ寒氣ニ向ヒ餘リ索餌セサルカ如キヲ以テ投餌セス
 而シテ十一月初旬ヨリ中旬ニ及ヒ斃死スルモノ多數ヲ生シ、かい、ごハ約二割餘せい、ごハ六割以上ニ及ヘリ
 其後二月上旬マテ殆ント斃死スルモノヲ見セサリシモ同月中旬ヨリ三月初旬ニ亘リ亦多數ヲ算シ三月二十日捕採セルニかい、ご
 二百十尾(四割五分)せい、ご十七尾(二割約)ヲ止メタリ

今斃死セシモノヲ檢スニ何レモ網獲セルモノナルヲ以テ放養時負傷セルモノ多ク甚シキハ放養後間モナク稍輕キハ陽春ニ向ヒ
 遂ニ斃死セシモノニシテ魚体何レカニ傷痕ヲ有セシモ殘存者ハ更ニ損傷ヲ認メサルニ依リ斃死ノ原因ハ放養時ノ負傷ニ依ルモ
 ノト思惟セラル

サレハ放養時可成無傷ノモノヲ撰ヒ殊ニ放養後暫時飼育シ且ツ池水面及池中ニ粗朶等ヲ以テ一層防寒ノ設備ヲ施サンニハ越冬
 ニ依ル歩減ハ殆ント無カラシムルヲ得ヘケン
 如上本年度ハ諸種ノ事狀ニ依リ一部ノ試験而カモ斷片的ニ終リシモ更ニ明年度ニ於テ繼續施行セントス

大正二年度觀測表摘要 (午前八時施行)

月次	種目	氣温		日別	試驗池水温	日別	金澤灣水温	日別
		平	最					
十月	最高	二二、四	四	二二、八	一	二二、八	一	
	最低	一三、〇	一	一二、七	二九、三	一三、四	二	
	平均	一六、一〇	一	一六、四〇	一七、〇二			
十一月	最高	二二、三	一	一六、六	七	一六、三	一	
	最低	六、五	二	七、一	三〇	七、五	三	
	平均	一〇、五六	二	一〇、七七	一	一、六、六	一	
十二月	最高	一二、三	三	一一、一	三	一一、六	三	
	最低	〇、九	二	〇、四	八	一、七	三	
	平均	五、一八	二	五、四四	八	六、二五	三	
一月	最高	八、九	一	八、〇	七	八、九	一	
	最低	〇、五	二	二、三	二	三、〇	三	
	平均	三、四六	二	四、五六	二	五、二〇	三	

十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	天候
同	曇	晴	雨	同	微雨	曇	晴	雨	同	曇	風向
同	北	東	北	北	東	同	同	同	同	北	風力
同	同	和	同	同	軟	同	和	同	同	疾	氣温
一四、八	一八、三	一六、六	一六、〇	一九、六	一六、八	一七、一	二二、四	一五、五	二二、〇	二二、三	水 温
一五、八	一九、〇	一六、八	一七、八	一九、〇	一七、三	一八、四	一九、四	一六、二	一九、三	二一、八	標準温度比重
一、〇一四〇五	一、〇一四二五	一、〇一二七五	一、〇一二六六	一、〇一二二三	一、〇一二二四	一、〇〇八三六	一、〇〇七五八	一、〇〇六六一	一、〇一六三四	一、〇一六八六	水 温
同	同	干	一八、〇	一九、二	一八、一	一八、四	一八、八	一六、二	一九、四	二一、八	標準温度比重
同	注水	同	潮	一、〇一五三一	一、〇一五四一	一、〇一六二三	一、〇一四五〇	一、〇一五六三	一、〇二一四一	一、〇一七三六	備 考
同	注水	同	同	一、〇一六四三	一、〇一五三一	一、〇一六二三	一、〇一四五〇	一、〇一五六三	一、〇二一四一	一、〇一七三六	

備考 日別トハ各月最高最低ヲ示セル日ノコト、平均ヲ示セル左下十、一ハ強弱ノコト、水温氣温平均數ハ零點ヨリ二位以下比重ハ零點ヨリ四位以下四捨五入比重ハ攝氏十五度ニ換算セルモノナリ

三	二
月	月
平 最 最	平 最 最
均 低 高	均 低 高
一、〇二三七五	一、〇二三七五
一、〇二〇八六	一、〇二〇八六
一、〇二二九八	一、〇二二九八
一、〇二三〇一	一、〇二三〇一
一、〇二〇〇六	一、〇二〇〇六
一、〇二二三三	一、〇二二三三
二 二 日	二 二 日
二 三 日	二 三 日
二 七 日	二 七 日
一、〇二四四四	一、〇二四四四
一、〇三三九九	一、〇三三九九
一、〇二二六九	一、〇二二六九
三 一 日	一 〇 日
二 五 日	二 二 日

一	十	十	十	月	三	二
月	月	月	月	別	月	月
平 最 最	平 最 最	平 最 最	平 最 最	種	平 最 最	平 最 最
均 低 高	均 低 高	均 低 高	均 低 高	目	均 低 高	均 低 高
一、〇二三六〇	一、〇二二九六	一、〇二二九六	一、〇二四三六	試 驗 池 比 重	一、〇一八〇九	一、〇一八〇九
一、〇二二五一	一、〇二二九六	一、〇二二九六	一、〇二四三六	日 別	一、〇〇六六一	一、〇〇六六一
一、〇二二七八	一、〇二二九六	一、〇二二九六	一、〇二四三六	金 澤 灣 比 重	一、〇一四一三	一、〇一四一三
八 二 日	一 三 日	三 一 日	二 五 日	日 別	六 三 〇 日	六 三 〇 日
一、〇二三九九	一、〇二二八五	一、〇二二八五	一、〇二四二九	金 澤 灣 比 重	一、〇一四一三	一、〇一四一三
一、〇二〇〇〇	一、〇一六四一	一、〇一六四一	一、〇一六九九	日 別	一、〇一四一三	一、〇一四一三
一、〇二三一六	一、〇一八一〇	一、〇一八一〇	一、〇二二二七	日 別	一、〇一四一三	一、〇一四一三
七 五 日	一 四 日	二 七 日	二 〇 日	日 別	一、〇一四一三	一、〇一四一三
一、〇二二二七	一、〇二二二七	一、〇二二二七	一、〇二二二七	日 別	一、〇一四一三	一、〇一四一三

二十六日	雨後曇	同	和	一一、三	一〇、六	一一、〇	一一、〇	一一、〇	一一、〇	注水
二十七日	曇後晴	同	同	一四、四	七、六	七、三	一〇、二	一〇、〇	一〇、〇	注水
二十八日	晴	北東	軟	七、〇	八、六	七、四	一〇、一	一〇、九	一〇、七	注水
二十九日	同	東	同	七、五	八、七	九、〇	一〇、二	一〇、四	一〇、四	同
三十日	雨	北	疾	七、六	一、二	一〇、六	一〇、二	一〇、八	一〇、四	同
三十一日	晴	東	軟	〇、〇	〇、五	一〇、四	一〇、〇	一〇、九	一〇、九	同

一日	晴	北	軟	七、五	七、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
二日	曇後雨	同	強	七、二	八、二	八、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	大雷雨
三日	晴	同	軟	九、八	八、〇	一〇、〇	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
四日	同	同	同	一〇、〇	一〇、二	一〇、〇	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
五日	同	同	同	一〇、〇	一〇、二	一〇、〇	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
六日	同	同	同	一〇、〇	一〇、二	一〇、〇	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
七日	雨後曇	同	強	一八、五	一五、七	一五、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜強風
八日	晴	西	強	一〇、四	一〇、五	一〇、四	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
九日	曇後晴	北	強	七、一	一〇、〇	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜強風
十日	曇	同	和	六、三	六、五	九、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
十一日	雨	同	同	五、二	五、五	七、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜雨
十二日	晴	同	強	五、三	五、五	六、八	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜雨
十三日	雨	同	軟	一〇、六	八、一	九、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜雨注水
十四日	晴	同	強	一四、五	一三、三	一三、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	夜雨注水
十五日	同	同	和	七、〇	六、三	八、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
十六日	同	同	軟	九、八	七、三	八、六	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
十七日	同	同	同	一、八	二、〇	一〇、七	一〇、二	一〇、二	一〇、二	注水
十八日	雨	北後北東	同	七、五	八、五	九、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
十九日	晴	同	和	五、五	七、三	八、六	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十日	同	同	軟	一四、二	一三、四	一三、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十一日	同	同	同	一、五	一、六	一、五	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十二日	曇後雨	同	同	一三、九	一三、五	一三、三	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十三日	雨後曇	同	同	一六、三	一五、五	一五、三	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十四日	曇後晴	同	同	一五、四	一四、五	一四、七	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同
二十五日	曇後晴	同	同	一四、四	一四、五	一四、七	一〇、二	一〇、二	一〇、二	同

餌鰻蓄養試験

本試験ハ前年度ニ繼承シ三浦郡小網代灣内ニ於テ張網遮斷法ニ依リテ施行セリ

設備

張網、綿網二號百掛二十二節五反横縫三割三分縮結コイルター染トナシ四尋毎ニ縦ニ綿網徑三分ノ力繩ヲ添フ

浮子部 浮子網トシテ徑二分五厘ノ綿絲網二本及徑五分五厘ノ棕梠繩ヲ併用シ周六寸ノ真竹三間切り三本宛ヲ束ネテ連結

シ浮子トナス、但シ東岸ヨリ七尋ヲ離シタル個所ニ於テ棕梠網ト綿網トヲ分チ綿網ニハ桐製小浮子ノミヲ附シ船ノ通路ニ當ツ

枕子部 徑三分ノ綿網及徑六分ノ藁網ヲ併セテ沈子網トナシ之レニ一尺五寸置キ鉛沈子五十クノモノ一個宛及一間毎ニ七

八百ク大ノ小石ヲ附ス其ノ他張網力網ノ下部ニ約二三十貫クノ石塊ヲ結付シテ網ヲ定着ス

兩岸部 張網ノ接觸スル兩岸岩盤ニハ竹箆ヲ蔽ヒテ張網ノ損傷ヲ防ケリ

換網ノ際ハ先ツ代網ノ上部ヲ浮子網ニ結ヒ付ケ網ヲ沈下シ既設ノ張網ヲ浮子網及力網ニ結ヘル大沈子ヨリ解キ同時ニ代網ノ力網ヲ結付ス

蓄養概況

五月八日諸準備ヲ終ヘタルニ本年ハ鰻豐漁ナルモ稀ニ見ル大鰻ノミニシテ餌鰻トシテ蓄養ニ適スルモノナク漸ク六月九日ニ至リ張網ヲ布設シ數回曳網ヲ以テ場内ノ害魚及雜魚ヲ捕獲シ六月十二日ニ至リ始メテ三十籠ヲ放養シ同十四日三十六籠、同十九日五十三籠、合計百十九籠放養セリ之レ等ハ總テ小網代灣ニテ捕獲後直チニ(十二日分地曳網十四日及十九日分巾着網ニテ捕獲)活籠ニテ運搬放養セリ

放養後ハ更ニ張網ニ頭突スルカ如キコトナク却テ張網ヲ離レテ散游シ僅カノ音響等ニモ驚怖散亂センカ一週間位ヲ經過セシ頃ヨリ群ヲナシテ場内ヲ回游シ投餌ノ際ハ直チニ集來スルニ至レリ

餌斜トシテ乾燥コマセヲ一晝夜水浸シテ使用セリ給餌ハ魚体ノ瘠瘦ヲ防ク爲メニシテ六月二十三日ヨリ始メ七月七日マテ毎日乾燥一斗五升宛ヲ一日二回分與シ七月八日ヨリ同二十日迄テ毎日一斗二升宛一日一回ニ投與セシカ常ニ捕餌盛シナリキ

蓄養鰻中捕獲放養ノ際負傷セルモノニシテ六月十二日及十四日分ハ十六日ニ、十九日分ハ二十二日ニ至リ各一割除斃死セルモ其後更ニ斃死スルモノナク元氣頗ル旺盛ニシテ七月初旬頃ハ大約百籠許ヲ認メシモ同月五日頃ヨリ潮水惡變シ十八日前後ニ於テ一層甚クシク爲メニ多量ノ斃死者ヲ生シ殘魚モ元氣衰退シ其ノ後漸次斃死スルモノアルニ至レリ

當時小網代灣内漁民ノ蓄養鰻百二三十籠許有リシモ其ノ八、九割ヲ斃死セシメタリト云フ

斯クシテ蓄養鰻ハ六月末ヨリ七月初メニ及ヒ餌料トシテ好適セルヲ以テ漸次販賣セントセシモ本年縣下沿岸一般ニ鰻頗ル豐漁ナリシヲ以テ常ニ價格低廉ニシテ試験池附近ニ在リテハ當時一籠壹圓貳拾錢乃至貳圓内外ニシテ餌鰻トシテ其ノ利ヲ得ルコト能ハサルノ狀況ナリシヲ以テ引キ續キ蓄養スルノ已ムナク漸ク八月七日及九日ニ亘リ靜岡縣下鰻漁業者ニ販賣セルニ僅カニ十九籠ヲ止メシハ遺憾トスル所ナリ

購入價格一籠壹圓七拾錢強販賣價格四圓替ナリキ
捕獲ハ同地漁民ノ小地曳網ヲ使用セリ

本試験施行期間中六月二十六日、七月九日、七月二十八日ノ三回換網セリ其ノ間六月二十八日ノ如ク強烈ナル波浪ヲ受ケシモ張網ハ何等損傷ナク尙今年度ハ代網ヲ用ヒシニ依リ昨年度ノ如ク蘚苔虫類ノ叢生ニ依リ海水ノ流通ヲ阻碍スルカ如キコトナカリキ

前記潮變ノ外鰻中ニ混在セシ鯖及「フグ」ハ常ニ釣獲ニカメタルキ爲メニ幾分ノ捕食傷害ハ免レスサレト本年度ハ水温上昇等ニ依ル被害ヲ認メス

試験ノ成績

本年度ハ浮子ヲ竹ニ改メシテ以テ浮力強大ニシテ波浪ノタメ水中ニ網ノ沈下スル憂ナク兩岸ノ岩盤ニ竹簧ヲ蔽ヒシニ依リ網ノ摩傷ヲ防キ得タリ而シテ二週間乃至三週間毎ニ換網ヲナセシテ以テ網質ニ支障少ナク二張ヲ有スル時ハ優ニ三ケ年間以上使用シ得ルカ如シ

蓄養鰻トシテハ一度籠等ニテ蓄養セルモノハ瘡瘦負傷シ容易ニ恢復セサルヲ以テ漁場ニテ捕獲後ハ成ル可ク早ク放養スルコト放養後張網ニ接觸スルコトナク一週間位ヲ經過セシ頃ヨリ場内ヲ回遊シ二週間位ニシテ活付状態トナル漁獲當時負傷セルモノニシテ全癒セサルモノハ放養後三、四日目ニ至リテ殆ント斃死シ其ノ後漸次斃死スルヲ見サリキ、カ、ル方法ニ依ル蓄養ハ從來ノ活籠ノモノニ比シ魚体肥満シ元氣旺盛ナリ

蓄養場内及ヒ籠中ニ混在セルフグ、鯖ハ常ニ注意シテ捕獲ヲ要ス

本試験ノ經濟關係ニ就キテハ鰻漁業者、鯉漁業者又ハ鰻仲介人ニ於テ營ムトキハ最モ良好ナル成績ヲ得ラル、モノト認メラル蓋シ原料購入ニ際シ鰻漁業者ハ先ツ自己ノ活籠等ニ必要數ヲ充シタル後ニ在ラサレハ容易ニ販賣セス斯ル時購入セント欲セバ自然高價トナリ其ノ後ヲ待タンカ時期ヲ失スルコト少ナカラサル等經營至難ナルニ反シ鰻漁業者ニ在リテハ漁況ニ應シ隨時蓄養シ若シ長期ニ亘リ成績不良ト認ル時ハ更ニ新シキ材料ト交換スルモ頗ル易々タリ

又鯉漁業及鰻仲介人等ハ鯉ノ漁況ニ通曉セルヲ以テ經營上時機ヲ逸スルコト少ナク殊ニ鯉漁業者ニ在リテハ一回出漁シ豐漁等ニ際シ更ニ直チニ二回出漁セントスル時ノ如キハ刻一刻ヲ競フモノナルニ餌鰻買集ノタメ時日ヲ空費シ遂ニ漁期ヲ逸スルコト少ナカラサルモ若シ自己ニ蓄養鰻ヲ有スル時ハ安堵シテ從漁スルヲ得可シ

サレハ如上設備方法明カニ且從來ノ活籠ニ比シ優良ナルヲ認メシニ依リ次年度ハ張網等ヲ貸與ノ上鰻漁業者ニ經營セシメントス

備考 大正元年度報告中ひとる虫類云々ハ蘇苔虫類ノ誤リニ就キ訂正ス

鎌倉郡水産會囑託試験

位置地勢及面積

鎌倉郡川口村江ノ島西北岸ノ三角形小灣入ニシテ口徑二十四間奥行十八間面積二百十六坪（但シ實用面積百五十坪）満潮時水深十五尺潮汐干満ノ差五尺位、兩岸岩盤ニシテ底砂質ナリ

設備

張網遮断法ニ依レルモノニシテ灣口南岸岩盤満水面上三尺ノ所ニ杭ヲ對立シ徑二分五厘ノ「ワイヤロープ」ヲ緊張シ之レニ張網ヲ懸垂シ浮子ヲ用ヒス

張網ハ綿網二號二十二節縱縫三割三分縮結コイル染料トス

浮子部ニハ一尋毎ニ金屬製小環ヲ附シ四尋毎ニ縱ニ力網トシテ徑二分五厘ノ綿網ヲ添ヘ力網ノ下端張網ノ底部ニハ同大ノ綿網ニテ張網揚卸網ヲ附ス沈子部ニハ徑二分五厘ノ綿網及徑八分ノ藁網ヲ併セ用ヒテ沈子網トナシ鉛沈子四十匁大ノモノ一尋間ニ六個ヲ附シ尙力網ノ直底部ニハ金屬製小環ヲ添付シタル二十貫匁許ノ土俵（石塊）ヲ沈下ス

張網布設ニ際シテハ上部ノ金屬製小環ヲ「ワイヤロープ」ニ貫ニ通シテ張網ヲ垂下シ揚卸網ヲ土俵ノ環ニ通シテ張網ヲ固定ス而シテ揚網ニ當リテハ揚卸網ノ一方ニ依リ網ヲ「ワイヤロープ」ノ部ニ引キ揚ケ後網ハ環ヲ滑ラシテ一方ニ集メ後取除ク裝置トス

如上設備完成セシテ以テ張網ノ經過ヲ試ミツ、アリシニ布設後三日目ノ夜間ニ於テ強烈ナル波浪ニ依リ杭ニ結付シタル部分ニ於テ「ワイヤロープ」切斷セラレ爲メニ張網過半破損セリ然レトモ經費等ノ關係ニ依リ遂ニ復舊スルヲ得サルヲ以テ殘網ニテ左記ノ設備ニ代ヘタリ

竹ニテ口、底及他ノ骨子ヲ作り之レニ張網セル圓筒形網籠ニシテ直徑一丈深サ九尺上端口部ニハ網ニテ蓋ヲナシ底部ハ特ニ二

Table with 12 columns (date, time, weather, wind, etc.) and 12 rows of data for various dates in March.

Table with 10 columns (species, quantity) and 10 rows of data for various species.

海洋観測表

備考 C.C.多量、C.稍多量、十少量、r.稀、r.r.極稀、ヲ表スモノトス
三月十七日分ハ標本ヲ失ヒシヲ以テ査定スルコトヲ得ス

Table with 12 columns (date, time, weather, wind, etc.) and 12 rows of data for various dates in March.

終

